29－W－8

速記雑感

HP謹記道楽

管理人 滝　鞍二

http://sokkidouraku.com/

簡単な角度の出し方について

平成15年12月11日

「中根式速記法概要」及び「中根式速記法入門」では、速記文字の方角について書いておりますが、30度、60度の角度について、簡単に線を引く方法があることをご存じでしょうか。

三角定規を２枚用意してください。「正三角形」のほうは45度です。

もう１枚の方は30度と60度です。この定規を裏返しに使えばＢ角30度の線が簡単に書けます。

速記文字の練習をする前に、三角定規を使用して「赤線」を適当な長さで書きましょう。そのまま定規を１センチずつずらして線を書いておくと、速記文字の角度がはっきりわかります。

なれてきたら、定規を使わなくても速記文字が書けるようになります。

中根式の質問について

平成15年12月12日

「中根式速記法概要」及び「中根式速記法入門」を掲載してから「掲示板」に中根式の質問を書き込みをされていることは、管理人として非常にうれしいことです。

私が速記を学習していたときには気がつかなかった、当を得た質問をされております。

私はこういう質問を大歓迎します。「教うるは学ぶの半ば」という言葉があります。私自身も勉強になりますので、大いに質問を書き込んでいただきたいと思います。

「掲示板」に質問の書き込みをされている方に対しては、私が知っている限りのことについてお答えをしておりますが、私が知らないことについては回答ができないこともあります。

「速記者名鑑」の利用方法

平成15年12月13日

日本速記協会では、速記70周年、80周年、100周年で「日本速記者名鑑」、120周年で「社団法人日本速記協会会員名簿」を発行しております。また、途中の年度でも「会員名簿」などを出しておりますが、ただの「会員名簿」と思っていたら、大きな間違いです。

「速記者名鑑」及び「会員名簿」の１冊だけでしたら、その辺にある「会員名簿」と同じ扱いになりますが、上記に紹介したものを机の上に並べて調査するとおもしろいことが発見できます。普通の人が見れば、何の変哲もない「会員名簿」ですが、実は速記関係の情報が凝縮されております。

速記者の名前、生年月、住所、電話番号よりも、もっと重要な情報が入っております。

「速記方式名」の部分です。〇〇式、××式、△△式等々の栄枯盛衰を知ることができます。

年代によって〇〇式が圧倒的に多い、少ない。何十年か後には、××式がふえている、将来的には△△式が残るだろう、ということも予測できますし、速記方式名などを調査することができます。

私は、これらの文献を「基礎資料」としてとらえております。

70周年の「名鑑」では、●●式であった人が、80周年の「名鑑」では□□式になっていたり、100周年の「名鑑」では▲▲式になっていることがあります。いずれも同一人物です。

中には▲▲式と■■式が同じものだった、という発見もできます。

また、速記方式の地域的な分布などもわかります。

「速記関係文献目録」の利用方法

平成15年12月14日

平成15年５月14日に、日本速記百二十年記念会より「日本速記年表／速記関係文献目録」が発行されております。

「速記関係文献目録」には、速記100周年以降に発行された「図書」「論文・研究等」「雑誌・新聞等」及び、速記100周年の「速記関係文献目録」で調査漏れのものがかなり追加されております。

昭和58年10月28日に日本速記百年記念会から発行された「日本速記百年記念誌」には「速記関係文献目録」が収録されております。

「速記関係文献目録」は、単なる「文献目録」ではありません。我が国の速記界120年間における知的な文化財産です。

「速記関係文献目録」には、実に様々な速記関係の書名が掲載されておりますし、各分野ごとに分類をしても内容が豊富です。

書名だけで、内容が十分にわかるものがかなりあります。

下記に紹介する分類法は、私が独自に作成したものです。

各方式関係、速記学関係（基礎資料・速記総論・速記評論・速記学・速記史・速記教育）、実務関係（反訳・議会関係・議会史）、ワープロ関係（速記関係者の著作のみ）、機械速記関係

などがあります。

これらの文献類を、全て収集することは難しいかもしれませんが、いろいろなルートを駆使してコピーなどで入手することをお勧めします。

速記が大好きな方なら、きっと興味がある本に出会えるかもしれません。

速記を題材とした小説

平成15年12月15日

小説の中には**速記を題材**とした作品と、**題材の中に速記を一部分**取り入れた作品があります。

速記を題材とした小説は、速記関係者でも余り知られておりません。

中根式速記協会機関誌「速記時代」には、花木かおる、花樹薫さんが、執筆されたものが掲載されております。

＊「速記時代」は、昭和62年10月号まで、月刊誌として発行されていました。現在は「休刊中」です。

★椰子と速記と兵隊（昭和37年11月号～昭和38年３月号）
★速記の条件 第１部（昭和38年４月号～昭和38年12月号）
★わんぱく速記部（昭和39年１月号）
★速記の条件 第２部（昭和39年２月号～昭和39年５月号）
★熱血感動よみもの＝旗紅に燃ゆるとき（昭和39年７月号～昭和39年10月号）
★ぼくはノートの王様だい（昭和39年12月号～昭和40年３月号）
★合歓の花咲けど（昭和40年５月号～昭和40年７月号）
★青い空の速記（昭和40年１月号～昭和42年７月号）
★負けて勝つ（昭和43年３月号）
★銀座の飛び魚（昭和43年７月号～昭和44年９・10月号）
★燃ゆる太陽（昭和45年１月号～昭和50年１・２月号）
が掲載されていました。

「速記時代」には、その他にも

上談 下談 作
★インツクキ君（昭和32年６・７月号～昭和33年２月号）
いわたに・さだよ 作
★ソツキ・スキーさんの旅（昭和32年11・12月号～昭和33年５・６月号）
地方の一高校生 作
★速記部誕生（昭和43年４月号～昭和43年５月号）
↑現在、速記界にいる方なのでプライバシー保護のために、名前は伏せておきます。
などがあります。

以上は中根式関係者が書いたものです。

また元・衆議院速記者養成所の教官・谷田達彌 作
★白い前掛
↑は、速記関係者にはお勧めの一作です。
などもあります。

速記の本は貴重品？

平成15年12月17日

「日本の速記」の平成15年12月号には「速記ミュージアム構想の提唱」について掲載されておりました。その中で
「速記の本が貴重品になってきました」
と書かれておりました。

確かに速記の本を書店で見つけることが難しくなっております。

私が住んでいる「〇〇市中央図書館」のホームページで速記関係の本が何冊ぐらい置いているのか検索してみました。

検索の結果は書庫に眠っているものを含めて８冊でした。

人口が35万人の割合には、速記関係の本が少ないことに驚きました。

古書店でも、速記関係の本を見かけることができなくなりました。

１．速記の本が売れないから、店頭に置かない。
２．速記の本を仕入れることができない。

その辺の事情はよくわかりませんが、一般のルートで速記関係の本を入手するのが難しくなりました。

速記の本は「貴重品」で骨董的な価値があるとも言えます。

一般書店や古書店で、速記の本が簡単に入手ができなければ、速記を学習したくても本がないのですから、速記学習者が減るのは当然です。

本は買うもの？借りるもの？

平成15年12月17日

何の本でも、共通して言えることですが、本は「買うもの」「借りるもの」のどちらでしょう。

私が今まで図書館から本を借りたのは１回だけです。

私は欲しいと思った本を購入しております。もし、その本がなければ、１冊コピーしております。

借りた本は、期限が来たら返さなければなりません。

本を買っておけば、火災に遭わない限り、一生涯手元に置けますし、必要になった場合にはいつでも読めます。

今すぐに、その本を読むかどうかは別にして、何カ月後、あるいは何年後に読むかもしれませんし、一生涯読まないかもしれません。

私は速記関係の本に関しては「貪欲」なようで、何の分野の本でも興味を持ったら自分のものにしたい、という欲求が強いようです。必要がなくなったら処分します。

速記関係の古書収集は「趣味の域」か「道楽の域」かその線引きはわかりませんが、特に速記関係の本だけは集まりましたし、速記仲間からいろいろと提供いただいてお

ります。
　まだ、速記関係の本だけは処分したことはありません。

「速記道楽」について

平成15年12月18日

　小池喜三郎著「最新式グレッグ速記法」（昭和31年10月20日　初版発行　研究社出版株式会社）という英文速記の本をご存じの方も多いと思います。
「はしがき」には

> 私は道楽に英語の速記を始めた。こんな面白い便利なものはない。殊に生きた英語を使用するものにはぜひ必要である。道楽に始めたものが止められなく、終に本物になって、今は生きた英語を使う上にこんなに役立ち便利なものはないと、自分ながらも意外とするところである。
> 〔原文のまま〕

と、書かれております。グレッグ式を道楽で始めたというのはすばらしいですね。
　元祖「速記道楽おやじ」？と言っても過言ではないでしょう。
　私が「最新式グレッグ速記法」を入手したのは、昭和43年です。グレッグ式を勉強するためではなく、英文速記に興味がありました。
　この本は、グレッグ式を日本語で解説している本です。私が東京に住んでいるときには神田の古書店でよく見かけました。

得をしたのはだれ？

平成15年12月19日

　昭和56年５月16日に、東大・赤門前の古書店で「早稲田式速記講義録」（昭和30年版）の第１巻～第９巻まで入手しました。
　ところどころ、赤線を引いている程度です。前の持ち主が勉強をした形跡があります。
　本の保存状態はよいほうです。
　古書店では最上段の右端に「早稲田式速記講義録」９冊が置いてありました。客が一番目がつく場所ですね。
　店主に値段を聞いて驚きました。何と500円です。店主に理由を聞くと「売れないから」とのことでした。
　現在では、速記の本は貴重品？になりつつありますので、「お宝」かもしれません。
　さて、この買い物で一番得をしたのは「古書店」？「道楽兄ちゃん」？どちらでしょう。
＊当時は「おやじ」ではなく、まだ30歳の「青年」？です。

速記用シャープは「お宝」？

平成15年12月20日

「日本の速記」の平成２年１月号に、速記用シャープ（日進堂文具株式会社製）OTTO（オットー）が製造中止のお知らせが掲載されております。

もう「幻の速記用シャープ」という感があります。現在、この「速記用シャープ」を使用している速記者は少ないと思います。

ましてや「未使用」ともなれば、「幻の一本」？で、速記界では「お宝」？になりそうです。

初期の「速記用シャープ」は、芯の太さが1.1ミリという特殊な「芯」で日進堂が製造していました。

種類も１号～５号までありました。

途中から0.9ミリの芯が使える製品が一般化されました。

私は日進堂以外の製品を使用したことはありませんが、他にも、共立文具製作所の「エスプリ」や「パーリアメント」などがありました。

年代的には、エスプリが昭和33年10月ごろに広告が掲載されておりますし、オットーが昭和40年５月ごろから広告を掲載しています。PARLIAMENT（パーリアメント）は昭和７年９月ごろからです。

ステノワードも「お宝」？

平成15年12月21日

平成３年10月に早稲田速記で「ステノワード」を開発しました。「スピードワープロ」の前身です。

まだワープロ専用機が盛んな時代です。

本体はデスクトップ型の「キヤノワードα370」です。ＪＩＳのキーボードを接続すれば、何の変哲もない普通の「ワープロ専用機」です。

ステノワード用のキーボードを接続すれば見事に「ステノワード」へ変身！というマシンです。

本体の「キヤノワードα370」は平成３年５月に発売されております。

平成６年３月にＰＣ-9800シリーズ（ＮＥＣ）用のキーボードが発売されました。

現在ではキヤノンα370用の「ステノワード」を持っている人はいないと思いますが「ステノワード一式」（本体、キーボード、操作マニュアル３冊、テキスト４冊）は「幻のお宝」？になるんでしょうね。

機械速記？電子速記？における草創期のマシンですから「博物館」行きでしょうね。

基本文字の覚え方

平成15年12月21日

基本文字の覚え方には、いろいろな方法があります。テキストを見ながらノートに基本文字を書く練習をすることはもちろんですが、私が速記学習時代に行った方法をご紹介しましょう。

まず、模造紙を２～３枚を用意します。

模造紙に鉛筆などであらかじめ基本文字を書きます。

模造紙にマジックで速記文字を書きます。２～３枚を書いて、一番きれいに書けたものを使用します。

ここまでは、何の変哲もない「基本文字表」です。これは学校祭などで壁に貼っている展示物と同じです。

でき上がったら天井に画鋲で貼りつけます。基本文字表を貼りつける位置は寝ている頭の位置です。

目が覚めたときに、最初に見るのが「基本文字表」です。また眠るときには、１日の最後に見るのも「基本文字表」です。毎日、最低10分間は眺めるように習慣づけます。

これを何カ月間を続けると「基本文字」は自然に覚えることができます。

速記文字を改良する方法

平成15年12月23日

速記を練習していると必ず書きにくい速記文字、間違いやすい速記文字などにぶつかります。これらを解決するには下記の方法があります。

１．同式の中でいろいろな資料を収集する。
２．自分で自由に速記文字を改良する。
３．他式の資料を参考にする。

これらの方法には一長一短があります。

１．の方は、他の資料を収集することに時間がかかりますが、好きな速記文字を選択できます。

２．の方は、時間をかけて自分で好きな速記文字に改良しても、既に他の人が使用している場合があるので、余り効率的な方法ではありません。

３．の方は、習得をした方式に関係なく、他式の法則を取り入れる方法ですが、現在では、速記関係の本などはなかなか入手が難しいので、この作業は困難になりつつあります。

４．手っ取り早い方法は、速記法則を熟知している指導者に聞くことです。

共通して言えることは、いずれも自分が習得をした速記法則に熟知していなければできません。

中根式創案当時の速記法体系

平成15年12月24日

中根式創案当時の速記法体系は、中根式関係者でも余り知られていないので簡単に紹介をしましょう。

中根正親著「中根式日本語速記法（中根式速記法講解)」には、

１．清音
２．濁音、半濁音
３．長拗音
４．インツクキ法
５．加点インツクキ法
６．助詞

までが掲載されております。

テキストには掲載されておりませんが、大正８年８月に行われた講習会では、上記のほかに

１．上段
２．下段
３．最大線
４．畳字
５．ラ行短縮
６．併用略字

が指導されております。

現在では、廃止をされた法則もありますし、令弟・中根正世先生によって法則の見直しが行われて大成されました。

後には中根速記学校及び各地の研究者によって法則的な研究が行われて、現在に伝えられております。

各行縮記法

平成15年12月25日

昭和50年代の前半だっと思いますが、学習院大学の大学祭で速記研究会の展示室へ行きました。当時は中根式を採用しておりました。

配付用のパンフレットには「憲法」という速記文字が最大線で書かれていました。

当サイトの「中根式速記法概要」“25. ９ｕ略法”にも掲載しております。

標準的な中根式において「ケン」の最大線は、正側に小円をつければ「研究」。負側に小円をつければ「憲法」と読みます。

私は学習院大学速記研究会の３年生に

「どうして、これで憲法と読むのか」

と聞いたら
「昔から書いています」
という返事でした。
　速記文字は「ケン」ではなく「ケホ」です。「中根式速記法概要」24．各行縮記法における、ハ行縮記法の「逆大カギ」です。
　なぜ、ハ行縮記を「逆大カギ」にしたのでしょうか。この書き方は昭和６年12 月発行の森卓明著「超中根式速記法」まで遡ります。
　超中根式でもインツクキ法を「中段」に使用しますので、和語縮字法は「上段」へ書きます。
　カ行＝小丸カギ、サ行＝大円、タ行＝有尾小円、ナ行＝小円、ヤ行＝大カギです。
　残ったハ行、マ行、ラ行をどのように処理をするのか。大カギと小カギを反対側の形にすれば逆大カギ、逆小カギという発想になると推測ができます。
　「ハ」を深めに書けば「逆大カギ」になります。「マ」を短くして深めに書けば「逆小カギ」になります。
　ラ行は下段に書きますが、法則を上段へ設定しているので、法則的には逆記する符号がありませんので、線の長さを変えて、短線は最小線（1/2)、長線は最大線（1.5倍）にしたことが推測できます。
　また「上段」では、「音訓換記法」（訓音換記法ともいいます）を廃止すれば、和語縮字法として法則的にも抵触しませんし、中間小カギ略法も有効に使えます。

速記文字の鑑賞　その１

平成15年12月25日

　絵画鑑賞、音楽鑑賞のように、速記にも「速記文字鑑賞」があります。
　書かれた速記文字を見ながら線の流れを楽しむ方法ですが、第三者が書いた速記文字も含めて、「きれいな線を書いている」「速記文字が汚い」という類のものですが、じーっと速記文字を見ていると、いろいろなことを楽しむことができます。
　書かれた速記文字だけではなく、次の速記文字へ移るときの角度、速記文字の書き方、速記文字の流れ方などを楽しむ方法ですが、その速記方式が読めなくても自然とわかるようになります。
　例えば、他式の実演を見ていても、
　１．乱れて書いている。
　２．余裕を持って書いている。
　３．この文章は暗記をしている。
　４．ぶっつけ本番で書いている。
　５．速記文字を抜かしている。
というところまでわかるようになります。

また、外国語が読めなくても、外国語の速記文字を鑑賞する楽しみ方もあります。
私の「悪趣味」ではありませんので、誤解をされませんように。

「速記雑観」について

平成15年12月26日

友野茂三郎先生述「速記雑観」（衆友会　昭和12年11月28日発行　Ａ５判 165ページ）という本を知っている方は少ないと思います。この本の編集・発行人は西来路秀男さんです。

早稲田式の通信教育テキスト「早稲田式速記講義録」第６巻（昭和30年２月25日発行）の631ページ及び文部省認定通信教育テキスト「早稲田速記講座」第６巻（昭和35年６月１日発行、昭和44年３月までこのテキストを使用）80ページに「速記作法」という文例が掲載されておりますので、早稲田式の通信教育修了生は、必ず「速記雑観」の一部分は読んでいると思います。

この本は友野茂三郎（明治１年８月19日～昭和17年２月３日、若林玵蔵門下、元衆議院速記士、衆議院速記者養成所教官）さんのお弟子さんたちが古稀祝いのためにまとめたものです。

内容は70年近く前のものですから、全体的な速記に対する考え方が現在とはかなり違う部分もあります。

小学館の「日本国語大辞典」によると

雑観……さまざまな観察。また、それをまとめたもの。

雑感……種々さまざまな感想。いろいろなまとまりのない感想。

と書かれております。

「雑観」と「雑感」では、意味が違います。

早稲田式のテキストでは両方とも「速記雑感」になっておりますが、原著では「速記雑観」です。日本語の使い分けは難しいですね。

ちなみに、私が書いている下手な原稿は「雑感」の方です。

速記文字の鑑賞　その２

平成15年12月26日

速記文字の鑑賞について、「その１」で書きましたが、他式の実演を見ていて、なぜ「乱れている、抜けている」とわかるのか、簡単なコツを書きましょう。

正円幾何派における速記文字は、ほとんどの方式では直線符号、曲線符号は図形的には同じです。

曲線符号には、曲線の浅いものと曲線の「頭部が深いもの」及び「尾部が深いもの」があります。

各方式の違いは角度・長さ・単線・複線です。どの音に対して、どの線を当てているかぐらいです。

1．各方式の「基本文字」を把握しておきます。
2．いろいろな速記方式の本を集めて各方式のイメージを把握します。
3．いろいろな速記方式の文例などを見ておきます。
4．動体視力を訓練します。
5．朗読文と書いているときの速記文字を目で追っていきます。

動体視力は速度練習をしていると自然と身につきますが、いろいろな速記方式の基本文字を書けなくてもある程度記憶しておきます。

なれてくると、訓練次第では他方式の実演を見てもわかるようになります。

１ｕ線を書くコツ

平成15年12月27日

Ｂ角は法則的には30度の線ですが、１ｕで「タイ」「サイ」「セイ」の速記文字を書くときに、30度のままで書くとＡ角の「カイ」「マイ」「ナイ」と誤訳するおそれがありますので、少し立て気味に書きます。

１ｕの速記文字を書くときには45度ぐらいで書きます。左上から右下へ書く線は60度の線はありません。

Ｂ角では３ｕの速記文字を寝かせすぎると、速記文字が乱れた場合にはＡ角の速記文字と誤訳するおそれがありますので、30度～45度の間の角度で書きます。

６ｕは30度のままで書いても誤訳することはありません。

Ｅ角の１ｕ線も45度ぐらいで書きます。３ｕ線も30度以下の角度で書くと速記文字が乱れたときにはＡ角と間違える可能性がありますので、速記文字を余り寝かせないよう書きます。

速記文字の鑑賞　その３

平成15年12月28日

速記文字の鑑賞における一部分になりますが、速記学習者の原文帳を見るのは、別の意味でも楽しいものです。

特に速記学校で指導していると、生徒が原文帳にどんな速記文字を書いているのか見たくなります。

生徒には下記のタイプがあります。

1．速記文字を盛んに質問する生徒。
2．速記文字を全く質問しない生徒。
3．原文帳を見せたがらない生徒。

指導者の中には、１．のタイプを嫌う人もおりますが、私は速度に関係なく「速記に対する意気込み」を重要視しますから、こういう生徒がかわいいですね。

２．のタイプの生徒は、指導された「速記法則を理解しているのか」それとも「やる気がないのか」非常にわかりにくいタイプです。

３．の生徒は、原文帳を見せるように言っても拒みます。本人がトイレへ行っている間に原文帳を開いて赤を入れたら怒っていました。

私に頭をこづかれた生徒は後にも先にもこの生徒だけです。今でもこの生徒の顔と名前を覚えておりますが、プライバシー保護の観点から名前は伏せておきます。

他の生徒は、素直に原文帳を見せてくれましたので、速記文字の添削ができました。

生徒の原文帳を見ると、この言葉に対しては、こんな速記文字を書いているのか、ということがわかります。

特に高校速記部出身者の速記文字はおもしろい書き方をしておりました。

速記に付随するもの

平成15年12月29日

中学、高校時代は学校の勉強嫌いだった人間が、こんなことを書くのも妙な話ですが、私は遊び半分、興味半分で速記を学習していたら、いつの間にか速記界にどっぷりハマっていました。

速記にハマれば自然に他の分野のことにも興味を持ちます。

速記と一番近いものは、言うまでもなく「国語学」関係、つまり「日本語学」関係の本などを収集するようになりました。

「国語概説」「国語史概説」「国語音声学」「国語学原論」等々が書斎の本棚に収まっております。

また「教育原理」「教育心理学」等も読みましたが、「生涯学習」にも興味を持ちました。

一応、小説も含めて興味があるいろいろな本だけは読みました。特に速記教育と関係があるのは「生涯学習」です。

勉強嫌いの私が通信教育で修了したのは、「速記」と「生涯学習指導者養成講座」だけです。

速記の効用かどうかわかりませんが、下手ながらも文章を作成するようになりました。私は昔から「作文」は苦手なほうで、今でも原稿作成は苦手な分野なんですね。

平成15年を振り返って

平成15年12月31日

ことしは念願のホームページ「速記道楽」を開設できました。５月中旬から速記仲

間には極秘裏で作業を進めてきましたが、８月31日にホームページを公開しました。
ホームページ開設以来、アクセス件数は予想をしなかった6,000を４カ月間で突破しました。これも読者のおかげであり、管理人としてうれしいことです。
当サイトでは「速記方式を超越して、速記を道としてとらえて大いに速記を楽しむ」ことを基本理念として運営しております。
またプロ・アマを問わず「速記の腕前は一切通用をしない」サイトです。「速記に対する熱い情熱のみが通用する」サイトです。これが当サイトの「基本理念」でもあり、速記に対する「根本思想」です。
当サイトの内容は、学習者用に「中根式速記法入門」コースも設置しておりますし、独習でも速記を学習できるようにしております。
速記を道として楽しむために、いろいろな角度から速記に関する文献等や、速記随想なども掲載しております。
速記関係のサイトですから、なるべく図版等を多くしております。
速記関係のサイトで、**全く速記文字を掲載していないと、読む方もおもしろくありません。**逆に**速記文字だけを掲載されていても、読む原稿がなければおもしろくありません。**
この辺のバランスをどのように調整するかが、管理人の個性があらわれるところだと思います。
ホームページでは「管理人の顔が見えない」とよく言われますが、どんな性格の人がホームページの管理をしているのか、という不安もあると思います。
当サイトでも「管理人のプロフィル」を掲載しておりますが、ほとんどの速記関係者は「ハンドル名」と「原稿の書き方・内容」を見ただけで、だれが管理人かわかっておりますので、管理人の顔写真は「不要」だと考えております。
当サイトでは、４カ月間で膨大なホームページになっております。全ページを出力しますと40ミリの厚さになりますから、分量的にも読み応えがあると思います。容量の10ＭＢを使い切るのも時間の問題です。
これも「道楽だからできる業」かと考えております。これからも新しい企画などを考えておりますので、来年もお楽しみください。

新しい年を迎えて

平成16年１月１日

新しい年を迎えました。
大正３年５月10日に、中根式速記法が大阪毎日新聞に発表されてから、ことしで満90年になります。
我が国の速記界は121年の輝かしい歴史を有しております。速記界で90年の歴史を脈々と受け継いでいる方式が少なくなりました。

中根式は組織として「中根式速記協会」がありますが、90年の歴史を持っているのは中根式だけです。

明治15年10月28日に、田鎖綱紀翁が速記を発表されてから、数多くの速記方式が生まれては、自然消滅していきました。

なぜ、多くの速記方式が自然消滅したのでしょう。原因は下記のことが容易に推測できます。

1．時代に合った速記法則体系を構築できなかった。
2．指導者となるべき後継者を育成できなかった。
3．全国各地に支部等を設置して組織力を持たなかった。

等々が挙げられます。

幸いに中根式は多くの研究者・指導者・後継者に恵まれた方式です。

中根式は創案されてから現在まで、基本的な法則（骨格）を変えることなく、新しい法則を肉づけしながら時代とともに進化してきました。

「速記資料館」の「通俗中根式速記法」における“はしがき”及び“識者に檄す”の一文を読めば、中根正世先生が熱誠を持って速記の普及に専念されたことが理解できると思います。また中根式が目指した理念やスローガンなどが理解できると思います。

私も高校時代に中根正世先生の「速記の講演」を北海道〇〇商業高校で聞きました。そのときの録音テープを大切に保存しております。

書き初めについて

平成16年１月２日

１月２日は「書き初め」をする日ですが、書き初めをするのは書道の世界だけではありません。

速記界にも「書き初め」があります。書道のように大がかりにやりませんが、個人でやるものです。

速記界では「書き初め」を行っている人は少ないと思います。

手書き速記だからこそ「書き初め」ができる楽しみがあります。

内容は書道のように「お習字速記」だけではなく、速記の場合は「速度練習」も含んでいるところが大きな違いです。

速記の場合には「書き納め」というのもあります。

これは大晦日に「速度練習」をします。

１年間を「速記で始まり、速記で締めくくる」ということです。

速記文字カードについて

平成16年１月４日

「中根式速記法入門」で「カード練習」について説明しておりますが、中根式関係ではいつごろから行われているのか文献を調査しました。

森 卓明著「超中根式速記法」（昭和６年12月５日 初版発行 京都速記研究所）の13ページから14ページに書かれております。

（＊現代表記に改めました）

五十音字の覚え方

アイウエオの順序ならスラスラ書けるが、ふと任意の一音を言われたときには書けないということが初歩の間は多い。それは五十音図としては覚えているが、一字一字は覚えていないからである。ゆえに五十音どの音を言われても間髪を入れず、サッサッと出るようになるには五十音図の記憶と別個に次のような方法によって一字一字確実に覚え込む必要がある。

次のひな形のような、適当な大きさのカードを五十音字の数だけつくり、表面に速記文字、裏面に仮名文字を書いて、それをよく切って速記文字の書き方のときは、仮名文字を見て、読み方のときは速記文字を見て、見ると直ちに反射的に書けまた読めるようになるまで練習を繰り返すこと。

本方式は基本文字なかんずく五十音字が基礎であるから、これを十分覚えられぬうちに次に進んではならぬ。

と書かれております。

中根正世著「中根式速記」（昭和27年４月 初版発行　東京中根速記学校）の53ページには「速記仮名カード」について説明があります。

中根康雄著「速記マスターノート」（昭和48年６月25日発行）では「基本文字カード」と呼ばれております。

川口渉著「早稲田式速記講義録」（昭和30年５月25日発行）第１巻19ページ及び「早稲田速記講座」（昭和35年８月１日発行）第１巻の26ページにも「暗記カード」のつくり方が掲載されております。

昭和40年ごろには「暗記カードのシオリ」（Ａ５判４ページ）の説明書と、「基本符号137」のカード（Ａ５判４枚）がありました。線に沿ってカーッターで切ればできあがりというシロモノです。

「カード」の呼び方が違うだけですが、正確には「カード練習」がいつごろから行われていたか不明ですが、昭和６年以前に行われていたことだけは事実です。

縮記法と略記法

平成16年１月５日

速記法則は「基本文字」と「省略法」で構成されております。

「基本文字」は、速記の根幹をなすものです。基本文字が「単画派」「折衷派」「複画派」で速記法則の構成が変わってきます。

「基本文字」は、その方式の「顔」と言ってもよいでしょう。

昔は「基本文字」と「略字」だけで構成されていた方式がありました。

「略字」が多い速記方式は、学習が大変なことは言うまでもありません。頼りになるのは記憶力だけです。

中根式の省略法は「縮記法」と「略記法」で構成されております。

「縮記法」は対象となる音をサイン化して、速記文字の画数を減らす法則です。

インツクキ法、各行縮記法などがあります。

「略記法」は、任意の音を抜き出して簡単に書く法則です。

中間小カギ、ヒモカギ法、交差・平行法などがあります。

速記は基本文字の上に「省略法」で構成されておりますので、速記法則を運用しながら書いていきます。

「省略法」が適用できない場合は「略字」をつくりますが、「特殊略法」というように法則化してしまいます。

各速記法則は約束事ですから、法則の運用方法（特色）がわかれば、該当する速記文字を当てはめていきます。

＊中根式では「縮記法」「略記法」という用語の概念がありません。

速記の適不適

平成16年１月６日

速記学習では、どういう性格の人が向いているのか議論がわかれますが、アマチュア速記ならば特に問題はありません。

１．速記文字を覚えることが苦痛にならない。

基本文字だけは暗記をしなければなりません。

２．識字能力がある。

速記文字の長短、角度、曲線・直線の区別ができることです。

３．国語力は速度練習をしていれば自然と身につきますので、本人の努力次第です。

速度練習は単調なものですが、この段階を楽しく練習ができるかどうか。苦痛に感じるか、楽しく感じるかです。速度練習では個人差が出ますので、自分のペースで練習が継続できるかどうかです。

書けないときには幾ら練習をしても書けないので、辛抱強くコツコツ練習ができなければいけません。

４．速記法則を覚えることが楽しいか、苦痛であるかも将来的に大きく左右します。

食わず嫌い

平成16年１月７日

ほとんどの速記関係者は「〇〇式の本だから読まない」「速記方式が違うから読んでも意味がない」と考えております。

速記文字を学習するには、方式が違うから参考にならないから読まない、というのは大きな間違いです。

学習する速記文字が違うだけで、速度練習の方法は全く同じです。また、方式が違っても、速記文字以外で単語、短文、文例などはそのまま使えます。

速記文字の部分を抜かして読んでも、速記学習には必ず参考になることが書かれております。

最近はインターネットの普及で、必要な情報が簡単に入手できるようになりました。

速記関係のホームページも簡単に閲覧ができるようになりました。

当サイトでは「速記関係」と「生涯学習関係」のサイトをリンクしております。

昔は、必要な情報を入手するには、いろいろな速記関係の本をあさりましたが、共通していることは速記の学習方法です。

他方式の速記文字のつなぎ方などを学習するのもおもしろいものです。

１つの方式を学んだだけではわからないことが多くありますが、他方式を見ることによって線に対する考え方が変わってきます。

ツ尾音記法

平成16年１月８日

武部良明著「日本速記方式発達史」（昭和17年11月25日発行）の203ページ23行目から204ページ２行目に「インツクキ法」の説明が書かれております。

……「しこうして２音目の場合には逆記法を用いたのである」これが有名な「インツクキ法」となってあらわれたことになる。

氏は尾音の逆記形として、イ…大円　ン…小円　ツ…頭部小点　チ…有尾小円　ク…小カギ　キ…有尾大円　を採用し、もってガントレット式の「チクシ法」の内容的拡張を行ったが……

と書かれております。また211ページ５行目から８行目にかけて

……中根式発表当時のような逆記形はその後どうなったかというと、中根正世氏に継がれてからは〔ツ〕の単群の最初に来た形（逆記されるので２音目に当たる）が小楕円に改められ、また〔ク〕の小カギが小角カギに変更された（通俗　中根式速記法）……

と書かれております。

武部良明著「国語速記史大要（下）」の６ページ７行目～８行目にも

イ…大円　ン…小円　ツ…**小点**または空間　ク…小カギ　キ…有尾大円または有点

大円　チ…有尾小円または有点小円
と書かれております。
　中根正親著「中根式 日本語速記法（中根式速記法講解）」（大正５年２月発行）54ページ10行目には
　小楕円をつける
　速記文字の文例にも「小楕円」になっております。
　「日本速記方式発達史」で書かれている２音目のツは、頭部小加点（頭部加点）についての出典が明らかにされておりません。大正３年５月～大正５年２月までの間に、「頭部加点」から「小楕円」へ変更されたと推測するしかありません。
　２音目が「頭部加点」で、３音目以降が「尾部空間」になっていることは、図形的には一致しております。
　この「頭部加点」の方法は、中根速記学校で指導している「○ッ○リ」の書き方として中根速記協会機関誌「中根式速記」（昭和11年５月号）に紹介されます。
　また中根速記協会機関誌「速記研究」（昭和16年３月号）に「加点字省略考」（ウスヌムル）として北村薀雄先生によって紹介されております。

速記方式は統一するもの？

平成16年１月９日

　速記界では「統一式」云々という話が出ておりますが、現実的には「統一式」をつくって指導することは難しいと思います。
　既存の速記方式には、創案当時からの「基本理念」があります。
　中根式には「立案の根本方針」がありますし、早稲田式には「早稲田式速記文字創案当時の五大綱領」があります。
　速記指導者が自式の「基本理念」を捨ててまで、新しい「統一式」を指導することは、簡単に片づく問題ではありません。
　１つの方式でさえ「統一ができない」のに、使用方式を捨てて、新しい「統一式を指導せよ」と言われても無理難題な話でしょう。
　指導者自身が書いたことのない方式を指導すること自体、自信を持って速記指導に当たれないものです。また、同じ方式においても、速記文字をどのように処理するかは人によって違います。
　人によって速記文字の好みがありますし、万人が満足できる「速記法」があるのでしょうか。
　仮に「統一式」ができたとしても、テキスト以外に、いろいろな参考書、詳細な指導書も必要になるでしょう。

「速記用語」について

平成16年１月11日

速記界には独自の「速記用語」が多く存在しており「国語辞典」にも掲載されていない専門用語が多くあります。

速記界では、ほぼ同時期に「速記用語辞典」が発行されております。

１．「速記用語辞典」紀州速記研究所（平成８年12月発行）Ｂ５判 132ページ。約569語

２．「速記用語辞典」速記懇談会（平成９年２月発行）Ｂ５判　100ページ。約610語を掲載しております。

いずれの「速記用語辞典」にも、各方式の「速記用語」が説明されているので、速記に興味がある方には「必携の書」ですが、持っている人は意外と少ないと思います。

「速記用語辞典」を読むだけでも、速記に対する知識が深くなります。

速記サイトでは重要な「速記用語」の説明を掲載しているサイトもあります。

当サイトでは「速記用語」の説明を掲載しておりませんが、随所に速記用語を入れております。

当サイトを訪れる人は「速記用語」について説明をしなくても、既に「速記用語」を熟知している、という前提で原稿を作成しております。

特殊略法

平成16年１月13日

森卓明著「超中根式速記法」では

特殊略法

和語縮字法のなかった時代、何とかして簡単に書ける方法はないかというところから生まれたのが特殊略法である。これは初期時代からあったもので、応用範囲も非常に広い、最も頻繁に出る言葉に対してこの略法を施すことが有利である。

法　則

語の主要音をとりこれを中間小カギ（助詞ニに相当する）をもって連結する。

応　用

漢語

本来和語の略法であるが、漢語の略法にも応用できる。例えばソウリダイジン（総理大臣）は、ソウ（に）ダと書く。

注　意

１．和語の場合は、和語縮字法でうまく行かない場合、もしくは、余りに頻繁に出る言葉は正直に書かなくてもわかるような言葉に限り、この略法を応用すること。

２．漢語の場合は、最初の音が１音の場合以外は必ず、長音、拗音もしくはインツクキ符号をつけたまま書くようにしなければ、後で判読に骨が折れる。

３．この略字は必ず中段に書く。
４．助詞を要する場合は助詞法を適用する。
５．特殊略法の名は初期時代の名称で、今日中根正世氏の「通俗　中根式速記法」には第９章に「中間小カギ」の題下に説明してある。
６．和語縮字法のマ行縮字はこの略法と一致する場合が多い。

中根正世著「通俗　中根式速記法」では

中間小カギ

これは、その名称が風変わりであるように、その方法もまた甚だ風変わりである。まず、日本語には次のような特殊な言い方をするものがたくさん出てくる。

クリカエ　クリコム　クリイレ

即ち、外国語にあるように幾つかの節に切り離して発音する一種特別な言い方をするものがたくさんあるが、しかし、これまで説いてきた方法を使っては、どうしても、これらのものを適当に簡単にすることができにくいのであ。そこで、何とかして簡単な書き道を開いておきたいというので、今度は、

主なる頭文字だけを書き、その他のものは全部省略する

という風変わりな方法を講ずることにするのであるが、これは甚だ有効な書き方であって、種々多方面に応用して、その偉力を発揮するのである。

ク カ　　ク コ　　ク イ

ところが、惜しいかな、これをこのまま続けて書いただけでは、他の部分を省略したぞという肝心ところがわかりにくい。どうしても何らかの目標がなければ読み返しにくい。そこで、ここに、主なる頭文字だけを書いて他の部分を省略してあるぞという目標にするために、文字と文字の中間に小カギをつけて結び合わせることにするのであるが、今まで、そんな書き方がなかったために、次の例を見てもわかるとおり、一種特別な形をなし、一見してその風変わりな特色が見出されるのである。

この小カギは助詞「ニ」に相当している。即ち助詞「ニ」の符号をつけた後に、その次の文字を続けて書いたことになっている。

シカシナガラ……しな
カクノゴトク……かご
カブシキガイシャ……かか
ソウリダイジン……そうだ

中根洋子著「中根式 速記の基本教程」（中根速記学校教科書）では

節音法

訓読みの言葉で、２つ以上の節音からできているものを、節音語と言います。この２つの節音字を結ぶとき、中間小カギを使います。

中根式創案当時は、現在よりも速記法則が少なく、速記文字のつなぎ方などの形状

が特殊だったので、「特殊略法」とつけられたと推測できます。
「通俗 中根式速記法」が発行された昭和２年11月には、交差・平行法がない時代でした。中根速記協会機関誌「中根式速記」の昭和６年12月号に中根正世先生が「特殊略法」という名称で「交差・平行法」を発表しております。
現在の中根式では「中間小カギ」という名称が一般的になっております。
時代とともにいろいろな法則が発表されてから、「中間小カギ」の使い方も変化をしております。

また、同じ法則の名称であっても時代とともに変化しております。
植田裕／川田秀幸著「中根式 速記法原理 下巻」（昭和27年５月３日発行）中根速記協会香川県支部発行では
特殊略記法
特殊略記法とは、「特別高頻度語簡易記法」とでもいうべきもので、理屈を離れて基本符号などに関係なく、何でもいいから速く簡単に書きたいという欲望が本能的に起こるほど頻度の高い単語に限って適用される本来的な記法である。
と書かれております。

テキストの作成　その１

平成16年１月15日

速記のテキストを作成する場合は、目的によって下記のものがあります。

１．指導者用

指導者が速記法則、練習問題、文例などを指導できるように詳しく説明したマニュアルです。
「速記法編」には各法則の詳細な説明及び文例、練習問題などを掲載します。
また、速記法則は学習者用のテキストに準拠して作成します。
「速記法指導編」には、具体的な毎日の「指導計画」を掲載します。その日に指導する内容が書いてありますので、時間配分の参考にします。
法則体系及び指導計画は、プロ用及びアマ用の２種類を組んでおきます。
「資料編」には、速記に関したいろいろな文献等々、指導者として知っていなければならない内容を掲載します。内容的には、学習者に指導しなくてもよい内容も含まれております。
「速記法編」「速記法指導編」「資料編」は別冊で作成します。

２．学習者用

学習者がいろいろな方法で学習できるように作成したものです。学習者用のテキス

トには、下記のものがあります。

１）独習者用

速記を独習できるように、速記法則、練習問題、文例等、学習方法、速度練習の方法を豊富にしたものです。

２）通信教育用

独習者用のテキストとほぼ同じですが、「通信添削指導」がついているかどうかの違いです。

ほとんどの方式では通信教育用のテキストは、独習ができるように作成されております。

３）速記学校／速記塾／速記教室用

速記法則と、簡単な文例だけをまとめた簡単なテキストです。

指導者が授業中に法則を説明したり、文例などを黒板／ホワイトボードに速記文字を板書、あるいは口頭で説明します。

４）講習会用

１日講習及び２～３回に分けた講習会で使用する入門書です。基本文字表と２～３枚の文例だけのものです。

テキストの作成　その２

平成16年１月16日

速記のテキストは、市販本（現在では少なくなりましたが）及び通信教育のテキストなどでは、その方式の法則体系を全部掲載しているわけではありません。

比率は、速記方式によって異なりますが、中根式に関して書きますと、約半分ぐらいです。

中根速記学校で指導している法則体系を100としますと、中根洋子著「中根式 速記の基本教程」では約50ぐらいです。

また、中根正世著「中根式速記」（昭和27年版）でも約55～60ぐらいです。

速記学校時代に、恩師いわく

「教科書をつくったら、みんなが覚えないからつくらない」

と……。なるほど、確かに一理あります。で、恩師はどのように速記法則を指導していたかと言えば、専用のノートを見ながら、口頭で速記法則と速記文字を説明したり、板書しておりました。

余談になりますが授業が終わってから、同期生３人が集まって

「先生からノートを借りて写せないだろうか」

と、相談したことがあります。相談だけでだれも実行をするほど勇気がある？生徒はおりませんでした。

全速記法則が掲載されているテキストは、生徒にとっては覚えるかどうかは別にし

て、魅力的なものです。ノートをとる手間が省けます。

逆に、全法則体系を掲載された分厚いテキストを先に渡されたら、「こんなに覚えるのか」というため息が出てもおかしくないと思います。

少ない法則のテキストを渡されて、授業で「次の授業では、どんな法則を習うのだろうか」という、楽しみもあります。まず、こういう生徒は少ないでしょうね。

当然のことですが、新しい速記法則を指導する予告がありませんので、授業を休むわけにはいきません。

どうしても、授業に出席できなかったときには、同期生に新しい法則を習ったかどうかを確認してから、ノートを借りて写します。ここはふだんからの人間関係が大切です。

男性のノートは当てになりませんから、女性のノートを借ります。男性は勝手に速記文字をつくる習性があります。ほとんどの女性は習ったとおりにしか速記文字を書きません。

逆の場合もありますので、同期生同士で休んだ生徒には前日習った速記文字を授業が始まる前に教え合うこともありました。

テキストの作成　その３

平成16年１月17日

「テキストの作成 その２」で、「教科書をつくったら、みんなが覚えないからつくらない」と、書きましたが、それに関連して一言。

１．教科書に掲載されている法則が、半分であり、もっと詳しく知りたかったら速記学校に入学するか、中根式の指導者について速記の指導を受けるしかない。

２．基本的な法則だけを教科書に掲載し、時代とともに言葉の変化により法則体系を変えたり、後に法則の新設や廃止をするために、教科書を作成しないという速記的発想（省略）で、最小限度のものだけを印刷しておくという合理的な？考え方。

さて、どちらでしょうか。悪い方に解釈すれば「１.」のほうですが、よい方に解釈すれば「２.」のほうです。

中根式は、創案当初から「国民皆速記」を標榜している方式ですから、答えは「２.」のほうです。

何年かごとに新しい教科書を作成すれば、

１．在庫を抱える。

２．新旧の法則体系が存在する。

３．法則体系的に矛盾ができて指導がしにくい。

という点が上げられると思います。

特に速記学校の場合は、毎年生徒が入学しますし、詳細な教科書を作成すると急に

体系を変えることができませんので、最小限、基本的な法則体系だけを掲載して、他の速記法則は時代とともに変更できるようにしております。
　基本的な法則体系だけですと、法則を新設・廃止しても法則体系的には柔軟に対応ができますから大きな影響がありません。

テキストの作成　その４

平成16年１月18日

　テキストを作成する場合には、いろいろな問題にぶつかります。

１．法則体系における文例の量

　法則体系の文例で基本形と変化形、関連する速記文字です。基本形と変化形との組み合わせで、ある程度のところで内容を裾切りしなければなりません。
　言葉は膨大にありますので、全部の言葉に対して速記文字を掲載すると膨大なものになります。

２．他法則との抵触

　新しい法則は、既存の法則と混在しますので、法則的な矛盾を生ずることも考えなければいけません。

３．法則の有効活用

　新しい法則の融通性、他の速記文字との類似性。速記文字の読みやすさ・書きやすさも含まれております。

４．改訂版の作成

　毎年、改訂版を作成することは作業が大変ですから５年から10年に１回の作業が理想的です。

５．「法則を優先」か「書きやすさの優先」

　従来の中根式は少ない法則で構成されておりますが、法則が少ないと、速記文字の簡略化ができません。
　速記文字を簡略化するには速記法則をふやさなければなりません。速記法則をふやせば複雑な法則体系になります。

１）複雑な法則体系を運用して速記文字の簡略化を図る。
２）少ない法則体系で画数の多い速記文字を書く。

　速記法則を覚えることに苦痛を感じるかどうかです。速記文字を簡略化するには、避けて通れない道です。
　同じものを楽に書くかどうかです。

テキストを作成する場合には、「このテキストで指導をする」という意気込みが大切です。すぐに使うかどうかは別にして、いつでも使用できるテキストを準備しておきます。

自式の法則体系を熟知しておくことも大切です。速記界には「法則体系オタク」がいるかどうかわかりませんが、ふだんから同じ方式のいろいろな文献等を収集することが必要ですし、自分で好みの速記法則体系を組み立てることができなければいけません。

特に指導者の場合は、自分で法則体系を組み立てて、自分で指導しやすいテキスト作成ができなければいけません。

第○種線

平成16年１月19日

最近の中根式では「第一種線、第二種線、第三種線、第四種線」という言葉が死語になっております。

中根式関係者でも「第○種線」という言葉を知っている人は非常に少なくなりました。

１．中根式速記法講解＝講解
２．通俗 中根式速記法＝通俗
３．超中根式速記法＝超中根
４．中根速記学校＝中根校

	第一種線	第二種線	第三種線	第四種線
講　解	約５厘	１分５厘	３分	５分
通　俗	３厘	１分	２分	３分
超中根	３厘	１分	２分	３分
中根校	３ミリ	６ミリ	９ミリ	1.5ミリ＊

＊５厘＝1.5ミリ　３厘＝１ミリ　１分＝３ミリ　１分５厘＝4.5ミリ　２分＝６ミリ　３分＝９ミリ　５分＝15ミリ

＊中根校の「第○種線」という言葉は、中根速記協会機関誌「速記時代」（昭和32年８月号）「我が式の誇る省略法」（池田正一）に掲載されております。

「講解」と「中根校」では、概念が違っています。

＊「通俗」では、「第○種線」と言わずに「短線」と「長線」を合わせて「基本線」と読んでおります。

中根式における短線の３ミリは「１分」、長線の６ミリは「２分」から来ております。

中根洋子著「中根式 速記の基本教程」では、短線が４ミリ、長線が８ミリになっております。

速記文字は「中根式速記法講解」の方が少し大きめにできております。
中根速記学校の昭和44年４月入学生には、「第〇種線」とは指導していません。
現在では「最小線、短線、長線、最大線」と言われておりますが、中根速記学校では、さらに長い線が２種類あり、「特大線」「極大線」と呼んでおります。
「特大線」は、最大線の1.5倍、「極大線」は、最大線の２倍から2.5倍の長さです。
「最大線」も「特大線」も実際に書く場合には同じ長さで書きますが、「極大線」を使用する言葉は限られておりますので、そのまま使用します。
例：ご承知のとおり、ご存じのとおり等の変化形。
中根正雄著「中根式速記通信教育」では、「超最大線」という言葉が出てきますが、中根校の「特大線」と同じ長さです。
森卓明著「超中根式速記法」では、最大線のことを「四種線略字」と呼んでおりますが、「現代国語表象速記法」では、四種線より長いものをスーパー・ライン（Ｓ．Ｌ）と呼んでおります。
稲垣正興著「学生の速記」では、最短線、短線、長線、最大線と呼んでおります。
「学生の速記」では、短線が５ミリ、長線が10ミリです。最大線は15ミリです。
＊最小線＝最短線、最大線＝四種線略字、特大線＝超最大線＝スーパー・ライン

応用速記学

平成16年１月22日

「応用速記学」という言葉を知っている人は少ないと思います。
この「応用速記学」は私の造語です。
ある速記方式の法則理論を自式に採り入れて応用する。
という意味です。
悪い言葉で言えば「パクり」ですが、よい意味で解釈すれば「自家薬籠中の物」にすることです。
これも自式の速記法則に精通していなければできない「裏技」の１つです。
ほとんどの速記関係者は全く速記文字が違う他方式から、法則を取り入れることが不可能であると考えております。
速記文字をそのまま採り入れるのではなく、法則理論を採り入れますが、まず考えなければいけないのは、自式の法則体系とどのように抵触するかです。
自式の法則体系に精通するには、自式のいろいろな文献等を収集して速記法則の運用方法に熟知しておきます。
また、あらかじめ他式の文献等も収集し、他式の法則体系もある程度学習していなければできません。
速記は１つの方式を習得していれば、書けるかどうかは、別問題にしても他方式の習得はできます。

違うのは速記文字だけです。１つの方式を熟知していれば、他式の法則を見てもある程度の見当がつくようになります。
この両方の条件がそろっていなければいけませんが、さらに速記法則の「研究心」と自式の速記法則を自由に組み立てる能力を要します。
他式の速記法則を自式の速記文字に置きかえてみることが必要です。
組み合わせは、最初の折衷派、単画派は自式です。
「折衷派×折衷派」「折衷派×単画派」「単画派×単画派」
「単画派×折衷派」は、組み合わせが悪いのでやりません。
範囲は速記法則だけではなく、速記文字の運筆や、テキスト作成方法にも応用できます。

速記学習者のタイプ

平成16年１月28日

速記学習者には下記のタイプがあると言われております。

１．高度の省略法、縮記法を使いこなす

数学、理科が得意で早くは書けないが美しく形の整った速記文字を書く人。
法則を理論的に考えるタイプです。１つの法則がわかればその法則をいろいろな言葉に応用する理論派タイプです。
いろいろな速記法則を覚えることが苦痛に感じない人です。速記指導者に向いているタイプです。

２．省略法、縮記法を最小限にとどめてどんどん書き込む

文化系が好きで速記文字は多少汚くても書くのが早い人。
速記法則を覚えるのが嫌いな実用化タイプです。とにかく早く書ければよいという人です。

３．それらの中間

どちらとも言えない人。
高度の省略法を駆使しながら、速記文字を書くのも早いタイプの人です。
この「高度の省略法」という基準はあいまいですが、中根速記学校の体系を基準に考えればわかりやすいと思います。
当サイトの「中根式速記法概要」は高度の省略法も多少入っております。

速記指導者のタイプ

平成16年１月29日

速記指導者には下記のタイプがあります。

速記学校編

１．速記法則を詳しく指導するタイプ。

自分のノートを見ながら速記法則を説明します。教科書に掲載されていない文例は、板書したり朗読中に説明します。

毎年、速記法則の教え忘れがありません。

２．速記法則を簡単に説明するタイプ。

ノートを見ないで、いきなり板書しながら指導します。

年度によっては、速記法則の教え忘れもあります。

高校／大学速記部編

１．顧問が指導する場合。

速記に堪能な顧問が指導する場合は、部員にノートを取らせます。

全体的に部員には教科書を持たせない方が多いと思います。

２．３年生が１年生を指導する場合。

これには３つのパターンがあります。

１）独自のテキストを作成する。

２）テキストを作成しない。

３）市販のテキストを使用する。

指導する３年生の指導力がなければ年々速記法則が少なくなります。３年間インツクキ法だけで終わってしまいます。

速記の指導法

平成16年１月30日

吉川寿亮著「早稲田式速記詳解 基本編」中央大学速記研究会（昭和42年５月７日発行）には「指導者の心構え」について書かれております。

「指導者の心構え」は、速記方式を超越して共通しております。

１．学習者の立場に立て
２．自己流を出すな
３．常に自己の技術向上に努めよ
４．指導を自己の技術にプラスにせよ
５．要所をはっきりと教えよ
６．人間的接触を忘れるなかれ

いずれも、速記指導者として必要なことばかりです。特に重要なことは１．５．６．だと思います。

「学習者の立場に立って、要所をはっきり教え、さらに人間的接触も忘れない」ことが大切です。

さらに私が作成した「速記指導上に必ず実行すること」を紹介しましょう。

速記文字を指導するときには必ずノートをとらせる。

（ノートは常時、携帯させる）

テキストは必ず１回分ずつ渡す。

（学習者が勝手に勉強することを防げる）

（学習者が脱落するとテキストがむだになる）

主として速度練習に力を入れる。

（必要な速記用語、速記史なども指導する）

縮記法、略記法は理解するまで何回でも説明をする。

（知らないのは、教えないことと同じである）

（「知らない」と「忘れた」とでは意味が逆である）

時々、速記文字の指導をする。

（法則体系を習得するまではなるべく自己流を出さないようにする）

練習中、書きにくい速字が出てきたら略字を指導する。

（略字がない場合はスムーズに書けるまで何回も練習させる）

（指導者は、必ず縮記法、略記法に精通しておくこと）

速記文字の添削はこまめに行う。

（速記文字と反訳文は必ずつけること）

理論がわかれば、縮記法、略記法が幾らでも使えることを指導する。

（中根式は縮記法、略記法がわかれば応用をすることができる方式である）

（略記法の乱用は避けること）

個人別に指導表を作成して管理する。

（個人差があるので、進みぐあいを把握しておく）

（指導内容、法則の指導、速度練習の記録など……必ず年月日を記入する）

などがあります。

使いやすいテキスト／使いにくいテキスト

平成16年２月１日

何式でも共通して言えることですが、テキストには「使いやすいテキスト」と「使いにくいテキスト」があります。

使いやすいテキスト

学習者が学習しやすいだけではなく、指導者も指導しやすいテキストという意味も含んでおります。

速記法則を指導する順番も大きく関係してきますが、どの法則を先に出すかです。

例えば中根式の代表的な「インツクキ法」を指導するときには、基本文字（清音、N尾音記法、濁音、詰音、半濁音、長拗音、拗短音）が終わった段階で指導する順番です。

使いにくいテキスト

基本文字が終わった段階で、最大線→助詞→上段→下段→両大カギ省略（○ン○ン）→中間小カギ→交差・平行法→インツクキ法という順番では、指導がしにくいテキストになります。

インツクキ法と関連する法則には、最大線、上段、下段、中間小カギ、交差・平行法などがあります。

速記法則体系の全体的なことになりますが、法則を指導する順番は極めて重要ですので、基本文字が終わった段階でインツクキ法を指導することが望ましいと思います。

また、加点助動詞（スル、マス、マシテ、マシタ、ラレ、マショウ）を指導するならば、下段の口語略字における（スル、マス、マシテ、マシタ、ラレ、マショウ）などの速記文字を下段略字からはずしておきます。下段略字で覚えても、加点助動詞を学習すると、学習者には覚える負担がかかります。学習者自身どちらで書けばよいのか、迷うことがあります。

テキスト作成では速記法則を組み立てる順番が必要になってきます。

指導者は、使いにくいテキストで指導する場合には苦痛を感ずるはずです。

僕の速記雑感

平成16年２月４日

最近の早稲田式関係者でも「早稲田速記新聞」を知っている人は少なくなったと思います。

早稲田式の通信教育生の機関紙です。

創刊は昭和10年ですが、昭和59年４、５月号（第896号）で休刊になっております。

「早稲田速記新聞」昭和40年９月15日号（第546号）に、神奈川県・工業高校２年生松本君夫さんの「僕の速記雑感」という原稿が掲載されております。中には大変興味深いことを書かれております。

（前略）

僕の友達に速記をやったのがいる。最初「速記の完全独習」という本で、次に「Ｉ式速記講座」でやったが、独習なので行き詰まり、その上２つの方式がゴッ

チャになったという。そして速記はやめた。彼が言うには「授業中に速記したのを家に帰ってから反読しようとしたが、全然読めなかった」とか。それも毎日勉強して……。これではやめたのも無理はない。

（後略）

で、投稿をされた松本さんは、通信教育を優秀な成績で修了されて昭和42年４月23日の全国社会通信教育大会で文部大臣賞をいただいております。

果たして松本さんの、友達のように２つの速記方式を学習して頭の中が混乱するのでしょうか。

私がこの「早稲田速記新聞」を読んだのが中学３年生のときですから、私自身もその後２年半はそのように思っておりました。後からわかったことですが、私自身が早稲田式で練習しており、興味半分・遊び半分で片手間ながら中根式の通信教育を修了しましたが、頭の中は混乱をしませんでした。

たまたま松本さんの友人の頭の中が混乱しただけだと思います。

学習途中でも、他の速記方式を学習しても頭の切りかえは簡単にできます。

私の速記仲間には２つ以上の速記方式で書く人が何人もおります。中には５方式を自由自在に書き分ける人もおりますが、私が尊敬している大先輩は20方式を学習して、どの方式でも分速200字を書いたと聞いております。

速記実務では３方式を自由に操るという神業の持ち主です。

私が「早稲田速記新聞」を読んだ中で一番記憶に残っている原稿です。

その後、我が国の速記界では松本君夫さんの名前を聞きませんね。

くノ一筆法

平成16年２月７日

「くノ一筆法」という言葉をご存知の人は少ないと思います。これは師匠・植田裕先生の造語です。

私がこの言葉の意味を聞いたのは昭和48年のことです。

師匠いわく

平仮名、片仮名、漢字で一番簡単なものは「く」「ノ」「一」であり、これを組み合わせると「女」になり、女忍者を「くノいち」と言います。速記は女性が多いので「くノ一筆法」と指導すると受けます。

うーむ。なるほどと感心しながら聞いておりました。

昭和45年11月に香川県立高松商業の速記部員から借りたノートの１ページ目には

速記

中根式速記（高校）くノ一　女　くノ一筆法

インスタント速記（警察、自衛隊）

欠画文字

仏教　菩薩→艹が２つ上下に並んでいました　地獄→土偏に犬
と書いてありました。師匠が昭和43年４月の新入部員に指導したノートです。ノートの持ち主はプライバシー保護の観点から伏せておきます。
私が昭和45年11月に書写したときにはノートに「くノ一筆法」と書かれていた意味がわかりませんでした。

速記法則の分類

平成16年２月９日

谷田達彌著「速記の習い方」（昭和48年４月10日　初版発行）の「はじめに」には、

（前略）

速記技術の習得の段階には、初等、中等、高等という３つの段階があるというようによく言われておりますが、実際はそんなことはありません。ただ、次第に積み重ねていくだけです。その意味では初歩の段階が一番大切であると言っていいのです。この本の「実技編」は、いわゆる初歩から高等まで一貫して、一歩一歩進んでいけるように、例を挙げて説明してあります。

（後略）

と書かれております。速記方式によっては、基礎速記法（初等）、普通速記法（中等）、高等速記法。あるいは基本速記法、高速度速記法と速記法則を分けて使用されております。
中根式の指導者でも「高度な法則」という言葉を使用しておりますが、私は「速記法則は一貫しているものである」という考え方をしております。
強いて言うならば「基本的な法則体系」と位置づけております。中根式は各地の指導者によっていろいろな法則体系が構築されております。
テキストに掲載されている速記法則はあくまでも中根式の「基本法則」にすぎません。
テキストの法則体系だけで、これが中根式のすべての法則体系と思ったら大きな間違いです。
テキストはアマチュアの普及用に組み立てた法則体系ですが、少ない法則で間に合うという条件で作成されております。
中根式速記協会機関誌「速記時代」（昭和44年１月号 第149号 12ページ）には、川村速記学校の先生が、

（前略）

速記練習は３カ月ぐらいよりしていないとも聞いたが、以前大会案内請求のはがきに書いた速記文字を見ると、上段下段はもちろん、高度の省略法も利用しており、とても３カ月とは思えないが、速記に対しては異常なくらいの執念の持ち主であることは伺われる。

（後略）
と書かれております。プライバシー保護の観点から１高校生の名前は伏せておきます。
高校生にとって、上段、下段などは「高度な省略法」になるのでしょうか。
高校生と言えども、個人差があります。いろいろな法則体系を指導すれば使いこなせる人もおります。
中根式の通信教育で指導されている速記法則は、高校生でも十分に使いこなせる速記法則です。

基本的な「速記法則」

平成16年２月10日

中根式における基本的な「速記法則」とは、どのようなものでしょうか。
中根式の速記法体系を構成する場合には、おおむね下記のものが基本の「速記法則」になります。

１．基本文字

清音、加点字、濁音、撥音、半濁音、長拗音、拗短音、詰音。

２．省略法（縮記法・略記法）

インツクキ法、助詞、上段、下段、口語助動詞、動詞、加点法、最大線、中間小カギ法、符省法、交差・平行法、数詞。
です。この基本的な「速記法則」は11個ですので、法則の運用方法と文例があれば、自分自身で応用していけます。
速記法則の学習方法は、「速記文字を覚える」のではなく**「法則の運用方法」**を覚えるための**学習**です。
中根式で「基本文字」という場合には、清音から詰音までを含んでおります。
上記の基本的な「速記法則」に上乗せした「速記法則」があります。これらの上乗せした「速記法則」には、時代の変化とともに新設されたり、廃止された法則が含んでおります。
テキストの作成作業では、基本的な「速記法則」を骨格にして、新法則などで肉づけをしていきます。
速記法則体系を**「軽装備」「標準装備」「重装備」**にするかは、速記学習者の「法則運用能力」によって使い分けます。
中根式創案当初には「加点インツクキ法」がありましたが、中根正世先生によって大幅に改良されておりますし、中根速記学校でも改良型を指導しておりました。
また「加点助動詞」、「下段」における口語助動詞の略字も改良されております。
中根速記学校の「速記法則体系」には、中根式関係者でも知らない速記法則があります。
上乗せした「速記法則」は、速記文字を簡単に書くための法則です。

暗記の苦手なタイプの人は「速記文字」を暗記するのではなく、「速記法則」を運用すると考えた方が、気持ちが楽になります。
速記法則の運用では「基本形」＋「変化形」ということを覚えておけば、覚える量は少なくなるはずです。

速記法則運用能力

平成16年２月11日

学習者の「速記法則運用能力」は、個人個人によって異なります。
なかなか基本文字を覚えることができない人もおりますし、２時間で清音を覚える人もおります。
速記法則においては、テキストを読みながら簡単に法則の運用方法を覚えてしまう人もおります。
高校の速記部では、上級生が指導しているところでは、インツクキ法で３年間のクラブ活動が終わってしまうところもありました。
上級生の法則運用能力がなければ、テキストがあっても有効に利用されていないと思います。
速記は人から「習うもの」ではなく、テキストを見ながら自分で「覚える」ものであり、速度練習の段階で朗読してもらうものだと考えております。
指導者がいないから「速記の学習ができない」というのは、独学、通信教育で速記を覚えた経験者としては情けない話です。
私自身、速記学校は速度練習のために通学し、速記の指導法と速記法則の細かい運用方法を研修する場所だと考えております。
私は速記学校在学中に、「速記法則」をどのように指導するのか、授業の展開はどのように行うのか、ということを学び取ってきました。
私自身は高校時代から速記教育に対して興味を持っておりましたので、速記学校在学中には速度練習だけではなく、速記の指導法も学習していたところが他の同期生とは違うところです。

軽装備／標準装備／重装備

平成16年２月12日

速記法則における「軽装備／標準装備／重装備」は聞き慣れない言葉ですが、速記法則を組み立てるときには必要なものです。

軽装備

基本的な速記法則体系で、速記法則の骨格をなすものです。中根式においては市販

のテキストが相当します。
　この基本法則体系は永遠不滅のものでほとんど手を加える必要がないものです。
　時代とともに同じ速記法則でも運用方法が変わる程度のものです。

標準装備

　この法則体系は、基本法則体系に肉づけをしたものです。時代とともに廃止されることもありますし、速記法則体系に一貫性をもたせるためのものです。
　時代とともに言葉が変化しますので、新しい法則などが追加されます。バージョンアップ版みたいなものです。

重装備

　各地のいろいろな法則体系を寄せ集めたもので、使い勝手の悪いところもありますが、速記法則体系を組み立てるときの「虎の巻」的な存在です。
　この法則体系をすべて使うかどうかは、別としても速記法則に精通するための参考資料的な存在です。
　各地のいろいろな速記法則を学習するためにはおもしろいものです。
　当サイトの「中根式速記法概要」は標準装備に相当しますが、容量の関係で掲載している部分は「基本形」です。
　「基本形」と「変化形」を掲載するとＰＤＦファイルでも5.47ＭＢの容量になります。
　ご参考までにＢ５判で130ページの分量です。

式閥？

平成16年２月13日

　全国速記士団体連合会には「全速連」という機関誌がありました。ありました、という過去形で書くのは、私自身が最近の「全速連」を見たことがないからです。
　全速連のＮｏ.24号（昭和55年９月10日発行）に「かきびとしらず」という方が「ちかごろやっときづいたこと」という投稿があります。

　　東速25周年記念パーティの帰り際、いささか皆さんと別れがたい思いがして、ご一緒だったＤ、Ｈ、Ｎ氏らと「どこかで一杯」……となった。たまたま側におられたＧ氏もお誘いしたが、なぜかシキリと固辞される。久濶だけに「ぜひ……お互い知らん仲じゃないし」と、ムリヤリ引っ張る私の耳元へＧ氏「皆さん○式ご一族だから。今度関西へ出たら必ず君ン家へ寄るよ」と別れてしまった。
　　また、東京に日速協の支部が次々できたころ、さる支部の設立者が「実は同式のＩらが陰で動いていると聞いたので、本元のオレを差しおいてケシカラン。それなら先に……と旗挙げしたんだ」と、ある席で私の耳元へささやいだ。

どうも100年を迎えようとする手書き速記界は、まだ各方式が互いに競い・牽制し合い、そして同式であっても本家と末流、先生と弟子、先輩と後輩が切磋琢磨・引っ張り合いながら動いているようだ、日本速記協会が法人化され、検定試験合格者の式名を呼称しなくなったというのに。また、80年記念事業のときにはソクタイプ関係者とそれを祝い合ったというのに。

＊東速25周年記念パーティ（東京速記士会25周年記念は昭和54年10月23日に東京赤坂プリンスホテルで開催）

と書かれておりました。私はどなたが書いたのか詮索するつもりは毛頭ありませんが、速記界では「式閥」があったようです。文中から感じられることは「〇〇式」の人とは一緒に酒を飲まない？ともとれそうです。

今どき手書き速記関係者で「〇〇式」の人とはつき合うな？という人はいないと思います。

速記界において「式閥」とか「派閥」はそぐわないものです。同じ方式で「本家と末流」というのは時代遅れの考え方です。

現在は速記方式を超越して「後世へ手書き速記をどうやって伝えていくか」ということが大事なときです。

我々速記関係者はインターネットを駆使して、速記のＰＲをすることも大切です。

「俺がやらなきゃ誰がやる!!」という気概を持つことが大切です。

速記サイトの管理人同士で協力体制をつくり、お互いの専門分野で協力することも大切です。

１人１人の力は微力ですが「１＋１＝２」ではなく、「１＋１＝∞」へと力を発揮しなければいけません。

また、速記関係の書籍などは「ＰＤＦファイル化」をしておくことも必要なことです。

速記学習教材　W式速記速習盤

平成16年２月15日

早稲田式の通信教育用教材でユニークなものがありました。

昭和37年５月に言潮社から発売されていた「マスター W式速記速習盤」という直径13センチの円盤です。

円盤の中に丸い穴と長方形の穴が空いております。丸い方は速記文字が書いてあり、長方形の方には国字が書いてあります。

両面とも穴が空いており、中に差しかえ用の円盤があります。真ん中に凹凸のホックでとめるようにできております。

私と同じ時期に早稲田式の通信教育を受講していた速記仲間に聞いても知りませんでした。

内容は

入門コース（３枚１組）

基本文字、イ音省略文字、詰音、などを含めた単語が書いてあります。

中等コース（５枚１組）

ク、ツ音省略の基本と厳選単語。同行省略の基本と文型、二音文字の基本と文型、助詞テニヲハの基本と文型、上下段文字の基本と文型。

高等コース（５枚１組）

助動詞の基本と簡字、国語の常用語と簡字、数字の基本と簡字、一般常用語と簡字の活用文型。

です。私が昭和41年ごろに購入したときは「中等コース」が品切れでした。

説明書には、

人気の的「マスター・コース」は数に限りがありますので、お早めにお申し込みください。

と書かれておりました。

使用方法は極めて簡単で、丸い穴の部分と長方形の穴の部分には線が引いてありますので、目で追うだけです。次に円盤の間に挟んでいるものを回すだけです。

差しかえ用の円盤には回しやすいように刻みがありますし、厚ビニール紙製でビニールケース入りです。

私が早稲田式を学習していたときには、当たり前のように感じておりましたが、他の速記方式にはないユニークな教材です。

これで「中等コース」の円盤がそろっていたら完璧です。

もう少し早い時期に購入をすればよかったと思っております。

文部省検定済教科書　速記〈早稲田式〉

平成16年２月16日

「アマチュアの指導法」では文部省の「高等学校指導要領」の中から速記について書きました。

昭和41年４月４日に川口晃玉編による高等学校商業科用教科書『速記〈早稲田式〉』が文部省の教科書検定に合格し、言潮社から刊行されました。Ａ５判で157ページの本です。

定価は113円ですので、当時の高等学校教科書の値段です。

また、昭和42年４月に早稲田速記普及協会『速記〈早稲田式〉指導の手引き』が刊行されました。Ｂ５判の80ページですが、この本の存在は昭和59年まで知りませんでした。

内容は通信教育のテキスト「早稲田速記講座」と違って、いかにも高校の教科書という感じがします。

この教科書は定価が公示価格を超えることができないので、赤字だったようです。

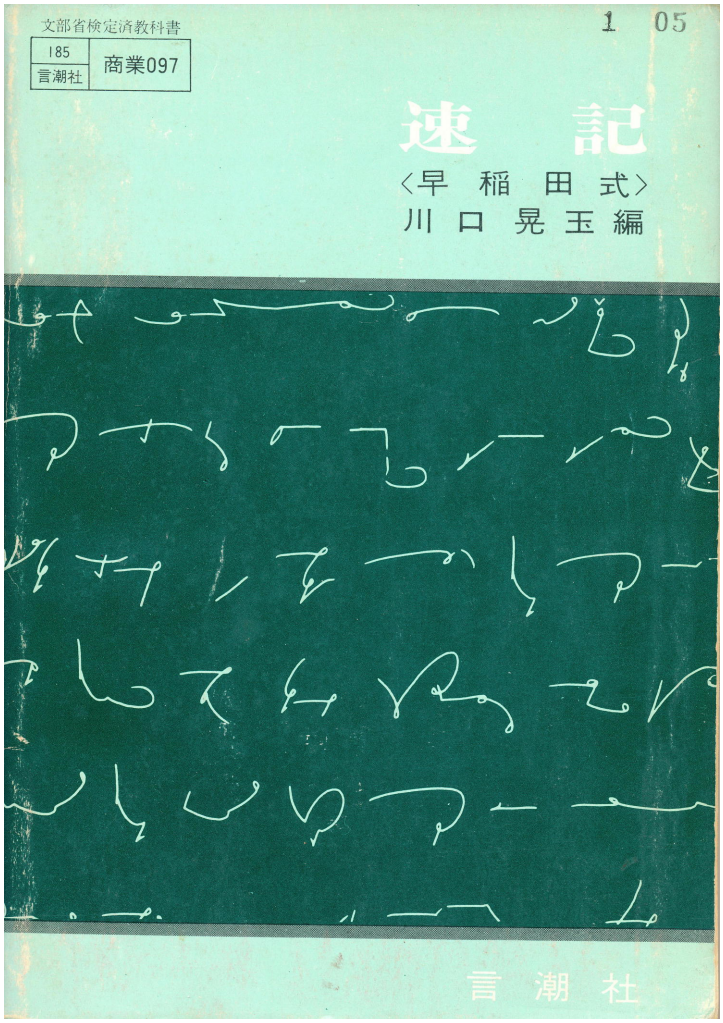
高校に早稲田式を教えられる教員が少ないなどの理由で、採用数も年間500部を切るようになったため、昭和49年３月ごろまでで発行を中止しております。

（早稲田速記五十年史より抜粋）

私が住んでいる〇〇市内には、当時、高校速記部が３校あり、１校は中根式（北海道〇〇北都商業）で、２校は早稲田式（北海道〇〇西高、〇〇大学高校）でした。（現在、道内では速記部が自然消滅しております）

この「速記〈早稲田式〉」を使用していたのは我が校の速記同好会だけでした。書店に５～６冊ほど取り寄せてもらいました。

もう１校の早稲田式を採用していた速記部では３年生が「早稲田速記講座」で指導しておりました。部員達は黒板に書いた速記文字で学習していました。



我が校では「速記〈早稲田式〉」を全員に私物として持たせておりました。

私は「早稲田速記講座」を片手に指導しておりました。もちろん速記文字を指導する前日には「速記講座」を熟読していましたし、「早稲田速記講座」には別冊で「学習の手引き」があり、毎日の「学習指導表」がありました。

内容は、「目標」「学習内容」「配当時間」「学習上の要点」「講座ページ」「備考」などが書いてありました。

「早稲田速記講座」は、発想を転換すれば「指導書」にもなります。

「早稲田速記講座」が「私物」か、速記部の「備品」であるかは、指導する側には影響をします。

「私物」ですと自由に使用できますし、家に帰ってからも読むことができます。

市内の速記部関係者で、現在でも「速記〈早稲田式〉」を持っている人はいないと思います。

ほとんどの人は学校時代の教科書などは卒業後、何年かしたらゴミとして処分されているようです。

速記の教科書について

平成16年２月17日

高校の教科書として、文部省の教科書検定を受けておりませんが、中根式では昭和43年３月28日に池田正一／中根洋子／森下等著「中根式速記」が高校商業科の教科書として発行されております。Ａ５判 122ページです。定価は160円でした。

発行所は株式会社市ヶ谷出版社で、発売所は実教出版株式会社です。

私のかすかな記憶では、実教出版株式会社では商業科目の教科書（商業簿記、商業一般）などを発行していたと思います。

著者は、池田正一／中根洋子／森下等さんの共著となっておりますが、速記文字と速記法則体系は森下さんの体系です。

「学習のはじめに」

（前略）

この本は、京都両洋学園長中根正親が創案し、その弟中根正雄が大成普及した「中根式速記法」をもとに、教科書として再編修したもので、高等学校商業科の実習科目「速記」を文部省指導要領に従って解説し、これに例題と練習題を収録したものである。

速記を全く知らない商業科教諭でも指導できるよう、具体的で平易な速記上の知識を要領よく配置し、また、例題を読めば、生徒諸君が単独でも練習題と取り組めるよう配慮するとともに、一般人の教養書としての性格も、十分取り入れた。

と書かれておりますが、私も高校時代に購入して学習してみましたが使い勝手の悪い教科書の１冊でした。

ちなみに中根速記学校では、中根洋子著「中根式 速記の基本教程」（昭和31年12月25日初版発行／中根速記学校出版部）の第９版が教科書として昭和52年度まで使用されておりました。

中根速記学校の授業では「中根式速記」（市ヶ谷出版株式会社発行）に掲載されている法則体系は習いませんでした。

私が中根速記学校の通信教育を受講したときのテキストは中根洋子著「中根式 速記の基本教程」の第８版です。このテキストでは中根式の学習がしやすいように作成されておりました。速記法則が簡単に説明されており非常に使いやすい教科書でした。

中根洋子著「中根式 速記の基本教程」は昭和44年４月１日の第９版が最終版です。

助詞

平成16年２月25日

中根式では「第一助詞」「第二助詞」という速記用語がありますが、最近では「死語」になっていると思います。

「第一助詞」は１音の助詞……ハ、ト、ニ、ヲ、カ等々。

「第二助詞」は２音以上の助詞……ニハ、ニモ、トカ、トシテモ等々。
のことを言います。

中根正親著「中根式速記法講解」では、「第一助詞」という概念はありませんが、中根正世著「通俗 中根式速記法」では、「第一種助詞」「第二種助詞」という言葉があります。

中根洋子著「中根式 速記の基本教程」では「第一助詞」「第二助詞」と言われております。

中根正世著「中根式速記」では「第二助詞」のことを「連続助詞」と言われております。

稲垣正興著「学生の速記」では、「助詞」、「二音助詞」と呼んでおります。

森卓明著「超中根式速記法」では、一種線を使用する助詞を「一種線助詞」と「基本文字助詞」に分けております。

「超中根式速記法」には、「基本文字助詞」について下記のように説明されております。

> 基本文字助詞とは全く私の命名であって、中根式においては一般に称しないところである。ある種の助詞、助動詞、動詞、接続詞等の音に関係ある基本文字をそのまま助詞記号として本詞の線尾に連綴する、即ち基本文字の助詞的用法であるがゆえに「基本文字助詞」と名づけたのである。

と書かれておりますが、私は「第一助詞」と「第二助詞」を一括して「助詞」と読んでおります。

特殊上段

平成16年２月28日

中根式には「上段」という法則があります。

１行を３段にわけて、中心線より上に速記文字を書けば「上段」、下に書けば「下段」です。

「上段」には、「一般上段」と「特殊上段」があります。

中根正世著「通俗 中根式速記法」と、中根速記学校では使い方の意味が違います。

中根正世著「通俗 中根式速記法」では、上段は訓音換記法で書いたものを言いますが、「特殊上段」は、訓音換記法で書いて「インツクキ」の符号を省略したものを言います。

	普通上段	特殊上段
明らか	メい	メ
寧ろ	ネい	ネ
例え	レい	レ

中根速記学校では訓音換記法で書いたものを「一般上段」、摘記略法を使用したも

のは「特殊上段」と言います。

	一般上段	特殊上段
新しい	シんシい	アシい
寧ろ	ネ	

と使用しますが、特殊上段で摘記略法を使用した速記文字は中段に書いても読めます。

「おもんぱかる（慮る）」は上段で「リョ」と習いましたが、頻度の関係で「訓音換記法」を使わないで「オモんハく」とインツクキ法で書いた方が早いということもあります。

「リョ」の速記文字を思い出しているよりも、インツクキ法でそのまま書いた方が読みやすい場合もあります。

かみ合わない会話

平成16年２月28日

速記学校研究科生時代に、同期生との会話で、

「そろばんの３級よりも速記の３級は楽だね」

「小学生でも３級はとっているけど」

「高校時代にはそろばんの６級に落ちているんだ」

「速記の方がよほど難しいと思うけど」

「速記の方が簡単だと思うけどね」

その会話を聞いていた先生は、ニヤリと笑っていただけです。ちなみにその同期生は事務の仕事をしておりました。

私には、そろばんの才能がなかっただけの話ですが……。

今は「電卓」で簡単に計算ができるようになりました。

高校時代の２年間は「商業簿記」と「計算実務」で悩まされました。当時、文部省の高等学校学習指導要領では商業科目の中に「速記」もありましたが、授業で「速記」があれば楽しかったと思います。

何の分野でも、その人の向き不向きがあるという例です。

困った先生

平成16年３月２日

高校時代に「商業法規」という科目があり、黒板にいっぱい板書するタイプの先生がおりました。

高校３年生の10月初旬ごろ、商業法規の先生から「速記を使うな」と言われました。

理由は「みんな苦労をしてノートをとっているのに、おまえだけ速記で書いて楽をするのはけしからん」ということです。

私に言わせると「苦労？して速記を覚えたんだから、授業中のノートは速記で書いて楽をする」「速記を知らない方が悪い」という考え方です。
その日は仕方がないので国字でノートを書きました。
私は、通信教育修了後に中根速記学校の江森武先生の紹介で１週間に１回、高石博子さんの自宅で速記を練習しておりました。
高石さんに相談をすると、中根正雄著「即席速記法」（昭和41年１月20日発行）という本を見せていただき「中根式の人なら、説明をしなくてもわかります」と言われました。早速お借りして10日間で写真以外の部分を書写して覚えました。
「即席速記法」は、その後「簡易速記法」と名前が変わり現在は「スピードメモ法」と言われておりますが、Ｂ６判で62ページの本です。
当時は、まだコピー機が普及していなかった時代です。
見た目は平仮名と片仮名を使用しておりますが、速記法則でできております。
商業法規の先生は「苦肉の策でカナで書いている」と思ったようです。
よい方に解釈すると「即席速記法を学習する機会を得た」ということになりそうです。
「速記」を覚える場合には、本を読むよりも、本を１冊書写する原始的な方法で、学習成果を発揮する場合があります。
特に、私の場合は「授業中のノートぐらいは楽に書きたい」という必要性があったからです。
ちなみに他の科目は、符号速記の中根式を使用しておりました。
「商業法規」は、卒業と同時に忘れてしまいましたが、「即席速記法」だけは現在でも覚えております。

速記の本がないというけれど……。

平成16年３月５日

最近は速記関係の本が少なくなりました。古書店でもなかなか出てきませんが、速記を学びたいという人はおります。
速記の本がないから、「速記の学習ができない」とも言われております。
しかし、速記の通信教育が完全になくなったわけではありません。出版社から「通信教育ガイド」が年度版で発行されております。
速記を学習しようと思えば、幾らでも学習方法はあります。
速記サイトに、簡単なテキストが掲載されておりますから、速記の学習はできます。
また速記サイトには「質問箱」や「掲示板」がありますし、速記に関する質問等も受けつけております。
速記文字をスキャナで読み込ませて「添付ファイル」として直接質問者へ回答することもできます。

パソコンとスキャナを有効に利用することです。
速記の本がなければつくればよいだけの話です。パソコンで、テキストなどが容易に作成ができますし、速記文字を書き入れたら簡単にでき上がります。
現在では速記の本を「出版社から発行する」という発想ではなく、でき上がったテキストをコピーするか、ＰＤＦファイルにしておく方法もあります。

文書をＰＤＦファイルに変換する方法には、次の方法があります。
１．紙の文書をスキャナで読み込ませて画像ファイルにして、画像ファイルをＰＤＦファイルに変換する方法です。
古文書などの手書き資料、古い印刷物等。

２．ワードや一太郎などの文書を、そのままＰＤＦファイルに変換する方法です。
ＰＤＦファイルはパソコンの「ＯＳやアプリケーションに依存しないフォーマット」で環境に左右されず閲覧ができます。最大の長所はファイルサイズと印刷品質です。
速記のテキストを作成するかしないかは、指導者の速記に対する情熱次第です。

速度の表現

平成16年３月10日

ある高校の速記部の練習中に上級生が１年生にいわく
「これから400字の速度を読むからノーミスで書け」
「先輩、冗談ですよね」
「おまえ達は400字も書けないでどうするんだ」
「１分間に400字なんて無理です」
「おれは１分間に400字とは言ってないぞ。10分間に400字だ」
「？」
実際にありそうな話ですね。
昔は、検定試験が10分間朗読でしたので、速記の速度をあらわすときには3,200字とか2,900字という表現を使用しておりました。
最近では、３級以下の検定試験は５分間朗読ですので、分速〇〇字という言い方をするようになりました。
昭和40年ごろに、文部省認定社会通信教育 早稲田速記講座「速度練習レコード」総合盤という、ソノシート（ＬＰ・33⅓回転）がありました。
その説明の中に、
速度何字ということは、10分間に朗読する漢字・仮名まじり文が何字ということです（句読点は数えません）

練習問題文にも速度の表示は
練習問題　速度1,000字／朗読時間１分30秒
練習問題　速度1,200字／朗読時間１分
練習問題　速度1,500字／朗読時間２分
練習問題　速度1,700字／朗読時間２分
練習問題　速度2,000字／朗読時間３分29秒
と書かれておりました。
昭和44年ごろのワセダ速記講座「速度練習編」にもソノシートがついておりましたが、
「第10回課題レポート提出」
レコード１の練習が済んで、分速80字（10分間速度800字）が自信を持って速記できるようになったら、第10回の課題レポートを提出してください。
と書かれております。
昭和41年５月31に日社団法人日本速記協会から「文部省制定 速記技能検定試験 受験の手引き」が発行されております。
分速〇〇字を基準として〇分間続けて朗読したものを速記できる。
と書かれております。

速記文字の鑑賞　加点インツクキ法

平成16年３月13日

「速記資料館」に「加点インツクキ法」を掲載しております。
速記雑話「世界の速記サイト」にピットマン式のサイトを紹介しておりますので、中根正親先生の「加点インツクキ法」と比較することをお勧めします。
ピットマン式と中根式は図形的にも似ておりますので、速記文字の鑑賞ができると思います。
中根式関係者は、ピットマン式に哀愁を感ずると思います。
特に中根式の指導者は、ピットマン式の原著を読めなくても目を通して、原著の１冊ぐらいは手元に置いてもらいたいと思います。
ピットマン式の本は、日本語で解説されているものもあります。
津山千鶴子編訳「やさしい英文速記　基礎編」（pitman 2000 SHORTHAND）蝸牛社　昭和57年９月16日初版発行
ピットマン式の法則をわかりやすく説明しております。
その後「中級編」と「上級編」が発行されたかどうか確認しておりません。

ＰＤＦ版「中根式速記法教程」について

平成16年３月25日

当サイトでは、特別期間限定でＰＤＦ版「中根式速記法教程」及び「中根式速記法教範／速記法指導編」をダウンロードできるようにしております。

「中根式速記法教程」は速記学校／塾／教室の生徒用に作成しておりますが、各速記法則における説明は簡単にしております。

また、各法則の文例は応用できるように掲載しておりますが、各法則を他の言葉に当てはめて利用できるようにしております。

「中根式速記法教範／速記法指導編」の「速記法指導計画」には（教範○○～○○Ｐ／教程○○～○○Ｐ）という表現がありますが、これは各法則の内容が書かれているページ数です。

「中根式速記法教範／速記法編」における速記法則は「中根式速記法教程」に準拠して作成しております。

「中根式速記法教範／速記法指導編」の「速記法指導計画」では、速記法則の指導期間は６カ月間としております。この６カ月間は、私が中根速記学校本科生時代における速記法則の習得期間と同じように作成しております。

１週６日間で、１日の授業時間は２時間で計算しております。これはあくまでも「実地指導」を前提条件として組んだものです。

「中根式速記法教範／速記法指導編」の「速記法指導」では、各法則における指導のポイントを書いておりますが、「プロ用／指導者用」と「アマチュア用」は別に作成をしております。

「アマチュア用」の「速記法指導」では、指導期間を限定しておりません。これは個人の習得能力に応じて作成しておりますし、速記法則は「軽装備」で設定しております。

指導者用の「中根式速記法教範／速記法編」は、ＰＤＦ版では12.0ＭＢの容量です。Ｂ５判で267ページあります。

「中根式速記法教範／資料編」は、ＰＤＦ版で24.6ＭＢの容量です。Ｂ５判で272ページありますが、中根式の指導者として覚えておかなければいけない最低必要限の内容を掲載しております。

特殊下段

平成16年３月30日

中根正世著「通俗 中根式速記法」では、「下段」は「ラ行省略」と「口語略字」に使用されておりますが、「特殊下段」という使い方があります。

「ナル」は下段に「ナ」を書きますが、「ナラン」は下段に「ナん」と書くと「特殊下段」になります。

「コレ」は、下段に「コ」と書きますが、「コレラ」を「コつ」と書けば「特殊下段」になります。「マスル」は「マつ」と書きます。

「ナッタ」は、「ナ」に大カギをつけます。

「ナッテ」は、「ナ」に小カギをつけると「特殊下段」になります。

「ナロウ」は、「ナ」に頭部加点をします。

下段における「ラ行省略」に小円、小楕円、大カギ、小カギ、頭部加点を使用したものを「特殊下段」と呼ばれております。

「マスル」に使用している「小楕円」は、後に中根速記学校では「ル」の省略として、小楕円から大楕円へなります。中根速記協会機関誌「速記研究」の昭和16年３月号に発表されております。

大楕円を逆記することによって「ル」の省略は「中段」で使用することができます。

「マスル」の書き方は「小楕円」ですが、「オリマスル」などの変化形に使用する場合は、「ホマん」と小円を入れて書きます。図形的には「小楕円」ですので「空間」でなければいけませんが、「マスル」は「マつ」よりも「マん」の形で整理しておいた方が使いやすいと思います。

中根洋子著「中根式 速記の基本教程」では、「下段」と「特殊下段」を一括して「下段」と呼んでおります。

応用速記術の秘訣

平成16年３月31日

本山桂川著「応用速記術の秘訣」（東京 崇文堂発行）は大正14年12月１日に初版が発行されております。

その後、昭和16年４月25日に第12版の発行を確認しております。

時代的な背景を考えると、大正８年８月22日から27日まで京都速記学校主催で「第４回 中根式速記法講習会」が京都の三条青年会館で行われております。

東京で「中根式速記協会」の前身である「新日本速記学会」が設立されたのは昭和２年11月です。

また「中根速記学校」の前身である「中根速記学院」が開校されたのは昭和４年７月です。

中根正世著「通俗 中根式速記法」の初版は昭和２年11月15日ですので、ほぼ同時期に「新日本速記学会」が設立されたと推測できます。

大正８年の年末に「京都速記学校」が閉校されているので、昭和４年７月に「中根速記学院」が設立されるまでは、中根式にとっては空白の期間になりますが、京都では森卓明先生が「京都速記研究所」を設立して中根式を指導している程度だと思います。

東京に「新日本速記学会」が設立されるまでは中根式の活動は本拠地を関西方面に

置いていた時代です。

本山桂川著「応用速記術の秘訣」の内容は、清音、濁音、半濁音、長音、拗音、インツクキ法、加点インツクキ法、助詞、ラ行省略法、口語省略法、最大線、段落標です。本の中には「中根式」という文字が全く見当たりません。

ラ行省略法、口語省略法は下段を使用しております。

上段における「訓音換記法」はありませんし、中間小カギ法もありません。

大正８年の「第４回　中根式速記法講習会」では、「上段」及び「ラ行短縮」として、楕円を線の間に書く逆記法が指導されております。

本山桂川は本名かどうかわかりませんが、東京崇文堂から「謄写版印刷術の秘訣」「最新謄写版印刷術」という本も書いております。

また、東京 崇文堂では加藤瀧著「思ふまゝに書ける 最新速記術の学び方」を昭和８年５月18日に初版を発行しておりますが、昭和17年１月８日に改訂12版を確認しております。

同じ出版社から同時期に「中根式」と「熊崎式系統」の本が発行されておりますが、この２冊を第三者的に比較をしても内容的には本山桂川の方が見劣りをします。

中根正世著「通俗 中根式速記法」は昭和16年４月18日に40版まで確認しております。

速字典について

平成16年４月１日

速記方式によっては「速字典」とか「簡字字典」と呼ばれる「速記文字」を50音順にまとめた略字があります。

ユニークな名前がついているのは「速記マガジン ── 上級者のための速字7000」があります。

その改訂版として「速記マガジン ── 上級者のための速字7700」が発行されております。

中には「解明誤訳速字典」「名詞速字典」「動詞・形容詞字典」「易誤文字辞典」というものがあります。

初心者用には「連綴・運筆辞典」があります。

上記のものは早稲田式ですが、佐竹式でも「佐竹式簡字字典」が発行されております。

速字の掲載語数は、書物により違いますが大体3,000～8,000語前後です。

中根式関係者で「速字典」を作成した人は少ないと思います。

昭和46年５月に「中根式速記術 簡字辞典」（約920語）を中根式速記協会北海道支部で発行しております。

速字典を作成するかどうかは、速記方式の創案理念や、指導者によります。

「速字典」には速記文字の最終形を掲載しますが、速記文字によっては人によって法則の運用方法が違いますので、どうしても指導者が使用しているものになります。

１つの言葉に対してＡの法則、Ｂの法則、Ｃの法則を使うかということに出合います。

中根式は、速記法則を重要視するので「速字典」はなじまないようです。

速字典を作成したら「法則」を覚えないで、略字を丸暗記する学習者が出るかもしれません。

速記者でも取れない速記？

平成16年４月２日

平成元年８月20日の速記科学研究会で「中根式の流れ」と題して行われた録音テープが残っております。

固有名詞や速記法則は〔　〕の中に片仮名で入れてみました。テープはかなりの早口で、話した本人も早すぎて聞き取れない、というシロモノです。瞬間的な速度は分速400字～分速450字ぐらいです。

プライバシー保護の観点から、話をされた速記関係者の名前を伏せておきます。

（前略）

……〔リャッカクホウ〕は〔モリ〕先生の符号でありまして〔マルウマル〕がコウギ、〔マルウマルウ〕がオウトウ、〔マルイマルン、マルンマルイ〕がサイキンと書いてあります。

（中略）

……〔レンゾクコウサリャクホウ〕でありますが、〔ヒモガキホウ〕とも呼んでおります。これは〔チュウカンショウカギ〕が発展したものではないかと思います。

（中略）

……〔カンジョウリャクホウ〕は中根速記学校で指導されたものであります。前の符号にかぶせて、ウン、ジョウを省略する方法です。

（中略）

……〔ショウカホウ〕も中根速記学校で指導されたものです。前の符号からすくってショ、ジョ、トウ、ドウを省略する方法です。

（中略）

……この他省略法名を挙げますと、〔カイリョウキホンモジ、ウレツカテンモジ、アギョウヒョウショウホウ、ヒンシュツオンセツシュッキホウ、ウスヌムルシュッキホウ、ゼットキホウ、ガイコクゴシュクジホウ〕、数詞、〔ギャクリュウハンテンシャクヨウ、ユウゴウキホウ〕があります。これは〔ウエタ〕先生が昭和63年に整理されたもので、〔チョクセンユウゴウ〕があります。

（中略）

〔ヒョウショウジョシ、セッショクドウシ、エムエムキホウ〕は〔ウエタ〕先生の符号で昭和56年３月に発表されております。
（中略）
……〔トクシュジョウダン〕これは〔イナガキマサオキ〕先生の符号で、主に動詞を処理するものでありまして、昭和24年１月号の〔ナカネソッキカイ〕に発表されております。形容詞、〔タンキホウ、サイショウセン、ツテ、ツタ、ロウ〕
〔セッキリャクホウ〕は〔ウエタ〕先生の符号で、昭和26年の中根式速記法原理に発表されております。
〔キョクダイセン、トクダイセン、スーパーライン、チョウサイダイセン、ヒョウイリャクホウ、トクテイリャクホウ、エンケイホウ、ヒョウショウホウ、コウクショウリャクホウ〕、併用略字。
〔ギャクギャッキホウ〕は〔ウエタ〕先生の符号で昭和62年６月18日に発表されております。後ほど〔ウエタ〕先生からご説明があると思います。
〔ダエンギャッキ〕は〔ウエタ〕先生の符号で、昭和62年６月13日の発表であります。
（後略）
というような内容ですが、中根式関係者でも知らない速記法則や速記文字が70カ所以上出てきます。
当日は速記関係者が15名参加しており、そのうち中根式関係者が６名参加していたと伝えられております。
こういう内容の話は第三者ではなく、本人が直接反訳をした方が確実だと思います。
速記法則オタクでないと、内容を理解できないでしょうね。

「速記法則問題」の作成方法

平成16年４月４日

「速記法則」の問題作成方法については、下記のものがあります。
極めて単純な方法ですが、各法則ごとに問題文を作成する方法です。
１．指導した速記法則を運用して速記文字を書く。
２．指導した速記法則の速記文字を国字に反訳する。
これが、速記法則問題における一般的な作成方法です。
さらにつけ加えると、
３．速記法則の説明文を空白にして、語群からの選択方式、あるいは適当な語の記述式です。
４．速記法則の説明を簡単な小論文形式でまとめる。
５．マルバツ形式の問題。
６．三択及び五択形式の問題。

７．100文字程度の速記文例と反訳文を掲載して速記文例で間違っている速記文字を探して正しい速記文字を書く問題。
８．短文の速記文例を書き、反訳文の〔　〕などに同音異義語の漢字を書き込む問題。
９．総合的なものとして、単語を幾つか出して、習った速記法則の中で最も簡単だと思う法則を応用して書く問題。
10．速記法則を指定して、教科書に掲載されている文例以外で10個の単語を書く問題。
などがあります。

速記法則における問題作成には、下記のことに留意します。

１．学習者用

１）各法則ごとに作成。
２）ある程度の範囲を決めて作成。
３）法則全体における総合的な内容。

２．指導者用

１）速記法則の指導法を含めた内容で作成する。
２）総合的な問題は複数にわけて作成する。

等々、いろいろな方法を駆使して問題文を作成します。

１つの問題で解答を複数にした「完全解答」という方法があります。１カ所でも答えが間違うと点数に加算されません。

商業簿記の「８桁清算表」では、この手法で行われます。１カ所でも間違ったら役に立たないからです。

速記法則問題でも「完全解答」の手法が使えます。

自動車の「普通車運転免許」などの学科試験ではマルバツ式の問題には、必ず「引っかけ問題」が入っております。

マルバツ式の問題には、必ず「引っかけ問題」を入れておきます。

同じ法則の問題を作成する場合でも「マルバツ」「五択」「記述」「小論文」「完全解答」では、難易度が違ってきます。

問題文を作成する場合には、速記法則にかなり精通してしていなければできません。

カギつきの日記帳

平成16年４月５日

高校時代に文通していた友人から、誕生祝いとして「カギつきの日記帳」をもらいました。

日記は１年分書ける分量になっているはずですが、１月１日から毎日１ページずつ書いても８月26日に書き終わってしまいました。

日記は毎日続かないもの、ということなんでしょうね。
最初は、カギを使用しておりましたが、途中で使い勝手が悪いのでカギの部品などを取り外して使用しました。
私は日記を速記文字で書いておりますので、第三者に読まれる心配がありませんでした。
当時、「カギつきの日記帳」は、第三者に日記を読まれたくないという人たちには売れ筋だったようですが、都合の悪いことを書く場合でしたら、速記文字で書いておけば心配がありません。
私自身が本当に都合が悪いことは日記には書きませんし、文書や文字として証拠を残しません。
ちなみに「カギつきの日記帳」の送り主も通信教育で速記を学習していた人ですが、その人は、日記を速記文字で書いていたか確認しておりません。
同じ速記方式でも、他人が書いた速記文字は読みにくいものです。
特に身内で速記を知っている者がいる場合には、速記文字を研究しておくか、別の速記方式で書いておきます。
私は日記とまでは行かなくても、Ｂ５判のノートに日誌をつけていた時期があります。国字で書くよりも、速記で書いた方が楽だという理由です。
30年以上前に、速記文字で書いた日記などは、今でも完全に読めますし、標準的な速記文字で書いておりました。

発展的内容

平成16年４月６日

> 発展的内容……小中高で教員が指導すべき内容を定めた学習指導要領の範囲を超える内容。文部科学省は「教科書は学習指導要領の範囲内」との基準を厳格に適用してきたが、新学習指導要領に基づく2001年の小中学校教科書検定が「学力低下を招く」と批判され、「指導要領は学ぶべき最低基準」と方針転換。基準を改定して教科書でも発展的内容の記述を認めた。……（平成16年３月31日　北海道新聞）

速記にも「発展的内容」があります。
速記のテキストでは、基本的な速記法則しか掲載しておりませんが、上乗せをした法則が発展的内容に相当しますし、１つの法則でも教科書に掲載されていない速記文字が存在します。
少し例を挙げますと、教科書には「上段」の法則は訓音換記法しか掲載されておりませんが、特殊上段という法則があります。これは「上段」における発展的内容に相当します。
「上段」の訓音換記法で「考える」は「コウ」と書きますが「考えん」の場合は

「コウ」に頭部加点をしてあらわします。「上段略字」で語尾が「〇ん」で終わるものには、頭部加点をつけます。

「行わん」「改めん」「戒めん」「認めん」「求めん」等々があります。

いずれの法則でも教科書に掲載されている以外の法則などは発展的内容に相当します。

また「速記史」もその一例です。中根式の教科書には「速記史」について、「中根式の歴史」を簡単に述べている程度です。田鎖綱紀翁が明治15年10月28日に「日本傍聴記録法」の講習会を行ったという記述がありません。

「早稲田式速記講義録」及び「早稲田速記講座」の通信教育用のテキストには、簡単な「速記史」を掲載しております。早稲田式のテキストに書かれている「速記史」を読んで「日本速記八十年史」及び「日本速記百年史」を読んだ場合は、教育的な立場ではなく、個人的な立場で「発展的内容」の学習をしたと言えます。

さらに「日本速記八十年史」及び「日本速記百年史」では物足りず「速記史」関連の資料を収集して読む場合もありますし、速記法則以外の速記概論、速記教育関係の資料・文献等を読むようになります。これも発展的内容をさらに発展させたものです。

中根式 速記問題集

平成16年４月７日

中根式速記協会北海道支部では、昭和47年12月に「中根式 速記問題集」を発行しております。Ｂ５判で48ページのものです。表紙には昭和47年11月30日～昭和47年12月３日作成と書かれております。

これは中根式速記協会北海道支部で指導者を養成するために作成したものですが、指導者を養成するには至りませんでした。

１．中根式速記学指導者用試験問題（100点）
２．中根式速記法問題（1000点）30ページで88問
３．中根式速記学問題（200点）
４．中根式速記術問題（分速240字×３分）
５．方式学問題（100点）

です。問題だけを作成して実施するに至りませんでしたが、なかなかおもしろい問題が掲載されております。

中根式速記法問題は、テキストを丸暗記していないとできないような問題が含まれております。

合格点数は決めておりませんが、

「速記法」は900点以上。

「速記学」は180点以上。

「速記術」は96点以上。許容ミス29字以内。

「方式学」は90点以上。
だったと伝え聞いております。
　「速記方式学」の問題を紹介してみましょう。

１．次の文章の空白に語を書き入れよ。
　１）符号速記には（複画派）（折衷派）（単画派）に分けられる。
　２）日本における四大方式には（早稲田式）（中根式）（衆議院式）（参議院式）がある。

　３）日本速記協会の推薦方式には（石村式）（イトー式）（熊崎式）（国字式）（田鎖式）（佃式）（中根式）（牧式）（山根式）（早稲田式）がある。
＊理事会では承認されなかった。
　４）日本では田鎖式が発表されてから現在まで約（100）の方式がある。
　５）現在、日本で指導されている方式は約（25）方式である。
　６）現在、実務で使用されている方式は約（60）方式である。

２．次の方式の系統を書け。
荒浪式（若林）、井辺式（熊崎）、大川式（中根）、加藤式（熊崎）、黒岩式（Lindsley）、国際式（Kunowski）、佐竹式（早稲田）、寿光式（国字）、武田式（Pitman）、デーゲン式（Stolze-schrey）、26年式（中根24年）、毎日式（松崎）、中根式（Pitman）、森山式（中根）、ユニ式（日速研）、米田式（熊崎）、中庸式（熊崎）、毛利式（Faulmann）、宅間式（Gregg）、Pitman 式（Taylor）、Graham 式（Pitman）

３．次の方式名を入れよ。
＊４方式の50音表を見て、方式名を書き込む問題があります。
　作問者を詮索するつもりは毛頭ありませんが、かなりひねくった問題が含まれております。
　「速記術」よりも「速記法則」を重視していたことが容易に推測できます。
また、下記のような問題もあります。

３．次の関係あるものを線で結べ。
　１）ブライト式　　体系化
　　ウィリス式　　考　案
　　メーソン式　　議事録作成
　　テイラー式　　実用化

　２）上記の国名を書け。
　　〔イギリス〕

３）アメリカ　　ピットマン式
フランス　　エーメパリ式
イギリス　　サカロフ式
日　　本　　ノエ式
ド イ ツ　　ヘロートミクリク式
イタリア　　統一式
ソビエト　　グレッグ式
チ ェ コ　　田鎖式
ス イ ス　　デュプロワイエ式
韓　　国　　南天式

当時の中根式速記協会北海道支部では、指導者養成に対して力を入れていたようです。

速記文字を盗む

平成16年４月９日

昔、中根式の先輩速記者から「人が書いた速記文字を盗んで覚えるように」と言われましたが、その割には原文帳と反訳した原稿の提供がありませんでした。

昔の職人は、仕事を覚えるときは仕事を見て盗め、と言っておりましたが、昔の速記界でもそういう風潮があったようです。

この「速記文字を盗む」こと自体がなかなかくせ者でして、速記文字をそのまま盗んで使用しても、ほとんど役に立ちませんでした。

私は先輩速記者に速記文字を教えていただきましたが、余り役に立つ書き方がありませんでした。

速記文字を略字単位で盗んできても、せいぜい役に立つのは１割もあればましなほうです。

その人が使用している速記文字と、自分で使用している速記文字の感覚が違いますと、採り入れる内容が少なくなります。

私は「速記文字をいただくときには、略字単位ではなく、法則単位でいただいてくる」という考え方を持っておりますし、その方が作業効率がよいからです。

速記文字は略字単位で考えるよりも、法則単位で考える方が、好みの速記法則体系が組めるからです。

自分で使用している法則体系に精通していなければ「速記法則」をいただいてきても失敗をします。

中根式は各地の指導者によっていろいろな速記法則があります。その中から自分の好みに合った速記法則に出合うことは非常に少ないものです。

速記法則の指導

平成16年４月10日

速記学校では体系的な法則を指導しますが、指導する側と学習者の側では違います。

指導する側

速記学習者が全部の速記法則を使用するかどうかは別にして、一定期間内に速記法則の指導を終わらせなければなりません。一定期間に速記法則を指導する場合には、指導者の方で１年間のカリキュラムを組みます。速記学校の場合ですと、学習者のレベルに関係なく授業内容を組んでいきます。学習者が速記法則をどの程度理解しているかは、ある程度は本人次第という面もあります。

また、指導した全法則体系を使用することまでは要求しませんが、最低限の基本となる速記法則だけは使えるように指導します。速記法則は「知識」としての指導です。あとは速記法則における応用力だけです。

学習者の側

ほとんどの学習者は、指導されたように速記法則を覚えますが、これもせいぜい最初の１～２年間ぐらいです。

ノートには習った速記法則を書き取っていても、人によっては書きにくい速記文字は自然にわかってきますから、自然に整理されていきます。

速記学校では「知識」として速記法則を習っても、実際に使用する速記法則には、好みがありますので、個人によって運用する法則は異なります。

私自身も速記学校時代に習った速記法則は今でも全部覚えておりますが、全ての法則を使用しているわけではありません。書きにくい速記法則は使用しないで、別の速記法則を使用しております。

既成概念

平成16年５月２日

昭和53年11ごろに速記仲間のＫさんと２人で、早稲田速記学校の学校祭へ行きました。

展示室へ行ったら、１分間に何字書けるかというコーナーがありました。20字刻みで速度を上げていくやり方でした。

私は分速100字を片仮名で書く自信がありました。分速120字は速記文字で書きました。早稲田速記学校の生徒が、

「何式ですか」

「何式でもいいじゃない」

「中根式でもないですね」

「どうして」
「中根式だと、頭にいろいろな符号をつけますから」
　早稲田式の人には、中根式は線の頭部へいろいろな符号をつけるという既成概念があったようです。
　私は濃線を使いませんし、濃線と区別するときにはダッシュを使用しております。
　中根式では他式の人が思っているほど、全体的な速記文例を見てもわかるように頭部符号を使用する割合は少ないと思います。

質問し損ねた速記文字

平成16年５月８日

　中根速記学校在学時代は、先生に速記文字を質問する回数は少なかったと思っております。
　速度練習では、大抵の言葉は習った省略法で書いておりましたが、今、考えてみると先生に質問をし損なった速記文字が幾つか残っております。
　下段文字の「ナガラ」は、「ヌ」ですが、なぜ「ヌ」と書くのか今でもわからずじまいです。
　古い中根式の文献を調査すると、中根正親著「中根式速記法講解」及び本山桂川著「応用速記術の秘訣」には掲載されておりません。
　中根正世著「通俗　中根式速記法」に掲載されている書き方ですが、下段略字の説明でも「ナガラ」については触れておりません。
　私は中根正世先生と何度もお会いしていながら、質問をし損なった速記文字の１つです。
　「シカシナガラ」の「シに」は、中間小カギで「シナ」と書いて、「ナ」の部分を消したことが容易に推測できます。
　助詞の「ニ」は、元々「小カギ」を順記した形です。中根正世著「通俗中根式速記法」の助詞の「ニ」は小カギを順記して書きます。下段の速記文字は「シに」の説明ですが、中根洋子著「中根式　速記の基本教程」では「シの」で説明しております。
　また、中根速記学校で「ご承知のとおり」は、最大線の２倍で書く「極大線」を習いましたが、「ご承知のことと」等々の変化形については先生に質問をし損ないました。
　在学中に質問をし損なった速記文字は、別の中根式関係のテキストを読みながら解決したものが幾つかあります。
　ちなみに「ご承知のことと」は、「中間小カギ」で「ココ」と書いて「助詞」の「ト」を続けております。

中根式速記発表90周年について

平成16年５月10日

大正３年５月10日の大阪毎日新聞に「新案出の速記術　大学生の発明」という記事が掲載されてから満90年になりました。

当サイトでは「速記随想集」の「中根速記学校における体系」に新聞記事を掲載しておりますので、既にご承知のことと思います。

中根正親先生が創案された「中根式速記法」は幾多の研究者によって研究・改良をされて現在に伝えられております。

中根式速記法は90年の歴史を有している速記方式ですが、昭和初期に基本文字の角度が変更された程度です。

令弟・正世先生は、正親先生が発表された速記法則を大正末期より整理・改良して旧制の全国中等学校を中心に普及しました。

中根正世著「通俗　中根式速記法」が昭和２年11月15日に発行されました。

中根式では「通俗　中根式速記法」の法則体系が中根式の標準体系として普及しました。

中根式における速記法則研究の大きな流れとして、**正親先生の法則**から**正世先生の法則体系**と、**森卓明先生の法則体系**へと発展しました。

現在使用されている中根式は、正世先生の法則体系を基礎にした研究が伝えられております。

現在の中根式は、創案当時の速記法則を受け継いだものも残っておりますし、廃止をされた速記法則もあります。

現在、使われている中根式は各地の研究者によっていろいろな速記法則が伝えられておりますし、創案当時とは比べものにならないほど研究・改良が行われております。

当サイトでは、ＰＤＦ版「中根式速記法教程」をダウンロードできるようにしましたが、この法則体系の基礎をなすものは、私が中根速記学校で指導を受けた法則と、植田裕先生が研究された法則を折衷して、私がさらに整理した法則体系です。

従来の中根式関係者には、なじみが薄い速記法則も入っておりますし、「速記法則の部屋」では、中根式における速記法則の深さを紹介しております。

中根式では90年という長い歴史を有しておりながら、新しい速記法則が入っております。

中根式は基本的な速記法則の骨格ができており、時代とともに新しい法則を肉づけできる方式です。

標準的な中根式は創案以来、90年間「基本文字」を変えずに、速記法則を中心に研究・改良を続けてきた速記方式です。

また、中根式は研究者と指導者に恵まれた数少ない速記方式です。

我々中根式関係者は、さらに10年後の「中根式速記発表100周年」へ向けて、中根式の創案精神、速記文字などを後世へ伝えていかなければなりません。

「日本速記○○年史」「速記年表」「文献目録」について

平成16年５月18日

平成15年５月14日に日本速記120年記念会から「日本速記年表／速記関係文献目録」が発行されておりますが、この歴史的な流れを紹介しましょう。

昭和７年の日本速記発表50年では「日本速記五十年史」（Ａ５判 422ページ）が昭和９年10月28日に発行されました。

各執筆担当者は下記のとおりです。

日本速記術の起源……森田恭平
日本速記術の各式とその発達……安田勝蔵
速記者団体の興亡……安田勝蔵
貴族院における速記……内海千壽、友野勝雄
衆議院における速記……浅川　隼
地方議会速記の沿革……三角治助
電話速記の沿革……菅野市吉
講談落語速記の沿革……長谷川一雄
裁判速記の沿革……下島二郎
座談会速記の沿革……松村春次
ラジオ速記の沿革……堀口六太郎

というそうそうたる顔ぶれです。速記関係者なら一度は聞いたことがある名前だと思います。

昭和17年11月25日に武部良明著「日本速記方式発達史」が日本書房から発行されました。奥付には1,000部と印刷されております。

「日本速記方式発達史」の319～336ページに「速記関係書目」があります。単行本及び速記雑誌一覧が掲載されております。

この「速記関係書目」は衆議院速記課の三角治助さんが調査・編集されたものです。

また、三角さんは昭和27年10月28日の日本速記発表70周年では「日本速記年表」を編集されております。

昭和26年８月５日に武部良明さんが「国語速記史大要（上）」を衆議院速記者養成所の教科書の一部としてまとめました。昭和27年２月５日に「国語速記大要（下）」をまとめて日本速記協会から発行されました。

我が国の速記界では昭和27年に「速記史」関係の基礎資料が整いました。

昭和38年10月28日の日本速記発表80年では武部良明さんが「日本速記八十年史」を執筆されました。

また、坂内徳松さんが「日本速記年表」を編集されました。

昭和47年の日本速記発表90年では、向井征二さんが「速記の歴史〈西洋編〉」を機関誌：日本の速記に連載されました。昭和48年３月１日に社団法人日本速記協会から１冊にまとめられたものが発行されました。

昭和58年10月28日の日本速記発表100年では「日本速記百年記念誌」が発行されております。

「記念誌」「日本速記百年史」「速記関係文献目録」「日本速記年表」が１冊の本としてまとめられました。

また「日本速記百年史」と「日本速記年表」を１冊にして別冊で発行されております。

平成４年の日本速記発表110年では「速記符号集」が発行されました。

社団法人日本速記協会調査部の中に平成６年６月22日から、速記年表を担当する「ヒストリアン」及び、文献目録を担当する「ライブラリアン」が設けられて今日に至っております。プライバシー保護の観点から、担当者の名前は公表しません。

平成14年10月28日の日本速記発表120年では「日本速記年表／速記関係文献目録」が発行されました。

我が国の速記界では70年以上も前から、地道で気が遠くなるような作業が今日まで脈々と伝えられております。

トリビアの探し方

平成16年５月19日

平成16年５月19日付「北海道新聞」夕刊の文化欄「ぶっくまあく」に「トリビアの探し方」について掲載されておりました。

速記と関連があると思いましたので紹介します。

トリビアと呼ばれる雑学情報がもてはやされている。その昔、雑学に詳しい人はあらゆる分野の本を読んでいて、そこからいろいろな話を引き出してきた。今はどうか。

知識をふやすに当たって、インターネットによる情報検索は確かに便利。辞典・事典や手元の資料だけでわからない情報を探すときに、キーワードを入力するだけで関連の情報が出てくる。

ただし並び方は不連続、ランダム。どの情報が信用できるかどうかは、自分で判断するしかない。得られた知識も結局は断片的なもので、自分の中で意味のある蓄積にはならないように思える。

もともとトリビアと言われるものも、それぞれの情報は何らかの体系の中に位置づけられるはず。そして、その体系を築いてきた人たちがいて、編集された形で残してきた。

１冊の本も、個人あるいは集団によって編み出された１つの体系。図書館や書店で必要な本を探す、本の中で情報を探す、あるいは全体を楽しむ。時間がかかるけれど、その森の中に分け入って右往左往するのも、意味のないことではない。

今は小学校からパソコンを教える時代。操作や検索方法だけでなく、インター

ネットによるランダムな情報羅列をどう読み解くか、それを自分でどう組み立てるか、その教育も必要になるだろう。（坂本充浩）

インターネットで「速記を学習したい」「速記について調べたい」という人は、最初に「速記」というキーワードで検索をすると思います。

どの検索サイトを使用するかわかりませんが、私がよく使用する Google で「速記」を検索すると、33,300件が該当します。

閲覧者が最初に開くサイトは「速記学習者このページに集まれ！」だと思います。そしていろいろな情報収集をしながら速記関係のリンクで調査をします。

現在はインターネットで簡単に情報収集ができるようになりましたが、私が速記を学習した時代は、速記の本を入手する方法は、書店、古書店、速記の教育機関でした。

当時の新聞には通信教育の広告覧に速記の受講案内が掲載されておりました。

当時はいずれかの方法で速記の本が簡単に入手できた時代です。

現在と比べて、どちらの時代が便利かわかりませんが、速記関係のいろいろな分野の本を集めるのでしたら、昔の方がはるかに便利だったと思います。

現在では古書店でもなかなか速記の本が出てきませんし、書店にも置いておりません。

速記の全体的なことで情報収集するのでしたら、インターネットで検索するのは非常に便利ですが、もっと深く速記関係について情報収集をしようと思えば書籍にはかないません。

「日本速記発表○○年」で刊行された本について

平成16年５月20日

日本速記発表○○周年記念で「日本速記協会」及び「社団法人日本速記協会」から下記の出版物が発行されております。

また（　）のものは協会本部以外のところから発行されております。

日本速記発表50年

日本速記五十年史／日本速記者名鑑

日本速記発表70年

速記年表／日本速記者名鑑／速記の知識

（速記 研究と回顧：京都速記士会）

日本速記発表80年

日本速記八十年史／速記年表／日本速記者名鑑／速記のしおり

日本速記発表90年

速記歴史〈西洋編〉

日本速記発表100年

日本速記百年史／速記年表／日本速記者名鑑／日本速記百年写真集／速記の知識

（ことばの写真をとれ―日本最初の速記者・若林玝蔵伝―：さきたま出版会）／（速記ガイド：速記ガイド編集委員会）

日本速記発表110年

速記符号集

（速記符号文例集：速記懇談会）

日本速記発表120年

日本速記年表／速記関係文献目録／日本速記協会会員名簿／速記の歴史 ── 速記って、なあに ──

などが発行されております。

いずれも速記史及び基礎資料となるものであり、速記方式の盛衰を読み取ることができます。

当然のことですが「日本速記五十年史」は、旧漢字及び旧仮名遣いですので、かなり読み応えがあります。

速記指導者

平成16年５月21日

私が高校時代から個人的なおつき合いをいただいた弘前市の川村速記学校の校長先生がおりました。

戦前は中根速記学校の先生で、速記の指導力がすぐれていた先生です。戦後は弘前市で速記学校を設立されております。

中根式関係者なら名前ぐらいはご存じかと思います。

私が中根速記学校の本科生時代に、中根式の全国大会が行われたとき、川村秀蔵先生とお会いして

「速記の指導者になるにはどうしたらよいのでしょうか」

と質問をしました。川村先生から

「速記学校を卒業することです」

とご教示いただきましたが、私は肝心な指導者となるための科目を聞きそびれてしまいました。

「速記学校を卒業する」という意味は、速記学校の授業で速記の指導方法も覚えることだと思いました。

速記法則の指導方法、授業の展開、速度練習の朗読方法等々、単に生徒として速記学校の授業を受けるのではなく、指導をするときには、どのように指導を行うか、ということも含んでいたと思います。

私は中根速記学校入学以来、先生が速記法則を指導する場合には、特に真剣に聞いておりました。

速記法則の指導方法をどの段階で次の法則を指導するかなどを日記につけておりま

した。
　また速記法則を指導したあとの授業方法も学習してきました。
　指導者の場合は速記が書けるだけではなく、速記法則の成り立ち、速記法則の運用方法を知らなければいけないと考え、いろいろな速記関係の文献などを調べました。
　そのかいがあったかどうかわかりませんが、いろいろな速記関係の資料収集に興味を持ちました。
　中根式関係のテキストなども精力的に集めましたが、私自身がいろいろな速記法則体系の中で使用してみたい、と思った法則は少ないものでした。
　中根速記学校の指導法は開校以来、長年にわたり研究を積み上げてきたものです。中根速記学校の指導法を参考にして、私なりに指導法も研究してみました。
　授業時間で基礎になるのは２時間です。この２時間における時間の配分です。

統一式／みんなの速記

平成16年７月19日

　社団法人日本速記協会「第二次 21世紀開発委員会」で幅広く討議されておりますが、特に気になるのは「標準方式」「統一方式」「みんなの速記」「手書き速記保存会」についてです。

「統一方式／みんなの速記」について

○Ｋ委員が、
　「（前略）みんなの速記を本気を出してやるのか打ちどめか、方向を決めていただきたい（中略）そこら辺について決着をある程度つけてもらいたい」
○Ｎ副理事長は、
　「ここで論議しなくても、そういう考え方があるということで、今後論議していけばよいと思う」
○委員長は、
　「簡単に決着がつく問題ではなくて、多数決で決定しても不十分な結果になることが心配される」
と論議されております。Ｋ委員は総会の席でも「統一式」について意見を述べておりますが、我々速記関係者にとって「統一式」をつくる必要があるのでしょうか。
　我々速記関係者は既存の速記方式で間に合っておりますし、使用している速記文字をいろいろと改良をしながら使用しております。
　中根式には**中根式の創案精神があり90年の歴史を有して**おります。
＊当サイト「速記資料館」“中根式速記法講解”及び“立案の根本方針”を参照。
　早稲田式には**創案の五大綱領があり70年以上の歴史を有して**おります。
　速記学習者が激減したから「統一式」をつくる、「みんなの速記」をつくるという発想はいかがなものでしょうか。

仮に新方式をつくってもどれだけの効果があるのでしょうか。
万人が満足できる使いやすい速記方式をつくることには無理があります。
早稲田式が向いている人、中根式が向いている人、石村式が向いている人等々、各速記方式の速記文字の法則構成に向いているから、既存の速記方式が存在しております。
既存の速記方式が向かない人は自分で研究しております。
１つの既存方式で満足できない場合は、同式のいろいろな文献等を収集して自分で好みの法則体系を組み立てて使用しております。
特に**速記指導者**は、自分で使用している方式における創案精神の理想・理念を捨ててまで「統一式」を指導しません。
果たして「統一式」は何年後に完成するのか、あるいは、指導者の養成はどうするのか、テキストをどうするのか、等々いろいろな問題があります。
そして、だれが「統一式」を中心になって研究を行うのかという問題があります。
私は「統一式」をつくるよりも、既存の方式をどのようにして指導するかが最優先課題ではないかと思います。
○委員長は、
「簡単に決着がつく問題ではなくて、多数決で決定しても不十分な結果になることが心配される」
と**明言**されております。何でも多数決で決めればよいというものではありません。逆に多くの速記関係者の反対に遭うことは目に見えております。
特に速記研究者からは猛反対に遭うことだけは避けられない事実でしょう。
速記方式は上意下達されるものではなく、個人が自由な発想で研究・改良ができるものでなければいけません。
「速記の底辺が広がる」かどうかは、速記の普及及び教育方法をどのように行うかです。
「手書き速記保存会」について
○Ｉ委員が、
「（前略）手書き速記の伝統も保存するという二本立ての形になっていかざるを得ないのじゃないか」
○Ｓ委員は、
「（前略）手書き速記に関しては保存会でいい」
手書き速記の伝統を保存する、保存会でいい、という発言はいかがなものでしょうか。
当サイトでは**「速記指導者養成計画案」**を掲載しておりますが、
「我々、符号速記者自身が符号速記保存会という団体をつくらないためには、速記に対する意識を向上させることはもとより、後世に符号速記の後継者を残すという使命と自覚を持ち、アマチュアに対して符号速記を残していかなければならない」
と書いておりますし、現在、手書き速記者が主流を占めている中で「手書き速記保存

会」をつくる？という発想はいかがなものでしょうか。

英訓換記法

平成16年７月26日

私の速記学習時代ですが、中根式速記協会北海道支部長の紹介で支部員の中野勲さんを紹介していただきました。

３人で小樽市のスナックだったと記憶しておりますが、中野さんに速記文字の質問をしたことがあります。

「“私”は上段に“シ”と書きますが、“アナタ”という速記文字はどのように書きますか」

中野さんは間髪を入れずに

「上段に“イウ”と書きます」

「？」

「英語で“アナタ”は“you”でしょう」

「“イウ”ですか」

私も上段に“イウ”と書くことには、気がつきませんでしたが、実際に使用してみると、速記文字が安定をしなくて使い勝手が悪い書き方でした。

１年もしないうちに、私は田口京子さんから植田裕先生が指導されたノートを書写する機会があり、“アナタ”の書き方はタ行の各行縮記法で“アナつ”という書き方がわかりました。

ナ行の各行縮記法で書けば“アんタ”ですが、“アンタ”という言葉がありますので、タ行の各行縮記法で“アナつ”の方が速記文字が安定して書けます。

中根式には「上段」の中に**一般上段**と**特殊上段**という法則があり、一般上段は「訓音換記法」ですが、中野さんが言われた書き方は「英訓換記法」？になるのでしょうか。

私は４年後に「中根式速記学指導者用教範」という資料をまとめたので、中野さんへお送りしました。

浪曲で速記の練習

平成16年７月30日

速記史をひもといてみると、明治時代には「講談速記」が盛んに行われていたと伝えられております。

大正時代になって講談速記が衰退しております。当時は講談師と出版社との間でいろいろなことがあったと伝えられております。

私の速記仲間に浪曲が好きな者がおりまして、双葉百合子の歌謡浪曲を録音してお

いて速記を練習していた者がおります。現在でも速記界にいる方なので、プライバシー保護の観点から実名は伏せます。

彼の言によると、入院中は暇でやることがなく、たまたまラジオで浪曲を放送していたので、暇を持て余して速記を練習していたとのことでした。

何回も練習をしていてしまいには、次の言葉がわかるようになったとのことでした。

これこそ、趣味と実益をうまく活用した？速記の練習だったのではないでしょうか。

退院後は、浪曲は余り聞かなくなったようです。彼が言によると、他の浪曲師の浪曲よりも双葉百合子のものが一番書きやすかったそうです。

双葉百合子の声がはっきりしていたことと、速度が速くもなく遅くもなく手ごろの速度であったそうです。彼は当時、20代後半の若者でした。

彼は音痴でしたから、さすがに浪曲の方はうならなかったと伝え聞いております。

先代・広沢虎三の浪曲「清水の次郎長伝」は、速記の練習よりも浪曲を聞いている方がおもしろかったと言っておりました。

速記曼荼羅鉛筆供養

平成16年８月５日

竹島茂著「速記曼荼羅鉛筆供養」の上下巻を**「速記史」**として読むか、あるいは**「大河内発五郎伝」**として読むかによって、読み方が変わってきます。

著者は昭和40年代前半に古老と言われる速記関係者から聞き書きされておりますが、この調査力と費やしたエネルギーに対して驚嘆します。

聞き書き調査から30年以上経過した今日では、当時、調査に協力された速記関係者のほとんどが物故者になりました。速記史として非常に貴重な資料です。

１人の人物について調査するために、複数の速記関係者から聞き書きしておりますが、我が国の速記界では、この時期を逸したら古老と言われる速記関係者は物故者になり、永遠に当時のことがわからなかったと思います。

速記史として読む場合でも、「日本速記八十年史」及び「日本速記百年史」は速記通史としての価値はありますが、「日本速記五十年史」は、前書とは編集の趣旨が違います。

また「速記曼荼羅鉛筆供養」は、速記通史には書かれていない速記史の裏面をまとめておりますし、後世の速記関係者には速記史としていろいろな事実を知ることが多くあります。

また、大河内発五郎を中心とした同時代の速記者群像などがわかります。

「日本速記五十年史」には、古い速記関係者の名前が掲載されている程度で、どういう人物だったかまで知ることができません。

「速記曼荼羅鉛筆供養」では、いろいろな速記関係者の聞き書きからある程度の人物像がわかりますし、掲載されている写真などを見て、こういう人なのか、というこ

ともわかります。
　大河内発五郎は、速記者としては型破りの人物で、速記界では敵も多くいたようですが、逆に門弟の面倒もよく見たようです。
　大河内は今村次郎について講談速記から速記者としての生活が始まり、佃与次郎の門に入って新聞速記者、衆議院の速記者を経て、最後は新講談という分野で活躍しました。
　また、速記界の大同団結ということで日本速記協会の設立でも活躍しますが、現在の社団法人日本速記協会とは設立当初の趣旨は違った面もあります。
　私も高畠政之助の名前ぐらいは知っておりましたが、大河内発五郎と兄弟だったことは意外でした。
　講談社のＯＢで「講談五百年」をまとめた、佐野孝（本名・中村博）は、大河内発五郎に対しては手厳しく評価しておりますが、編集者側の言い分は、晩年における新講談作家・大河内発五郎の一面がわかると思います。
　「速記曼荼羅鉛筆供養」下巻の373ページには「佛説沙布禮経」が掲載されておりますので、書名の由来がわかります。速記史の文献等で「鉛筆供養」が行われたという記述が掲載されている程度です。
　「鉛筆供養」の記事を見ていると、参加した衆議院の速記者は、かなり羽目を外していたようです。
　また「佛説沙布禮経」を読むと、何カ所か「経典」の一部分が使用されております。
　「日本速記年表」などを併せて読むと「速記史」についても深く理解ができると思います。

不思議な速記仲間

平成16年８月20日

　昭和53年から、速記（LA STENO）に毎月のように駄文を投稿していたときに、購読者の中に河上哲志さんという方がおりました。30歳前後で突然亡くなられました。
　早稲田速記学校夜間部の卒業生で、年齢は私よりも２歳ほど下だったと記憶しております。
　河上さんは、カナ文字論者だったようです。私がお会いしたのは速記科学研究会のときだったと思いますが、自己紹介をしたときに、速記（LA STENO）の原稿を読んで、私が年配者だと思っていたようです。
　昭和58年ごろだったと思いますが、河上さんから、私がいろいろな機関誌等に書いた原稿のコピーをほしいと言ってコピー代を送ってきたことがあります。
　私も、物好きな人だと思いながら、機関誌等に投稿した原稿のコピーをお送りしました。
　河上さんから「ひらがな　たんか　15号」（昭和55年３月１日発行）が送られてき

ました。
河上さんが、12ページに「そっきについて」早稲田式の50音を書いております。
13ページに「もじ」
14～15ページに「そっき　を　まなぶ　にわ」
19ページに「うめくさ」
表紙の裏には「石村式」「田鎖式」「中根式」「河上式？」で「ひらがな　かたかな　ろーまじ　こえ　の　ぶんがく　うんどう　として　あるき　つづけます」という文例を書いております。
原稿内容はすべてひらがなで分かち書きをしておりますが、読みにくいというのが実感です。

１＋１＝∞

平成16年８月27日

個人が運営しているほとんどのホームページでは、管理人が原稿作成の段階から、市販のホームページソフトを使用して１人で作業を行っております。
１人１人の能力には限界があります。
当サイトでは「原稿作成」と「ホームページ作成」は二人一組の作業分担で行っております。管理人と相棒は立場が対等の関係です。
当サイトでは、管理人が原稿作成の段階まで行います。
相棒が原稿を見てデザイン等を考えながら作業を行っております。もちろん相棒は速記ができますので、デザイン等は全てお任せしております。私がイメージしている以上のホームページができ上がっております。
当サイトでは、速記文字を多く使用する場合はＰＤＦファイルを使用しておりますが、これは相棒のアイデアです。
当サイトの編集会議は、全てメールで行っております。
原稿の受け渡しは、文章物でしたら、メールでそのまま送れますし、速記文字を使用する図版はスキャナで画像ファイルを作成します。画像ファイルが10枚以内なら圧縮ファイルにすれば、添付ファイルで送れますが、枚数が多い場合には CD-R に保存して郵送で行います。
私が１人で作業を行うのは「速記雑感」です。こちらは特にテーマを決めておりませんので、書き込む前日まで管理人自身もわからないコーナーの１つです。
当サイトでは速記方式を問わず「手書き速記」のみを取り扱っておりますが、速記界における政治的な内容（業界、速記料金等）は取り扱っておりません。
速記サイトの場合は**文章と速記文字を掲載するバランスの難しさ**です。文章物、速記文字のみを掲載したホームページでは閲覧者が飽きてしまいます。
特に、リンクしている速記サイトとは掲載する**原稿の内容がかち合わない**ように配

慮しております。
当サイトは、共同作業で速記サイトを運営する新しい形態だと思います。

「速記道楽」開店１周年

平成16年８月31日

速記サイトを平成15年８月31日に開店して満１年を迎えました。
昨年の３月12日に相棒のブラックさんからホームページ開設の話がありましたが、私はホームページへ掲載する原稿作成に自信がありませんので、一度断りました。
その後、速記仲間が運営しているホームページの「掲示板」へ書き込んでおりましたが、Ｔさんが５月15日に「だれかＨＰを作ってあげてください」と書き込まれました。
同日の書き込みに、私も「どなたか、ついでに“道楽おやじ専用コーナー”を設けてもらえればありがたいですね」と書き込みました。
早速、５月17日に、ブラックさんから、ホームページの試作品を作成していただきました。
試作品は「速記　道楽おやじコーナー」です。
私は試作品を見たときに、このコーナーをホームページの最初のほうへ掲載すれば何とかなりそうだと思いました。ホームページを開店するまでは、相棒とメールでホームページの細かい打ち合わせ作業を行いました。
私が原稿を作成して、相棒がホームページの作成作業を行う分担作業を２カ月半という短期間で行いました。
最初の作業は、速記関係の機関誌等に投稿した原稿から選びました。
私自身が投稿した原稿は、ワープロを使用していたころから全て入力をしておりました。パソコンへ切りかえたときには、文字データは MS-DOS ファイルからパソコンのファイルへ移しております。
原稿の内容で年代的に合わないものは、書き直した部分もありますし、ホームページ用に新たに原稿作成したものもあります。
文字原稿だけではなく、速記文字を掲載するために、「中根式速記法教程」を抜粋して「中根式速記法概要」を新しく作成しました。
速記文例等はホームページ用に新しく作成しました。
相棒は速記以外のサイトを幾つも手がけておりますが、速記サイトを手がけるのは初めてだったと思います。相棒が苦労をしたのは速記文字を見ながらホームページのデザイン等を考えることだったと思います。
開店当時は３ＭＢの容量から出発しましたが、相棒が短期間でこれだけの容量を作成する作業量は大変だったと思います。
私は相棒に「速記のサイトですから、すっきりしたデザインでお願いします」とい

うことで全てを任せました。
当サイトでは図版を使用している割には、閲覧をするのに重く感じないと思います。
また、ことしは中根式速記発表90周年記念に当たりましたので、ＰＤＦ版「中根式速記法教程」をダウンロードできるようにしました。
相棒がＯＳに関係なくＰＤＦ版をタウンロードできるように作成しました。
相棒とのメールで掲載する内容を打ち合わせていて、いろいろな企画が出てきました。
当サイトでは、管理人が原稿作成、相棒がホームページ作成をする。そして編集・企画は２人で行う「１＋１＝∞」という完全な分業体制をつくり上げました。
速記サイトのデザイン等は、速記ができなければイメージが沸かないと思います。

速記文字の説明

平成16年９月17日

基本文字を説明する場合には、「基本文字表」を使用して説明する場合と、基本文字表なしで速記文字の形状を説明する場合があります。
速記関係サイトの「掲示板」には下記のような基本文字の説明がありました。
「掲示板」ですから、速記文字を掲載しておりません。
ア列の２倍がイ列、ア列の３倍がウ列、オ列はア列と同じ長さで、オ列の２倍がエ列。
アは左回転の２時方向、オは右回転の２時方向
カは３時方向の直線、コは６時方向の直線
サは右回転で４時方向、ソは左回転で４時方向
タは４時方向の直線、トは２時方向の直線
ナは３時方向で左回転、ノは３時方向で右回転
ハは６時方向で右回転、ホは６時方向で左回転
マは５時方向の直線、モは７時方向の直線
ヤは５時方向の右回転、ユはヤの倍、ヨは５時方向の左回転
ラは７時方向の右回転、ロは７時方向の左回転
ワは７時方向の左回転で３倍線
という説明です。各〇時の間は30度の角度と言えそうです。
方角が全て30度単位で構成されている場合は、ともかくとして、15度、45度、75度の場合はどのように表記するのか考えてしまいました。速記方式によっては22.5度という角度もあります。
360度で角度をあらわす場合もありますが、この方法もわかりにくい方法です。
＋の左側から中心に向かって０度ですが、中根式のアを説明する場合には150度になります。

＋の中心から右に向かって０度と設定すると、中根式のアは30度ですが、タは－30度になります。
中根式の基本文字を説明する場合には、
アは左下から右上30度で約４ミリの曲線、弧は下側。（あるいは負側）
イは左下から右上30度で約４ミリの曲線、弧は上側。（あるいは正側）
：
：
カは０度で約４ミリの直線。（あるいは水平線）
というように説明した方がわかりやすいようです。

10月は速記月間

平成16年10月１日

10月は速記界恒例の「速記月間」です。
10月28日は速記関係者ならどなたでもご存じの「速記記念日」です。
「日本速記年表」で10月を調べてみました。
明治15年10月28日　田鎖綱紀による「日本傍聴筆記法」の開講式が、日本橋通４丁目の小林茶亭（貸席）で行われました。
＊明治15年３月に福沢諭吉が創刊した時事新報の第169号（明治15年９月19日）に楳の家元園子（田鎖綱紀の戯号）の**「日本傍聴記録法」**という名称で一文が掲載されております。
昭和11年10月13日　日本速記協会主催の第１回速記技術認定試験が東京で行われました。
昭和40年10月15日　日本速記協会が社団法人として正式に認可されました。
昭和40年10月21日　日本速記協会が任意団体としての日本速記協会最後の定時総会が開かれ、続いて社団法人日本速記協会発会式並びに祝賀パーティーが全国町村会館大ホールで行われました。
社団法人日本速記協会の通常総会は、毎年10月28日前後に行われております。

平成16年10月の行事は、
10月17日　旭川地域生涯学習インストラクターの会主催で「速記入門講座」が行われます。
旭川では中根式の速記講座が49年ぶりに行われます。
10月20日～22日　社団法人日本速記協会主催の「第56回　全国議事記録議事運営事務研修会」。
10月23日　社団法人日本速記協会主催の「高速度速記競技会」「2004字速記競技大会（中速度速記競技会）」高速入力競技会（パソコン入力の部）。

10月23日　東京速記士会主催の「速記競技会」が行われます。
10月29日　社団法人日本速記協会の通常総会が行われます。
10月31日　速記懇談会が名古屋市で行われます。

時機が大切

平成16年10月16日

何事を行う場合でも時機が大切です。

速記を指導する場合でも、指導者の方から「速記を学習しませんか」と、話を持ちかけるよりも、学習者の方から「速記を学びたい」というきっかけづくりも大切です。

昭和56年の中央審議会答申では、「これからの学習は、各人が自発的意思に基づいて行うことを基本とするものであり、必要に応じ、自己に適した手段・方法は、これを自ら選んで、生涯を通じて行うものである。この意味では、これを生涯学習と呼ぶのがふさわしい」と述べております。このことから、生涯学習とは、「１．各人＝国民一人一人が行う学習」であり、人から言われて行うのではなく、「２．自発的意志に基づいて行う」ことを基本とし、「３．自分が必要と思ったときに」、「４．自分に適した手段や方法を自分自身で選んで」、「５．生涯を通じて行う」学習であると言えます。

出典：真柄正幸：生涯学習インストラクター機関紙15号より

私は学習者が「速記を学習したい」と思ったときが、指導をするチャンスだと考えております。速記をやりたくない人を無理に誘っても失敗します。本当に速記を学習したい人にだけ指導をする、という考え方を持っております。

速記学校用と生涯学習用とは、指導方法が違います。生涯学習では、なるべく落伍者を出さないようにします。速記の楽しさ、おもしろさだけではなく、各学習段階における速記の使用方法も指導します。少人数の方が細かいところまで目が届きます。学習者の各人の理解力を把握できますし、わからないときには、何度でも説明をすることも必要です。指導者は優秀な学習者にペースに合わせるのではなく、各学習者ごとに合わせることも必要です。

また、速記関係機関誌の原稿依頼でも、時機があります。原稿依頼を受けても、何も書くことがない場合が往々にしてあります。

原稿依頼も原稿の書き手がたまたま書くことがあれば原稿を書けます。

速記入門講座の展開

平成16年10月19日

初心者を対象とした「速記入門講座」は下記のように行います。

初心者を指導する場合には、指導者がどこまでテキストを作成するかということも含まれております。

１．簡単なテキストを作成するタイプ。

２．詳細なテキストを作成するタイプ。

２～３時間という限られた時間内で「基本文字」を講習する場合には、「速記とは？」ということから説明をしなければなりません。この時間は20分～30分以内で終わらせます。内容は、

生涯学習における速記教育について／アマチュア速記について／速記と年齢／速記学習年齢／「速記」って速く書けるの？／速記文字はこんなに簡単!!／「速記」のスピード／「速記」の歴史について／中根式の歴史／「速記」は難しくありませんか？／「速記体系」はどうなっているの？

までは、簡単に行いたい内容です。この内容はＡ４判で12ページの内容です。

テキストを作成する場合には、受講者が読めばわかるようにしておきます。説明は各項目ごとに簡単に行います。それと自分の体験談をまじえて話します。

次に「速記の実演」を行います。ほとんどの指導者は実演を行う場合には、黙って速記文字を書いております。

これでは、初心者が実演を見ていてもどの部分を書いているのかわかりません。初心者は動態視力がありませんので、速度を落としたもので、オウム返しの方法で、速記文字を書くときには声を出しながら書いていきます。

そして書いた速記文字を指で指しながら反読していきます。

黙って速記文字を書いて、反読しても「へェー」というだけです。受講生に「なるほど」と納得させなければいけません。

この時間は10分以内で終わらせます。

受講者が最も知りたいのは、速記の説明ではなく「基本文字」の説明です。

テキストの「基本文字」は６ページぐらいで作成します。ページ数は少なすぎても、多すぎてもだめです。

テキストの説明も学習ができるように作成します。

「基本文字」の説明に入る前に、速記で必要なことは、

１．符号の形象　直線符号、曲線符号

２．符号の方角　５方向

です。

「学習のポイント」として、

１．速記文字の長短、曲直、角度、濃淡、加点、正側、負側。

２．基本文字の構成原則。

の説明をしますが、テキストにも掲載しておきます。

説明は簡単にして、テキストの内容は、自宅に帰ってから復習できるように作成します。

速記記念日

平成16年10月28日

10月28日は、速記記念日です。

明治15年に速記が発表されてから、満122年を迎えました。

７月に参議院速記者養成所の廃止、10月に衆議院速記者養成所の廃止の記事が新聞に掲載されました。

速記界では暗いニュースばかりですが、手書き速記が消滅したわけではありません。平成17年度から国会で速記者の養成をしないだけの話です。

民間では、早稲田式、中根式等が教育されております。

速記サイトの運営方法

平成16年12月17日

速記サイトの管理人として、「速記道楽」を運営して感ずることは、掲載する原稿内容を速記一本で通すかということも含まれております。

当サイトの掲示板では「速記以外の内容は一切書き込み禁止」にしております。これは当サイト開設以来の「利用規定」でも掲載しております。

「速記の書き方」の管理人・Ｎさんが、「速記速記速記だけでは、読む方もうんざりするのではありませんか」「速記から外れたことを書くべからずという窮屈な考え方では肩がこるという意味で速記速記速記ではうんざりする」と Steno　World の掲示板へ書き込んでおります。

当サイトの運営方針は**「速記を大いに楽しむ」**ことを趣旨に運営しておりますので、当サイトを訪れていただく閲覧者の方々は、速記の内容が掲載されていることを少なくとも期待して訪れていただいているはずです。

各速記サイトには、運営方針がありますし、当サイトのように速記以外の内容を書き込み禁止にしているところはないと思います。

これは管理人の「速記以外の不純物を入れない完璧な速記一本の内容で通す」という開設当初から一貫した運営方針です。

私は、速記が大好きな方だけが「速記道楽」を閲覧していただければよい、という趣旨で運営しておりますし、管理人も相棒も速記が大好きなタイプの人間です。

当サイトでは「速記の腕前を一切通用させない」、通用するのは「速記に対する熱い情熱のみ」です。職業速記者でも、速記学習者でも関係はないのです。**「速記に対して熱い情熱を持ち続けているか」**どうかが、当サイトでは**最優先**します。

「速記道楽」を閲覧される方は、この「趣旨」を十分に理解されて「速記道楽」において「速記を大いに楽しんでいただきたい」と考えております。

速記文字構成素材集

平成16年12月19日

「速記文字構成素材集」は、複画派、折衷派、単画派の基本文字を「方向別」に分類したものです。

「↓」の方向でも（｜）の直線、曲線の２種類があります。

また「→」の方向でも直線、曲線がありますし、「 ↙ 」の速記文字は右上から左下、左下から右上に書くかで２方向になります。「 ↘ 」の速記文字は、左上から右下へ書きます。

速記文字の角度も「 ↗ 」左下から右上へ書く場合には、30度、45度で書きますが、速記方式によっては15度、22.5という場合もあります。

また、右上から左下へ書く場合でも75度、60度、45度で使用する場合もあります。

「 ↘ 」の角度も60度、45度、30度で使用する場合もあります。

各方向の線を何度の角度で使用するかは、速記方式によって異なりますし、個人の線に対する感覚でも異なってきます。

基本文字を構成する場合には、母音と子音における速記文字を**対等に扱う**か、**別に扱う**かも含まれております。

中根式では速記法則との関係から**母音と子音を対等**に扱っております。

基本文字を単画派で組む場合には、

５（方向）×３（直線、曲線）×３（長さ）＝45

で考えます。

清音を構成する場合、例えば同じ方向で「 ↘ 」60度と30度の速記文字を区別する方法は避けた方がよいでしょう。直線で60度と30度の速記文字を連綴する場合は書きにくいので、基本的な組み方は30度単位で組んだ方が無難です。

また左下から右上へ書く「 ↗ 」線の場合、直線の30度と45度は速記文字を連綴する場合には書きにくいものです。

中根式関係文献について

平成16年12月26日

中根式が発表されてから90年間における中根式関係の文献目録を掲載いたしましたが、大正５年から昭和20年の期間を見ますと、31年間の割には少ないと思います。

時代的には活版印刷及びガリ版印刷の時代です。

昭和17年11月25に発行された日武部良明著「日本速記方式発達史」の319～336ページに「速記関係書目」が掲載されておりますが、調査をされたのは衆議院速記課の三角治助さんです。

「速記関係書目」の趣旨を紹介します。

速記関係書目

１．この書目は、衆議院速記課、三角治助氏の調査編集されたものである。
２．この書目は、明治以来、日本において刊行された速記関係書の目録を年代順に配列したものである。
３．記載の形式は、次のごとき順序である。
著者　書名　形態頁数　発行所　発行年月
ただし、雑誌の方は、次のごとくなっている。
雑誌名　発行所　形態　主宰者　発行期間（発行頁数）
４．この書目の調査に当たっては、全国図書館及び速記関係書の著者、蔵書家の御協力を願った、ここにその御厚意をを謝するとともに、今後とも倍旧の御援助を切望する。（本書目に関係の御通信及び新刊書の御寄贈は衆議院速記課調査部宛のこと）

と書かれておりましたが、現在の衆議院記録部では速記関係の文献調査は行っておりません。

現在は、社団法人日本速記協会調査部ライブラリアンの担当者がボランティアで行っております。

「日本速記100周年」の前に、昭和56年ごろから、Ａさんが１人で「速記関係書目」をもとにして、国立国会図書館を始め各地の図書館等々を調査されております。

三角さんの「速記関係書目」における調査漏れなどがかなり出てきました。

また平成14年の「日本速記120周年」の調査でも、調査漏れが出てきましたので、「『日本速記百年記念誌』所載分補遺」として追加しております。

当サイトでは、昭和58年の「速記関係文献目録」及び平成14年の「速記関係文献目録」から中根式関係の文献を抽出して掲載しております。

私が現物を確認しているもので数冊ほど調査漏れがあります。

中根式省略法一覧

平成16年12月28日

中根式関係の主要な文献から「中根式省略法一覧」を作成しましたが、中根式関係者で全部の速記法則がわかる方は非常に少ないと思います。

また、各地の法則体系を１冊にまとめた**「中根式速記法体系」**という資料が残されておりますが、現在は絶版になっております。

収録されている内容は、中根正親の体系、中根正世の体系、中根速記学校の体系、森卓明の体系、植田裕の体系、稲垣正興の体系です。

この「中根式速記法体系」は、中根式の速記法則に精通していなければ、自分の好きな速記法則を組み立てることができません。速記法則を組み立てるための虎の巻です。

速記関係資料作成の新しい試み

平成16年12月29日

当サイトでは、ダウンロード用にＰＤＦファイルを使用しております。

速記関係の資料を作成する場合にコピー用紙ではなく CD-R に焼きつけたＰＤＦ版の時代になると思います。

パソコンで入力した文書だけのものでしたら、ＰＤＦフィルは簡単に作成できますが、速記関係のものは図版などを使用しますので、作業的にはスキャナから画像ファイルを作成して、ＰＤＦファイルにする作業を行います。

手書きで作成した資料も、スキャナで画像ファイルを作成すると簡単にできます。

またガリ版刷りでコピーした資料でも、黒ずんだところも手を加えるときれいにできますが、１ページの作業時間はかなりかかります。

最近のスキャナは精度がよいので、ちょっとしたホコリまで拾ってくれます。特に速記文字の部分は単純にホコリなのか速記文字なのか、気をつけないと消してしまいます。

画像ファイルがＢ５判で約400枚程度でしたら、ＰＤＦファイルに変換する時間は約30分前後の時間です。

ＰＤＦファイルの原版ができれば、１枚の CD-R を焼きつける時間は２～３分です。

Ｂ５判で400ページ前後の内容ですと約25.6ＭＢ程度の容量ですので、700ＭＢの CD-R には、約27冊分の資料がおさまります。

単純計算ですが700ＭＢの CD-R にはＢ５判で約10,800ページのものが１枚の CD-R におさまります。

約10,000ページの資料をコピーする時間、送料等々を計算すると莫大なものです。１枚の CD-R ですと、単価が60円前後で送料は140円です。

またＰＤＦファイルを全ページ印刷する必要もありませんし、必要な部分だけを印刷するだけで済みます。

平成16年度を振り返って

平成16年12月31日

平成16年もあと数時間で終わります。

当サイトでは、正月早々から５月10日の中根式速記法創案発表90周年に向けて、中根式関係の文献等を集中的に掲載いたしました。

また、期間限定でＰＤＦ版「中根式速記法教程」等を無償でダウンロードできるようにいたしました。

「速記法則の部屋」には「中根速記学校の体系」を標準的な中根式として常駐させております。

中根式の法則を紹介する場合には必要なものですので、ＰＤＦ版になっております。こちらも好評のようで無償でダウンロードができます。

「中根速記学校」の体系は、中根式を既習した方を対象に作成しておりますので、各速記法則を説明しておりませんが、速記方式が違う方にもわかるように作成しているつもりです。

９月15日に相棒が、Yahoo！Japan の検索データベースに「速記道楽」申請の手続きを行いました。９月27日に Yahoo！Japan　から審査合格の連絡が届きました。ネット界では、Yahoo！Japan の検索サイトへ登録されることは難関だと言われておりますが、１回で登録申請が通ったのは、相棒の技術的な評価が大きかったと思います。

９月には兼子次生さんから「動画で見る速記」の画像ファイル４本を３回に分けてご提供いただき掲載させていただきましたが、大好評を得ました。

最近は、「手書き速記」の実演を見る機会が少なくなりましたので、貴重な画像ファイルです。速記について口で説明をするよりも､「百聞は一見にしかず」で、速記を知らない方々には非常に視覚的な効果があります。

10月下旬に旭川市の情報誌・ライナーネットワークの記者・佐々木朋子さんから、当サイトの取材を受けました。10月26日発行の2558号に、管理人（滝　鞍二）の写真つきで掲載されました。掲載記事には相棒の名前はブラックさんで掲載されております。

ライナーネットワークは、毎週、火曜日と金曜日に旭川市内に無料で配付されております。

長年の速記仲間・Ａさんからは、明治時代の貴重な資料をご提供いただきました。

「速記基本文字総覧」について

平成17年１月11日

１月10日に「速記基本文字総覧」を掲載いたしましたが、簡単な過程を説明いたします。

私は高校時代（昭和41年）から各速記方式に興味を持っていたので、速記方式で入手できる文献はいろいろと収集しておりました。図書館、古書店等々で基本文字を中心に収集しており、速記界の大先輩及び速記仲間に呼びかけていろいろな資料を提供いただきました。

Ａさんから、明治時代の基本文字表を多数ご提供いただきましたので、今回の作業で使用させていただきました。

昭和47年８月15日に「速記方式学資料」を作成いたしました。

「速記方式学資料　改訂版」昭和47年12月15日作成。

「速記方式学資料　改訂２版」昭和51年12月10日作成。

「速記方式学資料　改訂３版」昭和52年10月１日作成。

「速記文字集」昭和53年10月１日作成。
これらの資料は青写真及びコピーで速記仲間へ無償で配付してきました。
一時期、中根式関係の資料作成作業のため、「速記文字集」の作業を中断しておりましたが、その間、継続的に速記関係の文献収集作業を行ってきました。
速記仲間のＨさんに「速記方式学」の全部をコピーしてお送りさせていただいたのは、平成７年ごろだったと記憶しております。
何年かしてＨさんから、相棒のほうへ「速記方式学資料 改訂３版」が送られました。
私が作成した資料を、私の知らないところで１人でも多くの方に見ていただけることは嬉しいことです。
相棒からホームページ作成のご提案をいただいたことは、既に書いてあるので省略いたします。
相棒からホームページのご提案をいただいた理由は、「各速記方式の速記文字を掲載する」ことでした。私もそのように考えており、既に２人の一致した意見でした。
ホームページ開設の最初に「速記基本文字総覧」を掲載すると、閲覧者が驚きますので、中根式関係の原稿から掲載しました。
平成16年８月31日の編集会議で相棒さんから再びご提案いただいたので、時期的に「速記基本文字総覧」を掲載してもよいと考えて、２人で作業にかかりました。
最初に行ったのは「図版作業」ですが、「速記文字集」で再利用できる図版はスキャナで画像ファイルの作成を行いました。
また、新たに図版を作成したものもあります。
各方式ごとに「表」を掲載しておりますが、これは相棒が担当されたものです。
また簡単な説明文をつけたのは相棒のアイディアです。
２人で詳細な作業の打ち合わせを行いました。作業途中で宮嶋さんから図版の問い合わせがあり、再調査して、間違っていたことに気がつきました。
昭和53年の「速記文字集」から26年の歳月を経て「管理人＆相棒」コンビで、「速記基本文字総覧」として日の目を見ることができました。
１人で作業を行うよりも２人で分担作業を行った方がミスに気がつきますし、よいアイディアなどが出てきて、結果的にはよいものができ上がります。
「速記基本文字総覧」は、一連の作業が全て完了いたしました。
原稿の変更・追加作業はホームページへアップする前に原稿の作成段階で行うものです。
特に「速記基本文字総覧」のように、データベース化して、一度ホームページへアップしたものを、後から内容の変更及び図版の追加作業をすること自体が大変な作業になります。
今後、図版等の追加作業等は10年ぐらい行いません。

「速記方式学資料」作成に至るまで

平成17年１月13日

田鎖源一著「速記の完全独習」池田書店（昭和34年11月20日　初版発行）という本があります。

私は昭和41年に同書（昭和40年12月10日）の第12版を購入しました。

私は既に早稲田式を学習していたので、興味本位で田鎖式の本を購入しました。

早稲田式以外の参考書として、初めて購入した本です。

12～15ページに「日本速記法の歴史」について書かれております。

（前略）

その間、田鎖式以外の方式も、ガントレット式（明治32年）、熊崎式（明治39年）、中根式（大正３年）、毛利式（大正８年）、それに早稲田式、カナモジ式等々それぞれ独自の基礎をもった方式を軸として、その軸に沿って幾多の人々が改良、研究を重ねて、それぞれに〇〇式を名乗りました。今日では、名称だけ並べれば、タイプ速記式も加えて、70幾つが数えられると言われております。

（後略）

と書かれております。

また、254ページに

質問のある方は、下記に返信料を同封の上手紙でお出しください。折り返し、お答えします。

東京都目黒区緑ヶ丘2379

田鎖速記研究所

と書かれておりました。現在では地番変更になっております。

私は、当時高校１年生でしたが、田鎖源一さんに70方式名について質問させていただきましたが、返事をいただくことができませんでした。

１高校生の気まぐれで、質問したのだろうと思われたようです。また70方式名を教えても速記界に残るかどうかわからないと、判断されたと思います。

高校時代には図書館の百科事典等々で調べました。中根速記学校在学中には、池田正一先生から「日本速記五十年史」を閲覧させていただいたり、早稲田速記お茶の水教室の吉川欽二さんの自宅で速記関係の本を閲覧させていただきました。後日、吉川さんから各方式の文例をお送りいただきました。

私は昭和47年８月13日～８月15日の３日間で、「速記方式学資料」（Ｂ５判　96ページ）を手書きで作成しました。

掲載した基本文字は約65方式。調査した方式名は約100ですが、速記方式名が重複しているものもあります。

各方式の資料のみを集めておりました。

管理人の仕事

平成17年１月15日

私は「速記道楽」開設以来、全ページ印刷しておりますが、更新ごとに印刷してファイルに綴じております。

現在、Ａ４判の片面印刷で120ミリの厚さです。80ミリのファイルが２冊分になりました。

「速記基本文字総覧」は、約15ミリの厚さです。ページ数に換算するとＡ４判で約180ページ（枚）です。

１つの原稿としてはページ数もありますし、１冊分の資料に相当します。

管理人として「速記道楽」を全ページ印刷しているのは、「道楽おやじコーナー」「速記資料館」「速記法則の部屋」「速記文字文例集」「中根式速記法入門」「速記随想集」「中根式の質問箱」「道楽おやじの速記雑感」「速記基本文字総覧」等、各部屋における、内容的にも量的にも偏りがないかを調査するためです。

また、「速記雑感」では、原稿を重複して書かないようにしております。

速記サイトですから、当然、速記文字の図版作成は基本的な作業になります。

「速記基本文字総覧」のイラストは「畳」ではなく「御簾」です。

速記方式管理委員会

平成17年２月20日

昭和28年の「中根速記協会会則」には、

第19条　本会は速記方式管理委員会をはじめ、必要に応じ、その他の委員会を置くことができる。

と書かれております。この「速記方式管理委員会」を実際に開いたか確認しておりません。いつの間にかうやむやになってしまったようです。

昭和44年12月１日施行の「中根式速記協会会則」には、

第19条　本会は必要に応じ各種の委員会を設けることができる。

と書かれております。

「方式管理委員会」の趣旨について掲載されておりませんが、非常に興味があります。

中根速記協会機関誌「中根式速記」昭和27年５月号（復刊第35号）には、

「地方における　速記指導について」

中根速記協会

（前略）

今まで、地方においての指導に当たって、本部に指導用の出版物が出ていることを知らずに、基本文字をプリントしたり、または指導者がまちまちな教材を作

成し、配付しているところもあるやに聞き及んでおりますが、これらは本部の承認なしにやられますと、いろいろな問題や弊害が起こりますので、この際地方の指導者は一応本部と連絡をとっていただきたいと思います。

（中略）

地方で中根式を指導される場合は、以上の３著を選択御使用願いたく、しかして、全国統一ある中根式の指導、普及を本部としては願うものであります。

（後略）

と書かれております。

以上の３著は、

中根正世著　速記入門

中根正世著　速記読本

中根正世著　中根式速記

ですが、速記読本は昭和９年７月28日に初版が発行されて、昭和15年３月１日の改訂25版まで現物で確認しております。昭和27年５月の時点で再版中です。

速記入門は、昭和40年版を現物で確認しております。

中根式速記は、昭和27年４月に発行されております。

地方における速記指導について　その後53年間

平成17年３月１日

中根速記協会機関誌「中根式速記」昭和27年５月号 復刊35号の「地方における速記指導について」を紹介いたします。

（前略）

今まで、地方においての指導に当たって、本部に指導用の出版物が出ていることを知らずに、基本文字をプリントしたり、または指導者がまちまちな教材を作成し、配付しているところもあるやに聞き及んでおりますが、これらは本部の承認なしにやられますと、いろいろな問題や弊害が起こりますので、この際地方の指導者は一応本部と連絡を取っていただきたいと思います。

（後略）

中根速記協会香川県支部発行の「中根式速記法原理」の上巻は昭和26年11月です。

昭和26年11月から昭和27年５月、つまり「中根式速記法原理」の上巻を中根速記協会本部へ送ったのは12月上旬と仮定して、「地方における速記指導について」が書かれたのは３月末前後と推測できます。機関誌の５月号へ原稿を掲載するならば印刷所で活字の組版、編集者が校正作業などを行いますから少なくとも１カ月間は必要です。

１ページへ原稿を掲載しておりますので、逆算しても３月末には原稿ができていたはずです。

「地方における速記指導について」で書かれている内容と「中根式速記法原理」上

巻は、時期的にも符合しております。下巻の「まえがき」は昭和27年４月10日に書かれております。訂正版の上巻には「まえがき」がありません。

昭和27年５月から平成17年の53年間は、各地でいろいろな中根式のテキスト類が作成されております。

当サイトの「中根式関係文献」を見ていただくとおわかりのようにいろいろなところでテキストが作成されております。中根速記協会本部及び中根式速記協会本部へお伺いを立てて作成しておりません。

ほとんどの中根式関係者は昭和27年５月の「地方における速記指導について」は知りませんし、高等学校の速記部、大学の速記研究会等々で自由？に作成しております。

中根速記協会本部で懸念されたように「いろいろな問題や弊害が起こった」とは思えません。

全国各地ではいろいろな中根式の書き方ができましたが、使い勝手の悪い書き方は自然淘汰されてきました。

速記資料のまとめ方

平成17年３月27日

速記資料のまとめ方には下記の方法があります。

１．１つの速記法体系を基本体系にしていろいろな書き方を上乗せして作成する方法。

２．１つの法則体系をそのままの体系で作成する方法。

１．の作成方法はいろいろな法則を法則ごとに出典を明らかにして１冊の資料としてまとめていく方法です。

例えば、同じ法則でも、Ａの体系、Ｂの体系、Ｃの体系というようにまとめていく方法です。

私が作成した資料では「中根式速記法体系」が相当します。

２．の方法は各法則大系を１冊ずつに作成する方法です。他の法則体系を入れないで資料をそのまま作成する方法です。

私が作成した資料では「中根式速記法資料編」１～13巻に相当します。

３．自分が使用している体系をまとめたもの。

Ａの体系、Ｂの体系、自分で考えた書き方などを折衷した体系です。私が作成した資料では「NAKANE Kurzschrift」及び「中根式速記法教程」がこれに相当します。

ここで、重要なことは、この法則体系はＡの体系、Ｂの**体系と出典を明らか**にしておく方法です。

また、速記の資料を作成する場合には、ある程度の共通した形にしておくことも必要です。

特に「中根式速記法資料編」１～13巻のようなシリーズものには、共通した形にし

ておくことも必要です。

作成した資料をコピー機でコピーする作業は莫大な時間がかかります。一度、作成した資料を数部コピーする時間は莫大ですが、ＰＤＦ版として保存しておくと CD-R に焼きつける時間は短時間で済みます。

最初のＰＤＦ化作業は非常に時間がかかりますが、後々のことを考えれば一時的な作業です。毎日10ページずつ作業を行えば10日もあれば100ページの作業が終わります。

100ページを１日で作業完了させると思えば精神的にも苦痛になります。

昭和59年７月に「中根式速記法体系」を20部コピー作業をしましたが、Ｂ５判で374ページ（改訂版は415ページ）でしたが、コピー機を持っていなかったので、店でコピーしました。途中でＢ４判の用紙がなくなり３回に分けてコピーしました。コピーが１枚10円だったと思います。

Ｂ４判の用紙を２つ折りにして丁合作業、製本作業をしました。製本はパンチで穴を開けてファイル３冊に分けました。

ＰＤＦ版では25.6ＭＢです。CD-R １枚に焼きつける時間は約３分ぐらいです。

ちなみに約150ＭＢ（Ｂ５判で約2600ページ）の容量を CD-R に焼きつける作業時間は約４分程度です。

１時間もあれば10枚以上は焼きつけができます。

ＰＤＦファイルの最大の特徴は、

１．かさばらない。場所を取らない。
２．短時間で CD-R に焼きつけ作業ができる。
３．原価が安い。送料も安い。
４．余分な在庫を抱えない。
５．１枚の CD-R があれば簡単にコピーできる。

ウ列加点文字の処理

平成17年４月22日

中根式ではウ列加点文字を処理する方法として、２つの方法があります。

１．「代字」を設ける。（順記法）
２．「縮記法」を設ける。（逆記法）

＊縮記法には逆記法と順記法があります。植田　裕先生は逆記法と順記法を併用されております。

１．の代字は、ウ列における加点文字のかわりに最大線（浜田案）、最小線（中根正世先生）、ウ列無加点文字（森卓明先生）の方法です。

年代的には森卓明先生（昭和７年８月）、浜田喜一さん（昭和８年４月）、中根正世先生（昭和27年４月）です。

２．縮記法は、ウ・ス・ヌ・ム・ルを逆記法で縮記する（中根速記学校、植田裕先生）方法です。

年代的には中根速記学校（昭和16年３月）、植田裕先生（昭和26年11月）です。

なお、中根速記学校では昭和16年３月に発表されたのは北村薀雄先生ですが、戦後は江森武先生に引き継がれました。

池田正一先生が機関誌の昭和24年８月号に紹介されておりますが、実際に指導された年代は確認しておりません。

戦後の中根速記学校では、同時期に池田正一先生と江森武先生の「ウ・ス・ヌ・ム・ル省略」が指導されました。

中根式全体では「代字」と「縮記法」では、「縮記法」の方が広く使用されております。

「縮記法」の方法は、各地によって書き方に多少の違いがあります。

他式から**基本文字の濃淡・加点文字**について**批判**されておりますが、中根式では基本文字に濃淡・加点があっても**「濃淡表示の別法と便法」及び「ウ・ス・ヌ・ム・ル縮記法」で処理しますので批判の対象にはなりません。**中根式の裏技を知らないだけです。

当サイトへ掲載している速記文例を見てもわかるように、私は濃線を使用しておりません。

なお「濃淡表示の別法と便法」及び「ウ・ス・ヌ・ム・ル縮記法」は、一般的な教科書類には掲載されていない法則です。

速記法則の部屋

平成17年４月30日

「速記法則の部屋」の“各速記法則体系”で、中根正親の体系、中根正世の体系、中根康雄の体系、中根速記学校の体系（池田／江森／西宮）、森　卓明の体系１～３、森下　等の体系、稲垣正興の体系、金沢二水の体系、長岡商業の体系、吉川欽二の体系、武部良明の体系、西澤政之の体系、学習院大学の体系、植田　裕の体系、中根式の基本体系、中根式の標準体系についてご紹介しております。

「速記法則の部屋」補完資料として、**ＰＤＦ版「中根式関係資料」**を作成いたしました。

中根正親の体系、中根正世の体系、中根康雄の体系、中根速記学校の体系１～３、森　卓明の体系１～３、森下　等の体系、稲垣正興の体系、金沢二水の体系、長岡商業の体系、植田　裕の体系１～３及び私が使用している体系（中根式速記法教程、中根式速記法教範 速記法編／資料編、中根式速記法教範 速記法指導編）等23ファイルを収録しております。

ＰＤＦ版「中根式関係資料」は「掲示板」で御案内して速記関係者へ特別配付させ

ていただきました。Ｂ５判で2,143ページ、容量が約112ＭＢありますので、ホームページへ各速記法則体系の完全な図版を掲載するには容量が大きすぎます。

「中根式関係文献」でご紹介している、「中根式速記法資料編」１～13巻は、各速記法則体系を１冊ごとにまとめたものです。

「中根式速記法体系」改訂版は、中根正親の体系、中根正世の体系、中根速記学校の体系、森卓明の体系、稲垣正興の体系、植田裕の体系の６体系を**１冊**にまとめたものです。

「中根式速記法資料編」と「中根式速記法体系」は表裏一体の関係にあります。

現在、ＰＤＦ版「中根式関係資料」は特別配付作業が完了いたしましたので「絶版中」です。しばらく「再版」の予定はありません。

中根式速記法資料編の補足説明

平成17年５月２日

「中根式速記法資料編」は各速記法則体系ごとに作成したものです。

「中根式速記法資料編」と**「中根式速記法体系」**は、表裏一体の関係にあります。

「中根式速記法体系」は、中根式における主な各速記法則体系の縮記法及び略記法を１冊にまとめております。

「中根式速記法資料編」は、各速記法則体系ごとに１冊ずつまとめております。

中根正親の体系
中根正世の体系
中根康雄の体系
中根速記学校の体系１～３
森卓明の体系１～３
森下等の体系
稲垣正興の体系
金沢二水の体系
長岡商業の体系

の13冊ですが、このシリーズも中途半端な形で終わっております。

植田裕先生の法則体系について書きますと

「中根式速記法原理（符号編）」……植田裕の体系１
昭和60年１月12日発行　Ｂ５　88Ｐ　5.21ＭＢ

「中根式速記法資料」（曲線カ行・斜線タ行）……植田裕の体系２
昭和61年１月12日発行　Ｂ５　46Ｐ　2.03ＭＢ

「中根式速記法」……植田裕の体系３
昭和47年１月１日発行　Ｂ５　87Ｐ　3.95ＭＢ

に相当しております。

中根式速記法資料編（中根正親の体系）１巻

昭和61年５月10日発行　Ｂ５　24Ｐ　1.11ＭＢ

中根正親著「中根式日本語速記法（中根式速記法講解）」（大正５年２月発行）と大正８年８月22日から６日間にわたる「第４回　中根式速記法講習会」のテキストを中根正親先生の体系としてまとめました。

また、大正14年12月１日に発行された本山桂川著「応用速記術の秘訣」（東京崇文堂）は、中根正親の体系です。この書は昭和16年４月25日発行の12版まで現物確認しております。

本山桂川著「応用速記術の秘訣」は「第４回　中根式速記法講習会」のテキストと大体同じであり、同方向の直線が続くときには「切り線」を採用しております。

中根式速記法資料編（中根正世の体系）２巻

昭和61年５月10日発行　Ｂ５　40Ｐ　1.69ＭＢ

中根正世著「通俗中根式速記法」（昭和２年11月15日発行）及び中根正雄著「中根式速記通信講座」（昭和44年３月５日発行）を中根正世の体系としてまとめました。昭和２年から昭和44年までは42年間の開きがありますが、大きな違いは「数字の位取り」及び「超最大線」の追加です。昭和27年４月発行の「中根式速記」には「ウスヌムルの代字」が追加されております。

中根式速記法資料編（中根康雄の体系）３巻

昭和61年５月25日発行　Ｂ５　52Ｐ　2.25ＭＢ

中根康雄著「速記マスターノート」（上巻、下巻）及び「全国速記検定試験５段合格への道／プロ検定１級合格への道」を中根康雄の体系としてまとめました。中根康雄の体系には中根速記学校の体系、稲垣正興の体系、植田裕の体系が入っております。中根正世の体系とは異なりがありますので別にしました。

中根式速記法資料編（中根速記学校の体系１）４巻

昭和61年６月15日発行　Ｂ５　66Ｐ　3.12ＭＢ

昭和45年４月から中根速記学校で池田正一先生が本科前期（昭和44年４月15日～９月30日まで）指導された体系をまとめました。

中根速記学校で指導された体系は、中根速記学校卒業生以外には中根式関係者の間で余り知られておりません。同じ先生に指導を受けても時代とともに部分的な異なりが見出せます。

例えば昭和43年10月入学生は江森武先生に指導されましたが、昭和44年４月入学生は池田正一先生に指導されております。指導する先生によって体系の異なりが見出せます。

中根速記学校の教科書は中根洋子著「中根式速記の基本教程」が１冊です。この教科書は中根速記学校の通信教育「本科」で使用されていた教科書です。

中根速記学校では教科書として「中根式速記の基本教程」を使用し、教科書以外の省略法は各先生が板書で指導しております。省略法を指導して１週間は省略法を使用できるように速度を落として、速記文字が出てくるたびに口頭で説明されておりました。

９月末までにほとんどの省略法が終わっております。夏休みが40日ぐらいありましたから実質４カ月半ぐらいで覚えたことになります。

本科生時代のノートには、この資料のように詳しく書いておりませんが、基本形＋変化形で指導を受けました。

中根式速記法資料編（中根速記学校の体系２）５巻

昭和61年８月３日発行　Ｂ５　61Ｐ　2.66ＭＢ

昭和52年４月15日から中根速記学校で江森武先生が本科生（昭和52年４月15日から昭和53年３月末まで）指導された体系をまとめました。

池田正一先生と江森武先生とは体系的に異なりを見出せます。

池田正一先生は「冠上法」「抄下法」「接触動詞」を指導しております。江森武先生は「冠上法」「抄下法」「接触動詞」を指導しておりませんし、また「交差法」についても異なりを見出せます。

中根式速記法資料編（中根速記学校の体系３）６巻

昭和61年８月10日発行　Ｂ５　49Ｐ　2.10ＭＢ

昭和49年４月15日から中根速記学校で西宮純一郎先生が本科生に指導された体系をまとめました。

私も本科後期（昭和44年10月１日から昭和45年３月20日まで）に西宮純一郎先生から指導を受けておりますので、西宮純一郎先生の体系を知っております。

「加点インツクキ法」等が欠落しておりますし、省略法が少ないように思います。

池田正一先生、江森武先生、西宮純一郎先生の体系に異なりを見出せますので中根速記学校の体系を１～３に分類しました。

中根式速記法資料編（森卓明の体系１）７巻

昭和61年８月15日発行　Ｂ５　49Ｐ　2.05ＭＢ

森卓明著「超中根式速記法」（昭和６年12月５日発行）をまとめました。

「超中根式速記法」が発行された当時の中根式速記界は、中根正世著「通俗中根式速記法」（昭和２年11月15日発行）が、中根式では最も新しい法則体系でした。

４年後に「超中根式速記法」が発表されると、各地の中根式関係者に大きな影響を与えることになり、超中根式から取り入れられました。

中根速記学校では池田正一先生が中心になり７年10月ごろに研究会グループができ、独自の研究が開始されました。中根速記学校では和語縮記法の一部分を略字程度に幾つか取り入れた程度で、超中根式の全体系を取り入れませんでした。

私は「超中根式速記法」の発表により、中根速記学校の体系にも大きな影響が与えられて研究の必要性に迫られたと推測しております。

超中根式が発表された時期と中根速記学校で研究グループができた時期が符合しております。

中根式速記法資料編（森卓明の体系２）８巻

昭和62年８月10日発行　Ｂ５　67Ｐ　3.12ＭＢ

森卓明著「中根式表象法通信教室」（昭和32年７月発行）をまとめました。

昭和６年12月の「超中根式速記法」の発表から26年間経過しており、その間に新しく発表された省略法を見出せます。

超中根式から発展して中根式表象法に移行した体系は従来の中根式を習得した人にとっても参考になると思います。

中根式速記法資料編（森卓明の体系３）９巻

昭和63年１月12日発行　Ｂ５　84Ｐ　4.61ＭＢ

森卓明著「現代国語表象速記法」（昭和52年６月１日発行）をまとめました。

「現代国語表象速記法」は、社団法人日本速記協会機関誌「日本の速記」（昭和44年３月号）にその概要が発表されております。

「現代国語表象速記法」は、中根式の系統というよりも、完全に森式といっても過言ではありません。

「中根式速記法資料編」として参考のために「森卓明の体系３」としました。

中根式速記法資料編（森下等の体系）10巻

昭和63年１月17日発行　Ｂ５　38Ｐ　1.53ＭＢ

池田正一／中根洋子／森下等著「中根式速記」（昭和43年５月28日発行）をまとめました。この書は共著になっておりますが、中根速記学校の体系とは異なっております。森下等の体系です。

この「中根式速記」は、高等学校商業科の実習科目「速記」の文部省指導要領に従って作成したものです。

高校生の授業用教科書としてまとめられているので、森下　等の全体系が掲載されていないと思います。

中根式速記法資料編（稲垣正興の体系）11巻

昭和63年８月15日発行　Ｂ５　58Ｐ　2.20ＭＢ

稲垣正興著「学生の速記」（昭和44年４月１日発行）をまとめました。

この書は「兵庫県実業教育協会商業部会推薦」であり、兵庫県の高校では稲垣正興の体系が指導されております。初版は昭和27年５月１日発行の「学生の速記」は、著者・発行者とも「兵庫県実業教育商業部会」になっております。

稲垣正興先生は中根速記学校の卒業生であり、中根速記学校の体系と共通した部分もあります。

稲垣正興の体系は関西地区の学生速記界を中心に広まっており、実務者も出ております。

稲垣正興の体系は愛知大学速記研究会（昭和63年３月末で廃部）及び学習院大学輔仁会速記研究会（平成３年ごろから早稲田式）にまで影響を与えております。

中根式速記法資料編（金沢二水）12巻

平成１年５月21日発行　Ｂ５　59Ｐ　2.35ＭＢ

下谷政弘／久田美代子著「中根式速記研究書」（昭和36年10月20日：石川県中根式速記研究会発行）をまとめました。

石川県中根式速記研究会は石川県立金沢二水高校速記部と金沢女子短大高校速記部の連合です。金沢二水高校速記部（現在廃部）の下谷政弘さんと金沢女子短大高校速記部（現在廃部）の久田美代子さんが作成しました。

金沢二水高校の速記部は、昭和35年４月に北川暉基さんが設立しました。北川さんは卒業後学習院大学へ進学して、昭和38年６月15日に速記研究会を設立し、初代委員長として速記研究会の基礎づくりをされました。

金沢二水の体系は、学習院大学輔仁会速記研究会へそのまま引き継がれました。学習院大学輔仁会速記研究会の「中根式速記教程」（昭和44年10月３日発行）の体系に見出せます。また、中根速記学校の体系、稲垣正興の体系が採用されております。

中根式速記法資料編（長岡商業）13巻

平成１年７月２日発行　Ｂ５　47Ｐ　1.92ＭＢ

新潟県立長岡商業高校速記部で昭和50年３月に作成されたテキストと速記部員のノートからまとめました。

長岡商業速記部は、全国大会や選抜大会で過去において何度か個人、団体で優勝しておりますし、卒業生も各市議会等におります。

速記関係の資料作成方法をある一定の形にパターン化することも必要です。

「道楽」について

平成17年５月３日

小学館**「日本国語大辞典」**（昭和50年３月１日発行）で「道楽」（どうらく）を調べると、

①仏語。仏道修行によって得た悟りの楽しみ。法悦の境界。

②本職以外の道にふけり楽しむこと。趣味として、ある事柄を楽しむこと。

③品行が悪いこと。身持ちがよくないこと。だらしがないこと。特に、女色や博打

などの、遊興にふけり、おぼれてしまうこと。放蕩すること。また、その人。道楽者。放蕩者。
④物好きであること。またその人。好事家。
⑤とんでもないこと。並はずれていること。

「道楽の生涯学習」

lifelong learning for life work

というホームページがあります。

管理人は愛知県安城市の汐満健一さんですが、公民館主事をされていた「生涯学習１級インストラクター（生涯学習）」の方です。

トップページに

「道楽」という言葉に「放蕩」という意味を与えてしまったのは　負の遺産である。

今の時代には、じっくりと道を楽しみながら　歩んでいく余裕が必要ではなかろうか。

と書かれております。

私も小学館「日本国語大辞典」の③のように「放蕩」という意味を与えてしまったのは負の遺産であると思います。

また②の「趣味として、ある事柄を楽しむこと」とは、かなり違います。

「趣味」は、飽きたらいつでもやめることができるものであり、執着心がありません。

「道楽」は、飽きることなく奥が深くその道を楽しむことです。life work　です。

「道楽者」は今の言葉でいう「オタク族」です。

言葉の意味は時代とともに変化するものでなければなりません。もっとよい意味をつけ加えてもらいたいものです。

資料番号のつけ方

平成17年５月５日

私が作成した速記関係の資料には〔○○－□－△△〕という記述を表紙につけております。

ほとんどの方はこの意味を知らないはずです。

「○○」の部分は資料作成年度を表記しております。○○の部分を見ただけでいつごろ作成したものかわかります。私は西暦を使用しませんので、全て元号で表記します。

「□」の部分は内容の区分です。今まで使用しているのは「Ｓ」「Ｋ」「Ｐ」「Ｈ」「Ｎ」「Ｌ」「Ｗ」「pl」です。最近は「Ｄ」も検討しております。

Ｓ＝Stenography 及び Shorthand〔速記〕

Ｋ＝ Kurzschrift〔速記〕
Ｐ＝ Phonography〔速記〕
Ｈ＝ History〔歴史〕
Ｎ＝ Novel〔小説〕
Ｌ＝ Literature〔文献〕
Ｗ＝ Writing〔著作〕
pl＝ plan〔計画〕
Ｄ＝ Database〔データベース〕
です。

「△△」の部分は内容区分の通し番号です。

例えば「Ｓ」シリーズですと、作成年度に関係なく「46－Ｓ－１」から「49－Ｓ－10」まであります。ちなみに「49－Ｓ－１」という資料番号は存在いたしません。

この資料番号の３カ所を見れば**「作成年度－内容区分－通し番号」**が全てわかるという「代物」です。

当サイトに掲載している「速記基本文字総覧」は「17－Ｄ－１」です。

平成17年度に作成したデータベースの１冊目という表示になります。

またページ数が多い場合には、内容を第１部、第２部と分けることもあります。

ＰＤＦ版でも容量が大きくなる場合には「枝番」をつけます。

「10－Ｋ－23－１」「10－Ｋ－23－２」は、速記法編、資料編を分割した場合です。

例外的に「改訂版」でも枝番をつけます。

「59－Ｋ－５－２」は改訂・増補版です。数年後に「改訂・増補版」を作成しても、最初の作成年度をそのままにして「枝番」をつけることもあります。

通常の「改訂・増補版」では通し番号を変えていきます。

「11－pl－１」「11－pl－２」「12－pl－３」は、速記指導者養成計画案ですが、改訂１版、改訂２版の場合もあります。

森卓明先生の研究について

平成17年５月10日

５月10日は中根式創案発表の日ですので、中根式関係についてご紹介いたします。

森卓明著「超中根式速記法」の発行は昭和６年12月５日発行ですが、「序」は昭和６年８月に書かれておりますので、昭和６年８月に「超中根式」を発表されたと推定できます。

私は昭和52年に彦根市の西澤政之先生（中根式速記協会滋賀県支部長）と京都の森卓明先生に手紙でお聞きしました。

森先生に書簡で「森式か、中根式森派かのどちらか」についてお聞きしました。

森先生の書簡では、

私の式ですが、みんなが森式と言われるのは勝手ですが、基本文字そのものはほとんど中根式です。ただ省略文字がユニークなので、その点森式と言われればそれでよいと思われます。

と書かれております。

森先生ご自身が森式でもよいと認められております。

西澤政之先生は、

森先生の方式のことですが、これは適確なことは、ご本人に聞かないとわかりませんが、小生の見方では、中根式→超中根式→森式とはならないと思います。超中根式時代、東京で全国議事記録事務研修会に出席した際、日本速記協会が配付された資料の中に中根（森）式という表現があったことを記憶しておりますが、当を得ていると思っていました。

それから、現代国語表象速記法も超中根式に入るかというお尋ね、ごもっともですが、現代国語表象速記法も基本文字はス・ヌ・ムを除いて中根式そのままですから、そのとおりと言えますが、書かれた文章は超中根式を習った人でも読めませんから、イエスというわけにはまいりません。

ですから、中根式→超中根式→現代国語表象速記（森）式というふうに小生は解釈しております。カッコで森と入れたのは、他の式がほとんどその創案者の名前を冠しているから、一般人にもわかりやすいようにとのことです。（中略）

今、資料がないので適確なことは申し上げられませんが、記憶にあるものから拾い出してみると、基本文字の改変、例えば加点文字のウ・ス・ヌ・ム、またワをかなり長い間使っておられたようです。（＊速記基本文字総覧「中根式表象法」を参照）表象法として最大線（四種線）略字を飛躍・発展させて１～５種線を使い分けて、数音のときには10数音を１線であらわす。あるいは、動詞の表象法等々があろうかと思います。（＊「５種線」という表現ではなく、森先生は「スーパー・ライン」及び「Ｓ．Ｌ」と呼ばれております）

こういう研究・実践の成果を基にして最終的に統一されたのが現代国語表象速記法ということになろうかと思います。

と書かれております。

また森先生の書簡では、

超中根式から表象法の間には略画法があります。これはインツクキ等の符号をなくして、線の組み合わせによってあらわす方式です。逆記の符号をとったので、いよいよ順記の表象法になるわけです。

あなたのお書きになった50音表を使っていたこともありますが、（＊速記基本文字総覧「中根式表象法」を参照）今は一応ウ・ルは（速記基本文字総覧「森式」を参照）としております。基本文字中、サ行とタ行はどうしてもいただけません。そこで表象法では、これはほとんど使わずに別の方法で表象することにしました。

と書かれております。

森先生は「日本の速記」昭和17年８月号に「略画法の原理とその応用」について発表されております。

「略画法」は、当サイト「速記法則の部屋」“森卓明先生の体系”を参照してください。

濁音は濃線

母音表象

	初音	中間
ア、オ	上段	周辺分離
ウ	中段	
イ、エ	下段	

父音表象

	初音	中間
カ行ｋ	小カギ	短交差
サ行ｓ	大　円	大結び
タ行ｔ	結び小円	尾部空間
ナ行ｎ	小　円	小結び
ハ行ｈ	大カギ	長交差
マ行ｍ	小　円	小結び

森　卓明著「現代国語表象速記法」19ページより。

中根式内の研究時期

平成17年５月10日

武部良明著「日本速記方式発達史」の94～98ページで中根式内で研究された時期が推定できます。

（前略）

森卓明氏によって昭和４年超中根式の一部が公開される。その基本文字の方は第45図（＊速記基本文字総覧「超中根式」を参照）のごとくで、原始中根式との極端な変化は認められず、専ら基本線の変更にとどまっている。

（中略）

超中根式の特徴はその基本文字には存せず、専ら後章で扱う縮字法に関する研究と見なければならない。

（中略）

濃淡の区別は、国字氏も言っているごとく、可能である。初歩のうちから癖をつければ必ずできる、結局中根式の遅れているのはウ列の加点線ではなかろうか。森氏も正式なものとしては中根式に則ったが「速記研究」第95号（昭和７年８月）においては「いつまでも不便を忍びつつ旧式の使っておることは考えもので

あるから、どこまでも速記文字は速記する道具であるという見地に立って実用に即して徐々に改変を加え覚えやすく書きやすくその方式の簡単にして実用上最も適するようにしていくということは何式を奉ずるものであるというイデオロギーにとらわれざる限りこれは我らの常に心しておくべきことであると思う」といい、１つの試案として第51図（＊速記基本文字総覧「中根式表象法」を参照）のような半円形を挙げたこともある（ウ列改良案及びワ字改良案）。

中根式を学んだ浜田喜一氏も、昭和８年「速記研究」100号（＊昭和８年１月号と推定）に試案として第52図のような長い線（ア列の３倍）を用いたのである。

一方において実務に従事する中根式の速記者は、決してこんなことで満足するはずがない。そのためににそれぞれ自己流の改変を平気で行うことになる。

と書かれております。中根式内では昭和６年12月（＊森卓明著「超中根式速記法」の発行）から昭和８年１月（＊推定）が重要なキーポイントになると思います。

中根速記学校内では池田正一先生（昭和７年４月入学、昭和７年９月に中根速記学校卒業）が有志を集めて「研究会」を設立されたのは昭和７年10月ごろと推定できます。

中根式を修め、中根式の教鞭までとった国字常弘（本名・古久保峰吉。寿光式の国字寿光とは同一人物）さんは、中根式に満足せず大正８年から新方式の創案に着手しました。赤貧洗うがごとき６畳の矯屋にこもって苦闘研究10数年、初めて自然線の原理を取り入れて昭和６年２月11日に国字式を発表されました。

国字式から山根祐之さんが昭和26年８月10日正式に山根式として発足されました。

中根式を**全面的に否定した国字常弘**さんと、中根式の**基本文字を残して法則の研究をされた森卓明先生**とは対照的です。

植田裕先生の研究

平成17年５月11日

植田裕先生は、昭和22年から香川県立高松商業高校の速記部で一先輩として指導され、昭和26年４月から同校の教員として、正式に速記部の顧問として指導されました。昭和45年３月まで、四半世紀に近い速記指導の中で植田先生が目指したものは「流麗な速記文字」「各法則間の矛盾の排除」でした。植田先生の研究は高校教員になる前の４年間における新聞社での実務速記者としての経験と、高校教員として指導する傍ら、地元の実務速記を手がけるなどして単に机上の空論ではなく、実務から割り出した研究であることと、その速記教育法・速記教育課程（カリキュラム）の開発でした。つまり、何をどのように教えるかということです。この方面の研究は速記界では、ほとんど行われておりません。

当サイトでは「速記法則の部屋」で断片的に植田先生の昭和45年以降の研究をご紹介しておりますが、研究の根底をなす昭和26年の「中根式速記法原理」、昭和44年に

速記部で指導された部員のノートを見なければ、その正しい評価ができません。

「法則的な研究」

1．50音中（テ・ス・ト）の特定符号の新設。
2．拗音中（シュ・ショ・キョ・チョ・リョ・キョー・ショー）の特定符号の新設。
3．特定Ｎ尾音記法の新設。
4．〇ク、〇キ音特定符号の新設。
5．順記インツクキの開発。
　逆記インツクキとの共存。従って中根式伝統のサイン助詞符号の使用が可能。
6．特殊漢音縮記法の開発　Ａ＋Ｂ＝Æ
　逆記法、順記法。
7．助詞符号のつけ方の研究。
　円系符号は、直線に対しては正側につける。
8．訓音換記法廃止に伴う上・下段の廃止。
9．スミニヒカリシ記法、ゾーン記法、ＳＭ、ＳＦ記法の研究。
10．縮記法・略記法等々の新設並びに整理。
11．加点助動詞記法と、～マス・～マシテ・～マシタの書記位置の整合。
12．運筆の研究（上・下段廃止によって使える）

等々法則的な研究は数え上げればきりがありません。

昭和26年から研究を開始されて以来、今日まで54年間、黙々と実務の合間に研究が続けられてきました。

植田先生の体系は「１つの言葉に対して複数の法則を運用する」書き方が最大の特徴です。

速記方式統一論について

平成17年５月12日

中根速記協会機関誌「中根式速記」の昭和24年４月号では、柴田明さんの「速記方式統一論」。昭和26年１月号では高橋一郎さんの「法則の統一」についてご紹介をいたしました。

昭和24年４月から昭和26年１月当時における中根式の速記法則が推定できると思います。

大正３年に中根式が発表されてから昭和24年では35年です。

中根式では石村善左さんが中心になり「中根24年式」の案がまとまり、昭和23年の年末に中根速記協会福岡支部員に配付しております。名古屋の柴田さんが石村善左さんの「中根24年式」の資料を見たかどうかは時期的にも微妙です。柴田さんが原稿を書かれたのは２月10日です。

土田利雄著「土田式速記法」は昭和９年６月発行ですので、一般に配付されたかどうか疑問が残ります。

森卓明著「超中根式速記法」は昭和６年12月発行です。

中根正世著「中根式速記講座 上巻、中巻、下巻」は昭和22年５月20日発行です。

中根速記学校では昭和７年10月ごろ「速記研究会」ができており、新しい書き方が機関誌に掲載されている程度です。

柴田明さんが言う**「従来の速記法では徒に自己誇大の妄想に追われ、他人の考案を一部改変し自己の考案を一部挿入することによって何々速記法とか何々式とかいういわゆる売名的現状である」**と書かれております。

田鎖式系統、熊崎式系統の方式かどうかわかりませんが、中根式系統では昭和５年の岩村式、昭和６年の国字式、昭和９年の土田式ぐらいしか見当たりません。

「速記方式の統一化は従来の速記法が技術一点張りの書くことだけが全部のように思われていた速記を科学的に体系づけられた速記学として樹立することによって達成できるものである」と書かれておりますが、速記学として樹立するにはほど遠く、まだ速記法則が出そろっていない時代です。速記を学問として樹立する体制が整っておりません。

「将来の速記法は自己陶酔に陥らず大乗的見地に立って学問としての速記法に移行するならば前途に輝ける光明が見出され」と書いておりますが、時期尚早です。

柴田さんが言う「統一式」とは、昨今、日本速記協会で話が出ている「統一式」です。

昭和24年の時期では「統一式云々」の話は半世紀以上も早すぎます。昭和24年以降にも速記方式が発表されておりますし、速記方式を統一する段階ではありません。

速記方式は長い年月を経て自然淘汰されていくものです。使い勝手が悪い速記方式は残りません。

速記方式史をひもとけば法則を研究しなかった方式は自然消滅しております。なぜ自然消滅したか、一考すべきです。

１つの速記方式に統一しないで２～３方式は残しておくべきで、自由に選択して学習できるものでなければなりません。速記方式の向き不向きがあるからです。

高橋一郎さんが言われる「法則の統一」は、**中根式内の統一**ですが、**中根式においても「速記法則を統一」できる時期**ではありません。

昭和26年以降には中根式内においては新しい速記法則が研究されております。

森卓明著「中根式表象法」は昭和32年ですし、「現代国語表象速記法」は昭和44年にその概要が発表されております。

＊高橋一郎さんは、戦前の小樽商業学校速記部出身（現・北海道小樽商業高校）で小樽市議会の速記者でした。

自然消滅した原因

平成17年５月13日

明治15年から今日まで123年間には、いろいろな速記方式が出現して自然消滅してきました。

なぜ、多くの速記方式が自然消滅していったのか「速記方式史」をひもといてみる必要があります。

速記方式が自然消滅した主な理由には下記のものが考えられます。

１．研究、普及する後継者がいなかった。（人材が得られなかった）
２．法則の研究が途中で止まった。
３．２と関連して時代に乗り遅れた。
４．その方式の指導者を養成しなかった。
５．４と関連して実務者しか養成しなかった。
６．教育機関及び組織をつくらなかった。

などが考えられます。

今まで自然消滅した速記方式では組織をつくっておりません。各地に支部、同志会、共練会を結成しておりません。組織をつくるためには、速記に対する情熱と指導力がある人材が必要です。

ただ、テキストを出版社から発行しただけではだめです。教育機関は学校のほかに通信教育が必要です。

また１つの方式が、長く生き残っていくためには、常に法則の研究（略字ではありません）が必要です。

「略字」と「略記法」は違います。

時代に合った速記法則の研究を怠った方式は自然消滅しております。

速記研究者は養成するものではなく自然発生的にあらわれるものです。自己が修めた速記方式が研究する価値があるかどうかです。自己が修めた速記方式に価値がないと思えば、その方式を全面的に否定して、自己の方式を打ち立てております。幾ら「基本文字を入れかえ」ても、法則的にも母式と同じではだめです。結果的には母式から抜け出しておりません。それを〇〇式と名乗るには無理があります。あくまでも〇〇式系××案にすぎません。

明治時代の方式は、一部を除いてほとんどが田鎖式系諸案です。

速記方式名を名乗るには、母式との違いを打ち立てなければいけません。

１つの内容で〇〇式、××式、△△式、□□式、◎◎式、◆◆式、▲▲式といろいろな方式名を名乗るのは詐欺と同じです。

いろいろな品物を注文したら、全部同じ品物が届いた、というそしりを免れません。下手をすると、その方式の信用失墜につながります。一度落とした信用を回復するのは容易なことではありません。

長拗音

平成17年５月18日

「長拗音」とは、１．長音・拗長音、２．拗短音を１つにまとめたものです。

ほとんどの方式では拗短音を学習してから拗長音を学習します。

中根式では長音のウ・オ列、拗長音のイ・エ列を学習してから拗短音を学習します。

早稲田式では拗短音のキャ、キュ、キョを先に学習します。そして拗長音のキャー、キュウ、キョウを学習します。拗短音の速記文字に長音符号をつけるからです。

中根式では清音に大カギを逆記します。この段階で重要なことは大カギは直線に対しては正側、曲線は内側につけます。

カ	キ	ク	ケ	コ
キャ	キュウ	クウ	キョウ	コウ
	（キウ）		（ケウ）	

：

：

最初に覚えるのはウウ、オウ、イウ、エウです。イウ＝ユウ、エウ＝ヨウですから、イウ、エウの速記文字を優先的に使用します。

拗短音のア列は前出のとおりです。イ列は大カギを負側につけるのは直線のキュ、チュです。曲線の外側には大カギをつけません。大カギは内側につけますが加点を入れます。シュウを直線化してシュ。

同じくエ列もキョ、チョは負側に大カギをつけます。曲線の外側に大カギはつけません。大カギを内側につけて加点を入れますが、該当するのはニョ、ヒョ、ミョです。ショウを直線化してショ。リョは直線化するとギョウになるので、直角に立ててデの正側に大カギをつけます。デウ＝ヂョウは使いません。

ニュ、ニョ、ヒュ、ヒョ、ミュ、ミョ、リュは使用頻度が低いのでニュウ、ニョウ、ヒュウ、ヒョウ、ミュウ、ミョウ、リョウに加点をつけております。

ニュウ、ニョウの拗長音の方が頻度が高いからです。

なぜ「その他」とするか

平成17年５月27日

社団法人日本速記協会の検定試験合格者に速記方式名が掲載されなくなった時期を確認しておりませんが、任意団体の日本速記協会が社団法人として認可されたのは昭和40年10月15日です。

第１回の文部省速記技能検定試験が実施されたのが昭和41年11月３日です。

「日本の速記」昭和41年５月号には任意団体・日本速記協会時代から受け継がれてきた１級から７級までの検定試験の合格者名が掲載されておりますが、方式名が掲載されておりません。

「日本の速記」昭和32年12月号に**“なぜ「その他」とするか”**について掲載されております。

ある式を学習していて「その他」で合格発表されているのは心外だとの投書があり、10月19日速教委で種々懇談した結果、従来どおり、その式の創案者または主宰者・教授者が協会正会員であり、Ｂ級以上の合格者・実務者数名以上が正会員である式はその式名で、そうでない式は「その他」で発表することに決した。要は、受験申込書記載の式名をそのまま発表して協会がその式を認めたように誤解されることを防ぎたいことと、多少の主張の違いは超えて協会の事業に協力していただきたいという趣旨にほかならない。

（速記教育委員会）

と意味不明なことが書かれております。検定試験の合格者名に方式名が掲載されていた方がよいのか、名前だけの方がよいのか意見が分かれるところです。

ちなみに「日本の速記」昭和24年３月号には、受験者の名前と方式名が掲載されております。何カ月後には合格者の名前と方式名が掲載されております。つまりだれが不合格になったかまでわかります。今の時代でしたら「個人情報保護法」に抵触するでしょうね。

同姓同名の受験者がいたと仮定します。

○○○○（Ａ式)、○○○○（Ｂ式）の受験者おり、同じ受験地で同じ級を受験してＡ式の方が落ちた場合はどうなるのでしょうか。合格通知はＢ式の○○さんに届きます。Ａ式の○○さんには、不合格ですので通知は届きませんが、「日本の速記」に名前が掲載されております。全くあり得ない話でもありませんね。

はっきりした記憶がありませんが、不合格者にも通知が届くようになりました。

同じ受験料を払っていながら、不合格者にも通知を出さなかったのは協会本部の片手落ちでしたね。

郵便事故で、合格通知が届かないことも考えられます。

「速記道楽」開店２周年を迎えて

平成17年８月31日

平成15年８月31日に「道楽おやじ＆ブラック」コンビで当サイトを開店して満２周年を迎えました。

開店当初は３ＭＢの容量から始めて、現在 Web 上は33ＭＢになりました。

２年目もいろいろな文献を掲載いたしましたが、「道楽おやじ＆ブラック」コンビの極めつけは「速記基本文字総覧」です。当サイト開設以来の大きな作業でした。

「中根式21世紀型はやかな」及び「スピードメモ法 概要」を収録いたしました。

「スピードメモ法 概要」は一太郎2004を駆使して作成しました。

「速記法則の部屋」補完資料として、ＰＤＦ版「中根式関係資料」の CD-R を速

記関係者へ特別に無償配付が完了しましたので、「森卓明の体系」「稲垣正興の体系」「その他の体系」は新規の図版作成を行いません。

「植田裕の体系」は、新しい原稿を入手次第掲載する予定を組んでおります。

当サイトでは容量が大きくなり、全体像の把握ができるように案内板として「速記道楽　概要」を新設いたしました。

下段略字

平成17年９月６日

下段は、ラ行省略と下段略字（口語略字）に使用しておりますが、下段略字には「音」の一部を取った摘記略法と、「音」とは関係がないものがあります。

＊速記法則の部屋→中根速記学校の体系→18．下段（42ページ）。

（「中根速記学校の体系」はＰＤＦファイルです）

我々中根式関係者は、何の疑問を持たないで「マセン」は「ノ」、「デス」は「フ」、「ナガラ」は「ヌ」と書いております。

平成11年７月に植田先生からお聞きしました。

「マセン」「デス」は、中根式創案当時から使用されておりますが、「マセン」は「no（ノー）」ですから「ノ」と推測できます。

「デス」は、ピットマン式の「are」ですから「フ」の字形になります。

「ナケレバナラヌ」の「ニ」は、「ナ」を２回書くと濃線の「ニ」です。

「スル」の「シ」は、スルの動詞の変化型です。

「アル」の「ハ」、「イル」の「ヒ」、「オル」の「ホ」は、「借用」という法則で説明できます。

＊速記法則の部屋→植田裕先生の体系→逆流・反転・借用。

とまではわかりました。

「ナガラ」は、なぜ「ヌ」と書くのでしょうか。中根式の文献では中根正世著「通俗 中根式速記法」昭和２年11月15日発行までさかのぼります。

中根正親著「中根式日本語速記法」（中根式速記法講解）大正５年２月発行及び大正８年８月の「第４回　中根式速記法講習会」で使用されたテキストには掲載されておりません。

森卓明著「超中根式速記法」昭和６年12月５日発行にも掲載されておりません。

中根正世先生が追加されたことが文献で容易に推測できます。

なぜ「ナガラ」に「ヌ」を当てたのか、中根正世先生に聞きそびれてしまいました。

「ナガラ」は頻度が高い言葉です。ナ行に下段略字（口語略字）を当てはめていきますと、

ナ＝ナリ、ナル　　ニ＝ナケレバナラヌ　　ネ＝ネバナラヌ　　ノ＝マセン

となります。

「ナガラ」は「ナ」の正側中部に加点（ヌの半分）にすると書きにくいので、「ヌ」が空いているので「ナガラ」の略字に持ってきた。

濁音の「グ」と「ブ」に正側中部に加点をしております。

または「ナカ」を一筆化すると「ノ＝マセン」になるので、都合が悪いので「特定略字」して使用した、と推測できます。

下段略字は上段略字に続けて書きます。

例を挙げますと「考えている」と書く場合には、「考えて」は上段ですが、「いる」は下段です。上段と下段を離して書くと運筆上、上段から下段まで移動しますので、「コウ＋ヒ」と続けて書きます。

中根速記学校の通信教育

平成17年10月９日

昭和42年当時の中根速記学校通信教育の案内書が出てきたので紹介いたします。

公認中根速記学校・速記教育研究会指導

通信教育案内

── 速記は中根式 ──

創案50年、輝く歴史。どなたでも安心して習得できます。

中根式とは

大正３年現京都両洋学園長（幼、小、中、高）中根正親先生が京大在学中に創案、大阪毎日新聞に発表され、自来令弟正雄先生によって日本全国はもとより朝鮮、台湾も満州まで普及された速記であります。

創案者正親先生は

昭和27年、日本速記発表70周年記念式典において、斯界の功労者として表彰の栄に浴されました。先生は速記法則の発見から英、数、物、化などの一般学科の教授にもまた独創的な方法（要体）を案出し、今日両洋学園においてその直接指導に携わりながら、なお研究を続けておられます。

本校長正雄先生は

50年にわたる速記普及の功労により、昭和37年10月、日本速記発表80周年記念式典において表彰の栄に浴されました。中根式にとって重ね重ねの栄誉であります。

中根式の特徴は

主なものを挙げてみれば、

１．今までにない独創的な法則により科学的に組み立てられていること。
２．法則が平易で中高生はもちろん、小学生でも容易に覚えられること。
３．短期間の学習で高速度速記が可能であること。
４．中根式は基本から省略法まで一貫していて、50年後の今日、なお手を加える余地のない完璧なもので、他の追随を許しません。

中根式は学生層に最も普及

この式は以上のような特徴を有しているため、早くより全国の中高校に普及しており、学生で速記のできる者があればその90％までが中根式であります。昭和６年第１回を開催以来、毎年開催される文部省後援の全国高等学校速記大会は、回を重ねること33回、全国高校生憧れの速記競技大会となっております。

中根速記学校は

昭和５年現在の東京九段下に当時我が国唯一の速記教育の専門学校として創立され、年々優秀な速記者を出しております。卒業生はそれぞれ国会を始め県市議会、新聞社関係、秘書、自営など極めて多方面に活躍しており、また日本速記協会主催の検定試験には毎回多数の合格者を出し、最高技術競技会には最高技術賞を獲得するなど、本校の存在はまことに斯界に冠たるものがあります。

中根式の地方組織

中根式は全国に広く普及されておりますので、各種主要地に支部があります。校外生はその支部によって技術認定試験などに応ずることができ、またお互いの親睦を図れるようになっております。

校外生は

中根速記学校速記教育研究会が多年の経験をもとにして、本校に直接通学できない方の要望に応え、通信により中根式の基本文字から高速度法則に至るまで、良心的に責任を持って、指導いたします。なお、本会主催の各種講演講習会、競技会などにも優先的に参加できますし、修了後も質問その他には懇切にお答えすることになっております。

録音機の発達に伴い、速記の需要はますます旺盛です。

校外生となるには

校外生には、いつからでも、どなたでも入ることができます。

学　費

本科　６カ月分　3,000円（教材「中根式速記の基本教程」300円を含む）

特　典

中高校生に特に普及のため、申し込みの際、担任の先生の記名捺印があれば、学費2,500円に割引優待をいたします。
○何らかの事情で学習が遅れても、１カ年は校外生としての取り扱いをいたしますから、継続して学習をしてください。
○修了試験に合格した方には修了証を授与します。
○中根速記学校に入学希望者には、試験の上適当なクラスに編入許可します。
○本式は１級より８級までの級制度を設け、随時その試験を行い、合格者には認証状を交付します。

（42．４）

以上が、昭和42年の中根速記学校通信教育の案内書です。

中根速記学校の通信教育では、６回の「本科学習課題」と「校外生修了試験問題」がありました。

用紙はＢ４判縦長で左半分が〔反訳問題〕、右半分が〔速記問題〕です。各回ごとに教科書の○○～○○ページと速記法則の範囲指定がありました。速記文字を書く問題文には破線の中心線が印刷されておりました。

また「添削・質問用紙」はＢ５判縦長ですが、左半分は〔自由速記文〕、右半分が〔質問欄〕及び〔回答欄〕が６回分ありました。

私の本科課程の校外生番号は210でした。修了証の番号が113号ですから、受講者の53.83％が「本科課程」を修了しております。この数字は、中根式通信教育受講生の落伍率は少ないと思います。

私は昭和42年９月に通信教育を受講して昭和43年１月26日に「校外生修了試験」に合格しております。約４カ月半で６回の「本科学習課題」と「校外生修了試験」を提出しておりますが、実際に中根式を学習したのは７日間だけです。私自身は日常で早稲田式を使用しておりましたから、中根式は片手間に学習しただけです。

使用方式を中根式に切りかえてから、まじめに練習したのは昭和43年４月５日からです。

中高校生には、特に普及のために申し込みの際、担任の先生の記名捺印があれば、学費が2,500円になる割引特典がありましたが、私は「割引特典」を利用しませんでした。高校の担任に記名捺印をお願いするような環境ではありませんでした。下手をすれば「速記ばかりやっていないで、学業に専念しろ」と言われる環境におりました。

「本科課程」の上に「研究科課程」がありましたが、私は研究科へは進学しませんでした。

研究科は６カ月で学費が3,000円でした。添削指導に重点をおいて進めていたようです。

＊私は中根速記学校の通信教育「本科」を修了した時点で、使用方式を早稲田式から中根式へ切りかえるか迷っていたので、通信教育「研究科」へ進学しませんでした。最終的に、中根速記学校へ入学して研究科を修了しました。

中根速記学校関係　補遺

平成17年10月11日

中根速記学校の通信教育で受講生が少ないのは、高校の速記部関係で中根式が90％以上を占めていた関係と、地方の新聞などで広告が余り載っていないからです。

また、全国各地で支部活動が盛んに行われておりました。

同時期に京都の中根式速記本部で通信教育を行っておりました。

昭和44年３月５日に、中根正雄著「中根式速記　通信教育」普通科コース／高等科コース／研究科コースが作成されて、中根速記協会で通信指導するようになりました。

中根速記学校では、通信教育生を「校外生」と呼んでおりましたが、本科、研究科の通学生は「在校生」と呼んでおります。

「資料紹介　中根式速記を志す人々のために」では、昭和24年当時の中根式について紹介いたしましたが、中根速記学校の「修業年限」は、普通科（３カ月）、高等科（３カ月）となっておりますが、昭和26年ごろから本科（１年）、研究科（１年）と変更になっております。

中根速記学校では６カ月以内に95％の速記法則の指導が終了しております。12月初旬に「加点インツクキ法」を習えば法則の指導が終わります。

中根速記学校で法則の指導が６カ月間で終わるのは開校以来の伝統的な指導方法です。

私が入学した当時は、本科前期（４月から９月）は池田正一先生、本科後期（10月から３月）は西宮純一郎先生に代わりました。

10月入学生だけは江森武先生が１年間通して受け持ちました。

研究科は秋本清司先生でした。

中根正親先生の特別講演

平成17年11月13日

中根式速記協会機関誌「速記時代」昭和45年２月号（第160号）に「創案者・中根正親先生中根速記学校で講演」という記事が掲載されております。

中根式創案者・中根正親先生
中根速記学校で特別講演
― 青年のごとき情熱をたぎらせて ―

中根式創案者中根正親先生は、２月14日（土）午後６時より８時半まで、中根校生徒に特別講演をされた。

当日は、先生少し風邪気味で、のどを痛められておったにもかかわらず、教室いっぱい、熱心に聞き入る生徒を前に、青年のごとく頬を紅潮させて

『真の教育というものは、教えて、育てる――活用できるところまで仕立てるのが教育だ。速記はその意味から本当の教育だと言える。ただ講義を聴いただけではいけない。練習・訓練の中に技術が確立する。その技術もさることながら、そういった練習・訓練のプロセスにこそ、実は大きな意味があるということを知らねばならない。

諸君が速記の練習をやっていると、しまいには苦しくなり、嫌になってくることがあるだろう。そして、幾らやっても、もうこれ以上自分にはできないのだという、一種のあきらめさえ感ずるときもあろうが、速記に限らず、何事でも嫌になって、だめだ、というところを押し切ってやっておると、ぐっと伸びてくる。だから、諸君も速度がなかなか伸びない、スランプに陥ったと感ずるときこそ、ぐっと速度が上がる前提であるから、そんなとき力くじけず、中根式は基本から高等法則まで科学的、学問的に組み立てられた優秀な方式であるから、この式を学ぶことの誇りを持って、しっかり頑張って勉強してほしい。そして、みんなが研究してますますこの中根式をいいものにしてもらいたい』

と親しく生徒に語りかけ「要体教育（新教授法）について」の題下に２時間の予定が２時間半にも及ぶ熱演となり、生徒に深い感銘を与えた。

（文と写真・江森　武）

と掲載されております。ちなみに「速記時代」は、毎月１カ月遅れで発行されておりました。

私は当時、中根速記学校の本科生でしたので、中根正親先生の特別講演を聞きました。私の記憶では夜間部の本科生、研究科生以外に、昼間部の本科生、研究科生の一部が参加しておりました。

この日の講演は、要体教育における数学でしたが、残念ながら数学は苦手な科目でしたので聞いていてもわかりませんでした。

当日の配付資料は、

Fundamental English Sentences Selected by M.Nakane.1963 Ryoyo High School Kyoto Japan Ｂ６判 22ページ

要体映画に添えて（中根正親記す）両洋新教授法研究所　Ａ５判 ６ページ

要体　中根正親創案　1966　新教授法研究所　両洋高等・中学校　Ｂ５判 29ページ

教育の発掘「要体教育」を見る――現代教育再検討の試み――　Ｂ５判 36ページ（昭和43年10月以降？）

森の学園　学校法人両洋学園のパンフレット

でした。資料の裏表紙に「速記は高度な専門的な学問である」と、速記文字で書き込んでおります。

もう35年以上前の資料ですが、私は今でも大切に保管しております。中根速記学校の先輩及び同期生で持っている人は少ないと思います。

中根速記学校在学中に創案者・中根正親先生の特別講演を聞く機会を得ましたが、中根式速記創案当時のお話をお聞きしたかったと思います。

私には「この式を学ぶ誇りを持って」「みんなが研究してますますこの中根式をいいものにしてもらいたい」という言葉の方が記憶に残っております。

速記文献のタイトル

平成17年11月29日

速記の資料を作成して最後につけるのは文献名・書名です。

中根式関係における91年間に発行された書名を調べてみました。

書名のつけ方にも時代的背景があります。

中根式日本語速記法（中根式速記法講解）は、中根式最古の文献です。

「中根式を基礎としたる〇〇〇〇」は、森卓明先生系統の書名です。基本文字は、そのままにして省略法を改良したことが容易に推測できます。

「中根式速記」の頭の部分に〇〇とついている書名があります。

「通俗」「超」「超高」「最も粋を集めたる」です。

「中根式〇〇」という書名が圧倒的に多くあります。

「速記講座」「速記法通信講座」「速記講義録」「速記知識」「速記読本」「速記学教本」「速記者養成講座」「速記入門」「速記教本」「速記の手引き」「速記法原理」「速記法／初等編／中等編／普通編／高等編」「速記の基本教程」「速記法教程」「速記略字表」「速記研究書」「速記術資料」「速記術簡字」「速記法３週間」「速記問題集」「速記学指導者用教範」「速記教程」「速記法体系」「速記法資料編」「速記ＸＬ」「速記の研究」「中根式の流れ」「速記法教範」「速記法概要」等々あります。

片仮名を使用したものには、

「ショートハンド／モジノハジメ／キソチシキ」「ウツシングのすすめ」

ローマ字を使用したものには、

「Shorthand Textbook First Edition」

「Text Of Stenography」

「NAKANE Kurzschrift」

などがあります。

中には「応用速記術の秘訣」「学生速記教科書」「独習学生速記」「学生の速記」等々あります。

ただ書名だけを見ると、何式の本かわからないものもあります。

書名を見ただけで入門書、教科書、指導書、研究書など、文献作成対象にしているものか容易に推測できます。

書名をつける場合は、「中根式」という文字を入れる場合にも「中根式」の頭に「超」「新」「超高」という文字は「師を超える」という意味があるので避けるべき文字です。また文字数も10文字前後が理想的です。特に速記の文献名は簡単明瞭にわかりやすくつけるべきです。

単純に「中根式速記」では、中根速記協会機関誌「中根式速記」、中根正世著「中根式速記」がありますので、紛らわしいので避けるべきです。なるべく既に使用されている書名を避けるようにしたいものです。

「最新中根式速記法」も、何年か経てば「最新」ではなくなりますので、「最新」という文字も避けるべきです。

中根式以外では「○○式発展日本語速記法」「超○○式速記術○○」「新式速記術」（明治時代）というのもあります。

１つの方式で「○○年式日本速記法」というのもあります。この場合は前記の速記方式とは別に改訂していったものです。

速記文例集について

平成17年12月４日

「速記文例集　第147回速記技能検定試験」の１級から６級までの「問題文」「速記文例」「解説」を掲載いたしました。

「速記道楽編」の文例と差しかえております。

速記文例は「速記法則の部屋」の「中根速記学校の体系」で作成しております。

「速記文例」はＰＤＦファイルですが、「解説」はワードです。

「解説」には、各級のページと行ごとに区切っておりますが、〔　〕に法則名を掲載しております。

速記方式の寿命

平成17年12月31日

我が国の速記史をひもとくと１速記方式の寿命は約50年前後です。

田鎖綱紀（安政１年８月15日～昭和13年５月３日）が明治15年に田鎖式を発表してから田鎖　一（明治21年１月29日～昭和32年10月３日）が昭和７年に「51年式」、昭和16年に「60年式」、昭和23年に「67年式」、田鎖　一が研究して昭和33年に田鎖源一（大正８年10月～平成８年２月25日）が「76年式」としてまとめました。次の方式へ移行する期間は計算したとおりですが、田鎖76年式が指導された期間は昭和33年から平成８年までの約38年間です。

我が国の速記界ではいろいろな速記方式が発表されておりますが、その方式の後継者・指導者が亡くなったら自然消滅しております。

１つの速記方式で改良を加えながら３代続いたのは「田鎖式」だけですが、２代続いている方式で、自然消滅した方式は、荒浪市平、清彦父子の「荒浪式」。毛利高範、高棟父子の「毛利式」です。いずれも約50年前後で自然消滅しておりますが、１代限りで後継者・指導者がいない方式の寿命は長くて約50年前後です。

１つの手書き速記方式が長い寿命を持たせるには、後継者・指導者は、もちろんのこと、時代に適応した「速記法則」を構築していかなければなりません。

どんな**優秀な速記方式**であっても、**後継者・指導者がいない**方式は**「自然消滅」**しております。我が国の「速記史」をひもとけば一目瞭然です。

我が国の速記界で速記方式を残すことは、速記指導者を養成するかどうかにかかっております。

現存する速記方式でも、10年後、20年後にその速記方式の後継者・指導者がいない方式は自然消滅する運命にあります。

ここでその速記方式名を書かなくても、現在残っている速記方式を調査すればおわかりだと思います。

実務速記者だけが残っており、現在、**指導していない速記方式**は**「自然消滅」**したと判断しております。

創案以来70年以上存続している速記方式は数え上げるほどしかありませんし、組織（協会及び支部・学校・塾等々）を持っている速記方式はごく少数です。

新しい年を迎えて

平成18年１月１日

国立国会図書館では、ことしの１月から３月にかけてWebサイトの保存が行われると平成16年12月７日の「NIKKI NET」に報道されておりました。

まだ国立国会図書館の本格的な動きをつかんでおりませんが、Web に掲載された原稿が永遠に残りますので、いい加減な内容の原稿が掲載できなくなります。

下手な内容の原稿を掲載すると、後世に証拠を残してしまいます。

速記サイトの管理人は、後世のことまで考えて原稿を作成しなければなりません。

スピードメモ法入門講座開催　速報

平成18年３月21日

平成18年３月19日に道民カレッジ連携講座「スピードメモ法入門講座」を開催しました。

場　所：旭川市勤労者福祉総合センター
時　間：午後１時～午後５時
主　催：旭川地域生涯学習インストラクターの会
後　援：北海道教育庁上川教育局
　　旭川教育委員会

受講申込者は15人おりましたが、当日の出席者は13名でした。

「速記」ですと、難しい、敷居が高い、というイメージがあります。

「スピードメモ法」は、平仮名、片仮名を応用しますので、出席者も参加しやすかったようです。

チラシには「スピードメモ法」の片仮名の読み方、平仮名の読み方、「ン」の書き方、「ツ」の書き方の簡単な説明と文例だけ掲載しました。

道民カレッジ受講生が４人参加しました。千歳市、江別市からも出席しました。旭川市から江別市までは距離にして約100キロ、札幌市までは約130キロ、千歳市までは約150キロの距離です。

12名の出席者（男性７名、女性５名）からアンケートをいただきました。年齢別には40代１名、50代５名、60代６名です。

アンケートの質問で

①もともと関心を持っていたが、参考になった。……７名。

②今までは、余り関心がなかったが、参考になった。……５名。

「スピードメモ法入門講座」の受講を継続したいと思いますか。という質問では、

①継続をしたい。……５名。

②継続をしない。……１名。

③検討中……５名。

「速記」を学びたい、「スピードメモ法」を学びたいという気持ちがあっても、書店に本がない、図書館にも本がないと思っているようです。

受講者が共通している点は、日常生活のメモ、勤務先の会議（録音をしております）でメモを取りたいという声を聞きました。

まだまだアマチュアの世界では「速記を学びたい」という方がおります。

我々速記関係者は、プロ速記者の養成ではなく、アマチュアに速記を学習する機会を与えていくことも必要です。

ＰＤＦファイル実験データ

平成18年５月12日

ワープロソフトの「一太郎2006」で作成した「速記道楽」第３版をＰＤＦ生成ソフト「Justsystem PDF Suite」で実験しました。

「文書」はＡ４判 806ページ　総文字数 775,972文字　2.48ＭＢ

文字と文字の間に速記文字を画像ファイルとして挿入済みです。

〔作業　１〕

ＰＤＦ生成ソフトで一括変換しました。何回作業しても「エラー」が発生しました。

〔作業　２〕

ファイルを下記のように分割しました。（一太郎2006文書容量）

文書１　496ページ　総文字数 453,399字　1.3ＭＢ
文書２　310ページ　総文字数 322,573字　1.18ＭＢ
写真１　２ページ　2.09ＭＢ
写真２　２ページ　965ＫＢ
写真３　２ページ　1.67ＭＢ
＊写真１～３は、一太郎2006圧縮ファイルで4.96ＭＢあります。６ページ分のＰＤＦ一括変換では「エラー」が発生しました。

〔作業　３〕
上記のようにファイルを５分割してＰＤＦ変換作業を行いました。（ＰＤＦ変換後の容量）
文書１　1.83ＭＢ
文書２　1.31ＭＢ
写真１～３
＊写真は１～３をそれぞれＰＤＦ変換後１つに結合して10ＭＢになりました。
＊写真はデジタルカメラで撮影したものではありません。白黒の写真、カラー写真、カラーコピーをスキャナで画像ファイルに取り込みました。
上記の文書を「Justsystem PDF Suite」で結合しました。
最後の作業は「しおり」の文字入力をして完成（13.2ＭＢ）です。

〔追加情報　１〕
「一太郎2006」の「文書スタイル」の設定で「ページ」を入れると、ＰＤＦファイルを結合したときに、各ファイルごとに新規のページが始まりますので、「ページ」を入れません。
ＰＤＦ生成ソフトの方で自動的に連続ページになります。

〔追加情報　２〕
別のＰＤＦ生成ソフトで、マニュアルどおりに「フォントの埋め込み」を行いましたが、愛用の「ＨＧ高橋隷書体」は、他のフォントへ置き換わりました。

〔追加情報　３〕
かんたんＰＤＦ編集（インターチャネル）で〔作業　１〕を行いましたが、「エラー」が発生しました。
いずれのＰＤＦ生成ソフトでもＰＤＦファイル変換容量が決まっているようです。何ＭＢ以上で「エラー」が発生するかソフトメーカーには未確認ですが、１文書が２ＭＢ前後が１つの目安になりそうです。
当然ですが、一太郎2006文書をＰＤＦ生成ソフトでＰＤＦファイル作成作業を場合には、「Justsystem PDF Suite」が相性がよいようです。埋め込んだフォントが他の

フォントに置換されず、そのま表示できます。
　私はＰＤＦファイル作成作業を、速記の資料作成がらみで行っておりますが、通常のＰＤＦファイル作成では800ページのファイルを一括変換しないと思います。

資料作成作業手順

平成18年５月14日

　ＰＤＦファイルで速記関係資料作成には、最低限、下記の作業環境が必要です。

１．スキャナまたは複合機

〔参考〕

　スキャナ及び複合機ＯＣＲエンジンのバンドル版はかなり機能が制限されておりますので、バージョンアップ版が必要です。バージョンアップ版では画像ファイルからＰＤＦファイルへ変換できます。

２．ＰＤＦ生成ソフト

〔参考〕

　最近は、各ソフトメーカーから「ＰＤＦ生成ソフト」がいろいろ出回っております。価格も低価格になって個人レベルで導入できるようになりました。
　パッケージ版、ダウンロード版もあります。また「体験版」もダウンロードできます。
　ＰＤＦ生成ソフトは、使用しているワープロソフトによって選択肢が残されております。
　ＰＤＦ生成ソフトで必要な機能は**「しおり作成」「フォントの埋め込み」「ファイルの分割・結合」**です。
　速記関係資料作成作業は、大きく分けて２とおりあります。

〔作業　１〕

１．ワープロソフトで文字入力して、紙に出力してから速記文字を書き込んで、スキャナでＰＤＦファイルに変換する方法。
　ＰＤＦファイルは画像のみです。フォントは明朝体を使用すると横線が不鮮明になります。下手をすると横線が飛びます。
　白黒のレーザープリンタ（カラーのレーザープリンタは高価です）。インクジェットでカラー印刷しても、カラー画像でスキャナに取り込むと容量が大きくなります。

〔作業　２〕

２．ワープロソフトで文字入力。スキャナで画像ファイルを作成して、文書の中へ画像ファイルを取り込む方法。

ＰＤＦファイルは文字ですので、明朝体を使用しても横線が飛ぶ心配はありません。フォントに色をつけることができます。

いずれの作業でも一長一短があります。

「作業　２」の方法は、下準備として、

１．ワープロソフトで文字入力。
２．スキャナで速記文字の画像ファイル作成。
３．文書の中に画像ファイル挿入。
４．ＰＤＦ生成ソフトでＰＤＦファイル変換。
５．ＰＤＦファイル結合。
６．しおり作成。
７．CD-R に焼きつけ作業。

です。文書の中へ画像ファイルを挿入すると、ファイルの容量が大きくなりますので、２～３ページを１つの文書にします。

市販のソフト及びスキャナのバージョンアップ版では一度作成したＰＤＦファイルから画像ファイルへ変換できる機能がついております。画像の再利用ができます。

新規に画像ファイルを作成するか、ＰＤＦファイルから画像ファイルへ変換する時間的な作業効率も考慮する必要があります。

画像のノイズ（汚れ）除去作業を行えば画像がかなり鮮明になります。この「ノイズ除去」作業で手を抜くかどうかで、最終的なでき上がりが変わります。

〔参考情報〕

「速記資料館」→泉式→泉式関係資料は、ガリ版で印刷されたものです。「ノイズ作業」を行えば、ＰＤＦファイル等に利用できます。

「ノイズ除去」作業は画像を12％、25％、50％、100％に拡大して作業を行いますが、通常の作業では25％、50％で作業すれば肉眼で見た目はわかりません。文字が欠けている場合、文字に汚れなどがついている場合は必要に応じて100％で作業を行います。簡単な線なら描けます。

速記道楽は続く

平成18年６月８日

早稲田速記通信教育センター発行の「早稲田速記新聞」（昭和46年８月１日号第745号）に「みなさんこんにちわ」新受講生の紹介コーナーがありました。

＊「早稲田速記新聞」は、昭和59年４月１日（第896号）が最終号です。

栃木県足利市の大屋喜一郎さんが、下記の原稿を投稿されております。

私の速記歴は古く、今から30年ほど前の日支事変当時が最初です。そのころは早稲田式速記が創設されて間もないころで、テキストも機関誌も今のように完備

されたものでなく、全くの独習といった感じでした。その後出征などで中断、戦後の26～27年に２回目の受講、忙しさなどで中断しているうちにテキストを紛失してしまい、今回また受講開始というわけで、３回目の受講になります。

この30年間には、早稲田式だけでなく、石村式も松杜式も50音のみですが習ってみました。他の方式の研究と経験のためです。そこで早稲田式を見ますと、他式に比べて書きやすく、読みやすいと思います。そして何よりの特長は、速字の書き方の解説が詳しいことです。私の経験で申しますと、やはり速記は基本が大切です。基本に重点を置いてしっかり勉強してください。私の速記道楽はまだまだ続くと思います。

と書かれております。出征された方ですので、少なくとも大正13年以前に生まれた方です。赤紙１枚で応召された方は、大正13年４月～大正14年３月生まれが最後です。

大屋さんが最初に学習された早稲田式は昭和16年前後と推測できます。

２回目のテキストは「早稲田速記講義録」１～９巻です。

３回目のテキストは「ワセダ速記講座」１～７巻、ドリルも１～７巻です。早稲田式の通信教育でプログラム学習を取り入れたのが昭和44年４月以降です。

石村式は、どの時点の石村式かわかりませんが、評論社から発行された「石村式速記講座」初級編（昭和38年６月）です。

松杜式と書かれておりますが、松杜繁土著「速記の初歩から」（昭和41年５月初版発行日本文芸社）は、参議院折衷式です。

通信教育用テキスト「早稲田式速記講義録」と比較すると速記文字の説明とページ数が少ないので見劣りがします。

大屋さんは基本文字だけでなく、石村式、参議院折衷式を最後まで学習していただきたかったと思います。

基本文字の学習だけでは、自分が最初に学習した速記方式との違いがわかりません。

最後の「私の速記道楽はまだまだ続くと思います」という言葉が印象的です。大屋さんはお元気でしたら満82歳以上の方です。

みんなの速記小委員会報告

平成18年７月８日

社団法人日本速記協会機関誌「日本の速記」平成18年７月号に「みんなの速記小委員会」の委員長・小谷征勝さんの報告書が掲載されております。

全文をご紹介いたします。

速記界の現状を見るとき、残された道として、個人の能力アップに資する「みんなの速記」の有用性・必要性を前面に出し、従来のプロ速記者養成の分野は切り捨て、あるいは棚上げした「みんなの速記」の紹介・普及という観点から勧めていくべきで、各方面の速記人が一丸となって当たっていかなければ、所期の効

果は期待できない。
　こういう認識の上で進んできた審議の一端を報告します。

「符号の統一は困難」

１．統一式について

　現状では困難だが、速記存続・普及のための象徴的な活動の１つとして、引き続き調査・研究の対象としておきたい。

２．協会の方式推薦等について

　既成方式の人材・教材等を生かすために、実績ある方式がそれぞれ速記方式体系の内容を検討・抜粋し、「みんなの速記」の目標に到達可能なものに再編した「各式テキスト」をつくればよいのではないか。

３．「各式」テキストについて

　目標としては、分速150字～200字程度に最短期間で達する程度の簡明な速記システムとしてはどうか。
　その内容は、各方式による個性があるので、50音符号等の基本文字を中心にし、イ・長・ツ・ク・キ音等の漢字音の書き方及び常用助詞、若干の常用略字等を加える程度でそれぞれがまとめてはどうか。

「協会テキストの作成」

４．「協会テキスト」について

　なお、以上の方法では従来と大差ないと考えられる面もあるので、協会事業として各方式共通の「協会テキスト」を作成する。
　これには利用例・活用例や簡単な歴史、検定の受け方を初め速記の周辺知識等をふんだんに取り入れ、速記文字は紹介する程度にとどめ、実際の速記学習は前記「各式テキスト」に任せる。

５．その他、普及具体策について

　普及方法（宣伝、場所、指導者、通信添削、ｅラーニング、講習会など）、年次計画と資金対策、協会に要請すべき事項についての検討を行う。
　例えば宮部みゆきさんなど速記にゆかりのある有名な随筆等を速記符号化して共通教材とする。
　また、「各式テキスト・協会テキスト」の内容については、著作権対象から除外するなど、何らかの方法がとれるよう関係者に了解を得る。
　なお、将来的には発言記録に関して総合的に研究する場を設け、その中に符号速記研究をする部門をつくり、「みんなの速記」小委解散後も継続して調査・研究していくことも必要かと思われる。

以上、速記人たる皆様の御意見・ご助言をいただければ幸いです。

「みんなの速記小委員会」報告について

平成18年７月９日

「みんなの速記小委員会」の報告書は10月の総会に報告の予定になっており、まだ決定しておりません。

私は小谷征勝委員長の中間報告に対して概ね賛成ですが、

１．統一方式について

中根式では「立案の根本方針」がありますので、中根式の指導者は「中根式の精神」を捨ててまで、統一式を指導しません。私は使用している方式には愛式精神を持っております。

早稲田式では「創案当時の五大綱領」があります。

また、指導者自身が書けない方式は、学習者に対して自信を持って指導できません。

２．協会の方式推薦等について

昭和31年10月20日に「第２回速記教育委員会」で「協会推薦速記方式名」として11方式が決定されました。

石村式、イトー式、熊崎式、国字式、佐竹式、田鎖式、佃式、中根式、牧式、山根式、早稲田式。

の速記方式の中で、昭和31年の時点で既に速記方式の使命が終わっている方式が含まれております。

参議院式、衆議院式は、民間方式と指導をする条件が、全く違いますので推薦方式名に含まれておりません。

また、50年後の今日で残っている速記方式はわずかです。ここで、私が方式名を挙げる必要はないと思います。

日本速記協会の第３回理事会（昭和32年５月27日開催）では「協会推薦方式」が承認されませんでした。

日本速記協会機関誌「日本の速記」昭和32年７月号（協会の動き）では、下記のように、

「２．第２回及び第３回教育委員会経過報告の件」

まず山田（＊到）副理事長から、第２回教育委員会において11方式を推薦するに至った経過について報告、続いて木村（＊藤曹）理事から、第３回教育委員会の経過報告（別掲）があった後、両回の教育委員会において得られた結論に対する理事会の態度を種々討議の結果、教育委員会に差し戻して再検討を願うとともに、教育委員会の構成及び今後の進め方について広く意見を聞き教育委員会は再

出発することになった。

と掲載されております。

その後、昭和37年の「日本速記発表80周年事業」のごたごたで「速記教育委員会」は、うやむやの内に自然消滅しております。

「みんなの速記」で既成方式の「協会の方式推薦」については、10年後、20年後に指導者が確保されているかが最も重要です。現存する方式で「各式テキスト」を作成しても、その方式の後継者・指導者がいなければだめです。

３.「各式テキスト」作成について

速記指導者自身がテキストを作成する気概があるかどうかです。

「だれかが〇〇式のテキストを作成してくれるだろう」ではなく「自分が〇〇式のテキストを作成する」という気概が必要です。

中根式で内容を検討しますと、「基本文字、長拗音、インツクキ法、助詞」及び簡単な「最大線、上段、下段、口語助動詞」程度です。

中根式では「スピードメモ法」が50年近い実績を持っております。「スピードメモ法」で、書籍になっている内容は半分程度です。中根式関係者でも知らない法則があります。

それと「各式テキスト」をオフセット印刷をするかどうかで予算が大きく変わってきます。

私はＰＤＦファイルで原版を作成して、学習者に対してＰＤＦファイル及びコピーで渡す方が安くできると考えております。ＰＤＦファイルですと在庫を抱える心配がありませんし、改訂版などを簡単に作成できます。

４.「協会テキスト」では、各式が共通しているのは、速度練習、検定試験の受験方法、練習問題文です。

特にアマチュアの速記教育では、速記の利用方法が重要です。速記史は必修科目です。

ここで、考えなければいけないのは、学習者の速記方式の選択です。学習者が「何式」を選ぶかです。

我々が速記を学習したときを思い出してください。最初にＡ式に出会ったから、Ａ式を学習しただけです。

速記学習者で、速記方式を選択できる人は非常に少ないと思います。

Ａ式を学習後にＢ式へ切りかえた人は少ないと思います。ほとんどの学習者は、最初に出会った方式をそのまま学習します。

「協会テキスト」には、最低限各式の基本文字と文例ぐらいは掲載すべきです。

ＰＤＦファイル作成事始

平成18年７月11日

私が作成した「中根式速記法教範　速記法編／資料編」を画像ファイル（TIFF 圧縮ファイル）へ変換作業したのが、平成15年７月中旬です。ワープロ専用機で作成した原稿をスキャナで呼び込んで515枚の画像ファイルを作成いたしました。

スキャナで画像ファイル１枚を読み込む時間はメモリの容量にもよりますが、一時的な作業です。

平成16年１月初旬に、宮嶋亮一さんが「中根式速記法教範　速記法編／資料編」をＰＤＦファイルへ変換作業を行いました。

平成16年１月14日に、宮嶋さんから「しおり」つきのＰＤＦファィルが届きました。

私が作成した速記の資料でＰＤＦファイルが最初に完成したのが平成16年１月中旬です。

私は「Adobe Reader 6.0」をインストールしておりましたが、ＰＤＦ生成ソフトが市販されていることを知りませんでした。宮嶋さんからＰＤＦ生成ソフトの情報を得ました。

私がＰＤＦ生成ソフトを導入したのは平成16年７月31日です。

いきなりＰＤＦ（ソースネクスト）で定価が1,980円です。

私自身が、ＰＤＦファイル作成作業になれるために導入しましたが、「しおり」機能がついていないので、宮嶋さんから「しおり」のフリーソフトを紹介されました。

平成18年４月に「かんたんＰＤＦ編集」（インターチャネル）と、「Justsystem PDF Suite」（ジャストシステム）のＰＤＦ生成ソフトを導入しました。

「いきなりＰＤＦ」で作成したＰＤＦファイルを「かんたんＰＤＦ編集」へ変換して、「Justsystem PDF Suite」で「しおり」の作成作業を行いました。

「Justsystem PDF Suite」では、「いきなりＰＤＦ」のＰＤＦファイルを読み込めませんので、一度、「かんたんＰＤＦ編集」のＰＤＦファイルへ変換しました。

「かんたんＰＤＦ編集」で一度ＰＤＦファイルを３分割後、結合してから「Justsystem PDF Suite」で「しおり」作成作業を行いました。

「かんたんＰＤＦ編集」では、１ページごとに分割できますし、ページ数が多いＰＤＦファイルの分割作業は２分割ではなく、自動的に３分割になります。

画像ファイルからＰＤＦファイルの変換は、どこのメーカーのＰＤＦ生成ソフトを使用してもできますが、私はワープロソフトで、ＨＧ高橋隷書体を使用しておりますので、ＰＤＦファイルへ変換する場合は「フォントの埋め込み」作業では使用するＰＤＦ生成ソフトが限定されます。

＊平成29年９月現在、上記のＰＤＦ生成ソフトを使用しておりません。

上記のＰＤＦ生成ソフトはＯＳが利用できるのは Windows XP です。

速記レコード教室

平成18年８月１日

昭和37年８月ごろに「速記の友社」から「速記レコード教室」が発売されておりました。

中根式速記協会機関誌「速記時代」に広告が掲載されております。

速記練習レコードついに出現！

■検定試験の準備に

■実力を計るために

■速度上昇の練習に

■演説するレコード

速度1,000字 1,300字 1,500字 1,700字 2,000字 2,300字

（国会議事録の４問題を２枚に収録）

フィルム・レコード２枚１組　送料　￥300

昭和38年２月に第２集が発売されました。速度は

1,300字 1,500字 1,700字 2,000字 2,700字〔議事録〕

です。速度の表示は10分間換算です。

また昭和38年10月に「速記実務レコード」が発売されております。

☆実務につくための練習に☆

20センチ両面盤

No.１　平均速度2900字　3100字

No.３　平均速度3000字　3500字

昭和39年２月に

No.２　平均速度3300字　3100字

が発売され、「速記時代」へ昭和49年３月号まで広告が掲載されておりました。

私は「速記レコード教室」「速記実務レコード」を購入しませんでしたが、早稲田速記講座／総合技術課程の教材に「速度練習レコード〈総合盤〉」に直径17.5センチのソノシートが２枚ついておりました。速度は、

１面が分速100字×１分30秒、分速120字×１分。

２面が分速150字×２分、分速170字×２分。

３面が分速200字×３分29秒。

４面が分速230字×３分30秒。

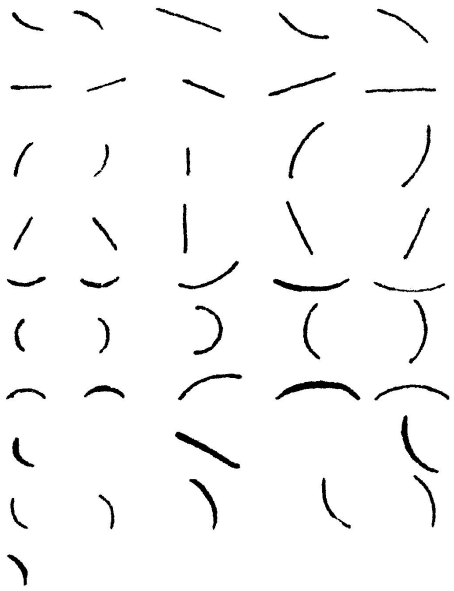
です。

昭和44年からのワセダ速記講座／専門課程では、速度練習編として直径13.2ミリのソノシートが５枚ついておりました。分速80字×２分、分速120字×２分、分速180字×２分、分速240字×２分、分速320字×２分が、各２問づつ入っておりました。

私はレコードプレーヤーよりも、テープレコーダーを先に購入しましたので、速度練習の段階ではほとんど使用しておりません。

稲田式の速記文字構成

平成18年８月７日



清音の構成

ア列×２＝オ列

イ列×２＝エ列

ウ列の構成

ウ÷0.5＝ク

ス×２＝ツ

ノを上に上げてヌ

ホを深くしてフ

モを上に上げてム

ウを濃線化してユ

ロを濃線化してル

拗短音の構成（逆記法）

ア列に角カギをつけて拗短音１列目（キャ）

イ列に角カギをつけて拗短音２列目（キュ）

オ列に角カギをつけて拗短音３列目（キョ）

＊以下同じ

拗長音の構成（逆記法）

ア列に大カギをつけて拗長音１列目（キャー）

イ列に大カギをつけて拗長音２列目（キュー）

オ列に大カギをつけて拗長音３列目（キョー）

＊以下同じ

長音（逆記法）

各列に小カギをつけて長音をあらわす。

ンの書き方

小円を逆記してあらわす。〔中根式と同じ〕

詰音

尾部交差〔中根式と同じ〕

＊熊崎式では中部交差。早稲田式と同じ。

同行縮字〔逆記法〕

ア＝大円　イ＝結び大円　ウ＝小丸カギ　エ＝角カギ　オ＝大カギ

チクシツインキ〔逆記法〕

チ＝大円　ク＝小楕円　シ＝結び大円　ツ＝中楕円　イ＝中円（大円と小円の中間）ン＝小円　キ＝頭部加点

助詞縮字法

アリマスは「・」（上段）

アリマシテは「・」（中段）
アリマシタは「・」（下段）
ゴザイマスは「ー」（上段）
ゴザイマシテは「ー」（中段）
ゴザイマシタは「ー」（下段）
＊中根式と同じ。
中根式に、熊崎式（同行省略）、ガントレット式（チクシ法）を折衷したような速記方式です。

Pitman式について

平成18年８月11日

Isaac Pitman（1813年１月４日～1897年１月23日）は、1837年11月５日に最初の著書 Stenographic Soundhand を刊行いたしました。
ピットマンは、速記法の用途により３つの段階に分けたいと考えておりました。

１．個人型の速記

数週間の学習で分速50～60語を書けることが目標。そのために単純で書きやすく読みやすい速記文字にすること。

２．事務型の速記

ビジネスマンや官吏、学者、文筆家向けに、数カ月の学習で分速100語に達し得て、あわせて印刷しやすい速記文字にすること。

３．記録型の速記

演説などの連続的発言を記録する速記専門家向けの速記文字。分速300語が目標。
ピットマン式は、創始者の構想とおりに３つのスタイルに分化、発展してきました。

＊兼子次生さんの情報を紹介します。
ピットマン式は衰退して、その枝からティーライン式が出ております。
以下、兼子次生さん調査資料を紹介いたします。

1837年　ステノグフィック・サウンドハンド
父音は今と同じだが、その割り当てが違う。

1840年　フォノグラフィ・セカンド・エディション（２版）
第１回の改良。父音は現在と同じ。世界初の通信教育で「ペニー・プレート」と呼ばれる。

1857年　フォノグラフィ・テンス・エディション（10版）
現在の母音表記に変わった。

1922年　ニュー・イアラ・エディション
高速度速記者用に工夫された。10分間朗読で分速250語が試験で達成された。

1975年　ピットマン2000エディション

ニュー・イアラの修正版。重要でない規則をやめ、学習負担を軽減、オフィス・ワーク用の適度な速さを用意した。

古書持ち主の履歴

平成18年８月12日

速記関係の古書収集は、今でも私の趣味か道楽かわかりませんが、古書店で、速記関係の文献を購入しますと、前の持ち主の名前や購入年月日が記入されている場合があります。

年代が古い古書ほど持ち主の名前が複数にわたっております。

蔵書印などを押している場合もありますし、持ち主の名前がない場合もあります。

最初の持ち主、２人目の持ち主等々、私が何人目の持ち主かまでわかります。

年代の古い古書では、私が３人目の場合は、逆算しても合わない場合があります。

例えば1882年に発行された本ですと、持ち主が１人目だとわかりますが、私が購入したのは1996年ですから、114年間が経過しております。その間、古書店に置いてありますので、私が何人目の持ち主かわからない場合もあります。

1887年に発行された本を見ますと、最初の持ち主は明治33年（1900年）に購入したことが記入されておりますが、２人目の持ち主は蔵書印を押しております。私が購入したのは平成２年（1990年）ですから、３人目になります。

最初の人が購入してから、私の手元に入るまでの90年間は、途中で何人かの持ち主がいたと思います。

私は本を購入した場合は、年月日とゴム印を押しております。

また、以前の持ち主が本に書き込みなどをしているので、どこまで読んだのか、あるいは学習したページまでわかります。

前の持ち主が、全く書き込みをしていない本もあります。

原稿作成

平成18年８月13日

最近、親しい速記仲間から聞いた話です。

「日本の速記」から原稿依頼を受けました。某氏は、原稿作成後、ＰＤＦファイルを社団法人日本速記協会の事務所へメールで送りました。

ＰＤＦファイルには、セキュリティを設定しており、コピー禁止、印刷禁止になっております。

ＰＤＦの原稿が閲覧できるのは、社団法人日本速記協会に置いてあるパソコンだけです。

ＰＤＦファイルはコピーできませんので、編集担当者のパソコンでは閲覧できません。

結局、某氏が作成した原稿は没になったようです。

ＰＤＦファイルにセキュリティを設定して、編集者へ原稿を送った某氏の発想？には脱帽いたします。我が国の速記界が始まって以来の前例をつくりました。

速記界では一言居士の某氏ですから、編集者に対して何かを伝えたかったのだと思います。

編集者には、某氏の意図が伝わらなかったようです。

もし、皆さんが編集担当者の立場だったら、どのように対応いたしますか。

原稿を没にするだけだったら、どこの世界でも同じです。速記界ですから、何かよい方法があると思います。

某氏の名前は、個人情報の観点から伏せておきます。

伝えたかったこと

平成18年８月15日

某氏がＰＤＦファイルで速記関係機関誌の編集者に伝えたかったことは
「速記者なんだから、ＰＤＦファイルの原稿を速記文字で書き写してから、パソコンで文字入力をしなさい」
ということでした。

速記は、人の発言を書き取るだけのものではありません。日常生活のメモに使用しても便利なものです。

要するに、編集者の頭の中には「速記は人の発言を書き取るもの」という、既成概念しかなかったわけです。

某氏が編集者に対して速記文字の使い方を教えたかったことが、容易に推測できます。

ピットマン式について

平成18年８月21日

津山千鶴子編訳「やさしい英文速記　基礎編」が昭和57年９月16日に蝸牛社から発行されております。

図書館か古書店を探せば出てくると思います。

「Pitman 2000 SHORTHAND」を日本語で解説した本です。本文162ページでＡ５判 変形です。

原稿作成方法の違い

平成18年８月28日

最近は、速記関係の機関誌よりも、ホームページの原稿作成作業が多くなりました。

機関誌とホームページでは原稿の作成方法が違います。機関誌は片側通行ですので、幾らない知恵を絞って原稿作成してもほとんど読者から反応がありません。

ホームページは双方向ですから、アクセス件数を見ればそれなりに反応があります。

年１回発行の機関誌ですと、忘れたころに機関誌が発行されますので書いた原稿の内容によってはかなりずれが生じます。

機関誌とホームページの大きな違いは、機関誌は速記関係者のみです。印刷物が発行されて誤植があれば後世へそのまま残ります。ホームページは地球規模でだれが閲覧しているかわからない世界です。ホームページでは原稿を掲載してから内容の変更がなどが後から直せます。

「速記雑感」は、１文書が2,000文字以内に制限されておりますが、入力ミスは後から直せますし、原稿の変更が自由に作業ができます。

機関誌のように原稿が没になる心配がありませんので、好きな内容の原稿を文字数に関係なく入力できます。

掲載する原稿も、文献等で充分な調査をしないで作成すると恥をかきます。

ＨＰ「速記道楽」開店満３周年を迎えて

平成18年８月31日

ＨＰ「速記道楽」は開店満３周年を迎えました。

「道楽おやじ＆ブラック」コンビで、詳細な打ち合わせ作業を行いながらいろいろな企画を行ってきました。

満３周年記念企画はＰＤＦファイルで「Pitman 式の紹介」を行いました。

現在、我が国で残っている速記方式はほとんどが Pitman 式の系統です。

我が国の速記サイトでは Gregg 式の速記サイトがありますが、Pitman 式を紹介しているサイトはありません。

現在、Pitman 式は衰退しているとはいえ、世界を代表する速記方式です。1837年に創案以来169年間の歴史を有しております。

我々速記関係者は Pitman 式の原書を見る機会が少ないと思います。

我が国で指導されていた英文速記のほとんどが Gregg 式です。Gregg 式の原書は書店で入手できましたが、Pitman 式の原書を入手が難しいと思います。

当サイトで Pitman 式の原書をＰＤＦファイルで掲載すると Web 上では相当の容量を使用しますので、「冊子」を紹介いたしました。

４年目もいろいろな企画を予定しております。

〔追加情報〕

ＰＤＦファイルにはセキュリティを設定しておりますので、ファイルを保存しても印刷・編集・コピーはできません。

訓音換記法

平成18年９月６日

訓音換記法は、訓読みのものを音読みで書く方法ですが、速記文字は「上段」へ書きます。

早稲田式の通信教育テキスト（平成６年度版）では、上段に約30前後が掲載されております。

私（チャ　単画早稲田式のシ）、喜ぶ（キ）、行う（同行省略オの楕円）、従う（ジュ・ウ）、伴う（ハン）、学ぶ（ガク）、結ぶ（ケツ　二音文字）、開く（カイ）、進む（シン）、保つ（ホ）、防ぐ（ホ・ク）、余る（ヨ・ル）、はじめ（ショ）、確かめる（カク・メル）、遊ぶ（ユ）、過ぎ（カ）、後（ゴ）、最も（サイ）、くらい（キ）、ぐらい（キ　に加点）間（カン）、盛ん（セイ・ン）、明らか（メイ）、明るい（メイ・イ）、確か（カク）、おのおの（カクカク）、乏しい（ボー・シイ）、喜ばしい（キ・シイ）、あらかじめ（ヨ）、ただし（タン）、まこと（セイ）、話（ワ）。
に限定しております。

早稲田式と中根式は法則体系が違いますので、訓音換記法で処理する言葉が違います。

中根式（中根速記学校）では、指導した年代によって異なりますが、

あらわれる（ゲン）、あわせて（へて）、明らか（メ）、あらわす（ヒョウ）、改める（カイ）、誤る（ゴ）、暁（ギョウ）、争う（ソウ）、鮮やか（セン）、集める（シュウ）、暖かい（ダン）、与える・あらかじめ（ヨ）、いたずら（ト）、いたす（チ）、営む（エイ）、戒める（カイ）、承る（ショウ）、憂える（イウ）、麗しい（レイ）、疑う（ギ）、納める（ノウ）、認める（ニン）、等々。

約85前後の速記文字を習いましたが、全部、訓音換記法を使用しなくても摘記略法、各行縮記法などで処理できますので、訓音換記法を使用する速記文字をある程度限定できます。

訓音換記法で書けば、線量が少なくなりますが、摘記略法などを使用した方があとから読みやすい場合があります。

また、ほとんど使用しない「おもんぱかる」を上段で「リョ」と書くことを思い出しているよりも「オモんハく」と書いた方が早い場合があります。

例えば（レば）を〔タば〕と書けば中段に書けますし、「ハ」の助詞も正側につけてれば、他の音を含ませることができます。

いろいろな法則を利用すれば、「訓音換記法」を使用する速記文字を少なくできま

す。

岩手速記学院

平成18年９月９日

「日本の速記」平成18年９月号に、盛岡速記教室の丸谷誠一さんが「ボケ防止からプロ速記者まで」という原稿が掲載されております。

（前略）

日本語速記の歴史は、1882年（明治15年）10月28日、盛岡出身の田鎖綱紀が日本傍聴筆記法を発表したことに始まりますが、岩手においては、たしか昭和27～28年ごろ、国民皆速記の理念のもと、今は亡き加茂秀雄氏により岩手速記学院が開設され、その後、速記関係各位のご尽力により昭和43年５月（＊）に日本速記協会岩手支部の設立、昭和52年５月から盛岡速記教室が開設されて、今日まで速記の普及活動が続けてまいりました。

現在の速記教室は、人口30万人の盛岡市の中心部、市勤労福祉センターで毎週月曜日の夜６時から８時まで、だれでも参加できるよう会費は月1,500円とし、中根式の速記を教えております。

（後略）

＊昭和43年５月18日（出典：日本速記年表）

中根速記協会機関誌「速記」昭和27年６月号（復刊 第36号）に「ニュース写真」“岩手速記学院（岩手支部）”の写真と原稿が掲載されております。

「本協会岩手支部長加茂秀雄先生の手によって設立された岩手速記学院は生徒80余名を迎えて盛大をきわめている。」

「速記」６月号の印刷納本日は昭和27年５月25日ですが、当時は機関誌の１カ月遅れがあったかどうか確認しておりませんが、岩手速記学院が設立されたのは５月初旬と推定できます。

同機関誌「速記」昭和28年１月号（復刊第43号）に加茂秀雄先生が「職場速記　１年を顧みる」と題して投稿されております。

（前略）

1952年（＊１）初頭において、私は岩手県労働協会の幹部の人々に会った際、職場人のクラブ活動、なかんずく文化活動について話し合って、経営者と労組でできている労働協会の事業として、速記を取り上げたらどうかという提案をして満場一致の賛成を得たのが、岩手速記学院誕生のきっかけとなった。

構成は県の外郭団体としての労働協会の主催でその指導は中根速記協会岩手支部が一切引き受けることにして、私が学院長をやることにして、中根速記協会本部の後援ということで、中根校長のご指導をできるだけ受けることとした。生徒は労働組合員

と学生、本科４カ月、研究科４カ月、高等科４カ月ということにして、火木土毎２時間の指導をし、月水金は職場ごとのグループ練習という形を取ってみた。目標として本科は1,500字、研究科は2,500字、高等科は3,000字としてみた。

教材は中根先生（＊２）とご相談したところに準拠し、中根速記学校のご指導の下に収録したものを用いることにした。さてただいま１月初頭に既に本科の２回目の卒業生を出し、初めての高等科ができたところであるが、その間にいろいろな問題は出てきているので、各支部のご参考にもと考え次に列挙してみよう。

（後略）

＊１　昭和27年

＊２　中根正世先生

機関誌「速記」昭和28年１月号（復刊第43号）の「写真ニュース」には「岩手速記学院第２回卒業式」の写真と記事が掲載されております。

「本協会岩手県支部の岩手速記学院第２回卒業式は去る12月27日盛岡市労働会館で行われた。卒業生48名」

加茂先生の書かれた原稿には昭和28年１月初頭に「本科の２回目の卒業生を出し」と書かれておりますが、「昭和27年12月27日」の誤りです。

本科４カ月、研究科４カ月ですから、逆算すると岩手速記学院が開設されたのは８カ月前の昭和27年５月初旬になります。

同機関誌「速記」昭和27年６月号（復刊第36号）の記事と符合します。

当時、岩手速記学院で使用されていたテキストは、中根正世著「中根式速記」昭和27年４月発行と、中根速記学校で指導されていた速記法則とほぼ準拠されたものと推測できます。

＊加茂秀雄〔明治26年12月～昭和52年６月19日〕（出典：日本速記者名鑑）

「盛岡速記教室」の開設が昭和52年５月ですから、加茂秀雄先生が亡くなる約１カ月前です。

速記関係問題の難易度

平成18年11月１日

「速記関係問題」の作成では、同じ内容の問題でも解答方法を「記述式」「語群選択」「マル・バツ式」「完全解答」「引っかけ問題」等々、いずれの方法を取り入れるかによって難易度が変わってきます。

「記述式」では、適当な言葉・単語を入れなければなりませんので、かなり難しい部類に入ります。

「語群選択」では、答えが「語群」の中に出ておりますので、易しい部類に入ります。

「マル・バツ式」では、答えが「マル」か「バツ」だけですので、かなり易しい部類に入ります。

「順番に並びかえ」では、全体を知らないと、順番に並びかえができません。１カ所でも間違うと順番が狂いますし、運がよければ、間違った部分だけで済みます。

「完全解答」では、問題自体がセットになっておりますので、全部できなければ、得点に結びつきません。

「引っかけ問題」では、うっかりすると間違う問題ですので、要注意です。

また、「制限時間」を設けて解答するか、いろいろな「速記関係の文献等々を駆使」して解答するかでは、得点も変わってきます。

一度でも「文献」に目を通していれば、記憶のどこかに残っているはずです。記憶に残っていれば、その文献を容易に探せます。

最終的には「文献」を持っているかどうかですが、どの文献に掲載されていたかという「記憶力」と「調査力」を見る問題です。

「速記関係問題100問」をアップしておりますが、当サイトに掲載している原稿を調査すれば「86点」は取れるように問題文を作成しております。

残りの「14点」は、いろいろな速記関係の文献を駆使して調査すれば取れます。

「速記関係問題100問」の応募締め切り

平成18年12月１日

「速記関係問題100問」の応募を締め切りました。

応募者は「０名」です。

「速記関係問題100問」の解き方

平成18年12月２日

「速記関係問題100問」の解き方について

「問１」は､「速記雑感」2006年７月９日“「みんなの速記小委員会」報告について”に掲載済みです。

「問２」及び「問３」は、「速記基本文字総覧」“速記基本文字総覧別表”に掲載済みです。

「問２」は、マル・バツ式のサービス問題です。

「問３」は、語群の創案年代を別表を見ながら順番に並べれば答えが出ます。

「問４」は、兼子次生著「萬国速記史」及び向井征二著「速記の歴史（西洋編）」からの出題です。

「問５」は、兼子次生著「萬国速記史」から出題しております。

「速記資料館」“世界速記年表”を調査すれば16問できます。

「問６」は、語群の中から２方式を選択する問題ですので、速記関係の資料で調査すればわかると思います。第１図と第２図の違いは「W、Y、H」です。
兼子次生著「萬国速記史」で調査すれば自ずから解答が導けるはずです。「消去法」で消していけば残ったのが正解です。
「問７」は、「速記基本文字総覧」“速記基本文字総覧別表”に掲載済みです。
別表を系統図にしただけです。語群の中から方式別の系統を埋めていけば答えが出てきます。
当サイトに掲載済みの原稿で最低「86点」が取れます。
兼子次生著「萬国速記史」で、最低「98点」が取れます。
参考までに、私が高校３年生当時（38年前）に速記関係の資料を集めておりましたが、当時の資料で問題文を解いたら「46点」でした。高校３年生のレベルで、「46点」という点数が、高校速記部員として高いか低いかはわかりません。
「速記関係問題100問」も「語群」なしで、すべて「記述式」で作成すれば難問になると思います。

西洋の速記

平成18年12月10日

1965年にスイスのエーメ・パリ速記協会からマルセーヌ・R・ラシーヌ著「世界の速記」が発行されました。
原著はフランス語ですが、Ａ５判で166ページの本です。
当サイトでは、創案者の写真と速記文字の図版を抜粋して「西洋の速記」としてまとめました。
ＰＤＦファイルですが、作成作業で「一太郎2006」のフィルに図版を挿入した関係で約4.5ＭＢの容量になりました。
一度、用紙に印刷してからスキャナでＰＤＦファイル作業を行えば、ＰＤＦファイルの容量を少なくできたと思います。
またフランスでは1909年にアルベール・ナヴァール著「STENOGRPHIE」Ａ５判で808ページが発行されております。分類は「速記史」です。

速記法則は出尽くした

平成18年12月29日

昭和50年ごろだったと思いますが、中根式速記協会の行事で西川禎二（尼崎市議会）さんとお話しした際に
「速記法則は出尽くした」
と言われました。

西川禎二さんは中根式速記協会機関誌「速記時代」（昭和48年２、３月号から４月号）に掲載されていた「運筆の研究」として各地の文例を見て言ったのだと思います。33名の方が同一文例（当サイトでは32文例を掲載済み）を出しておりますが、文例を出していない方が何人もおります。33人の中で年齢的に私が一番若い方でした。

中根式を学習した年代、教育機関などの違いもありますが、各人がいろいろな書き方をされております。

その西川さんは当時43歳ぐらいだったと思います。私も中根式速記協会では若手の部類でしたので反論しませんでしたが、西川さんが知らない中根式では新しい速記法則が出ておりました。

中根式では、その後新しい速記法則が出ております。

昭和56年６月　「ＳＦ・ＳＭ記法」（サインフリー化・サインマルチ化）
昭和58年１月　「ゾーン記法」
昭和62年６月　「逆・逆記法」
昭和62年６月　「楕円逆記」等々

一部の中根式関係者は、新しい速記法則を使用しております。

平成18年度を振り返って

平成18年12月31日

年末に本家で使用しているＯＣＮの「速記道楽」が手狭になりました。相棒と相談して分家の忍者ツールズへ「速記道楽　保管庫」をつくりました。

当サイトは３ＭＢで開店いたしましたが、３年４カ月で本家が狭くなり、古いファイルは分家へ14ＭＢ引っ越ししましたが、新しい原稿は本家に掲載していきますが、古くなったファイルは逐次分家へ引っ越しいたします。

またサイトに未掲載のファイルも掲載しております。

分家へ引っ越しに必要な１ファイルの容量は３ＭＢ以内ですので、これからの原稿作成も３ＭＢ以内に作成しなければなりません。

個人的には、いろいろなメーカーのＰＤＦ生成ソフトを導入して、ＰＤＦファイルの実験を行いました。

最終的にはアドビシステムズの「アクロバット８スタンダード」に落ちつきました。

「アクロバット８スタンダード」で、市販のマニュアル（アクロバット７スタンダード）を見ながら「しおりの階層化」「ページ分割・結合」「ページ削除・挿入」作業ができるようになりました。

速記関係文献資料のＰＤＦファイル作成作業には、必要最低限な作業です。

いろいろなＰＤＦ生成ソフトで同じファイルを変換いたしましたが、容量の大きさが違います。特にホームページへ掲載する場合は、ホームページの容量が限られておりますのであらかじめ何種類かのＰＤＦ生成ソフトで変換してから、一番容量が少な

いものを使用しております。

新しい年を迎えて

平成19年１月１日

新しい年を迎えました。

ことしも、どの資料をＰＤＦファイル作業を行うか、本棚の中を探しております。

当サイトでは、中根式だけにとどまらず後継者が途絶えた「手書き速記」をＰＤＦファイルに残したいと考えております。

コピーした資料は、ノイズ除去作業を行えば原本とほぼ同じ状態でＰＤＦファイルに変換できます。

ホームページへ掲載するには、後の作業（引っ越し）も考えてＰＤＦファィルを３ＭＢ以内に容量をおさえなければなりません。場合にはよっては、１つのファイルを分割する場合もあります。

ことしも、どんな速記方式のＰＤＦファイルを作成するかお楽しみください。

ＰＤＦファイルによってはセキュリティを設定（印刷及びコピー制限）しますので、あらかじめご了承ください。

雑感

平成19年１月12日

速記文字を改良する方法には、次のものがあります。

１．基本文字の入れかえ

２．速記法則の改良

母式からの基本文字の入れかえは、何回も行うものではありません。基本文字の入れかえ作業だけで何十年も費やすよりも、新しい速記法則を改良する方が第三者には参考になります。

基本文字を入れかえると「速記法則」の運用がしにくくなる場合もあります。ある法則できれいに速記文字が書けるのに、基本文字を入れかえると逆に書きにくくなる場合もあります。

基本文字を入れかえるたびにテキストをつくりかえることは時間の無駄ですし、出版社からテキストを出している場合は、新版と旧版が書店の棚に並んでいることがあります。

出版社は、初版だけでは元が取れませんので、２版、３版を発行します。

テキストを分冊にすると、１巻だけ売れますが、２巻、３巻目は売れ残ります。これはガリ版で印刷していた時代から同じです。速記学習者が速記を途中で落伍するのは１巻目、つまり基本文字から省略法にかけての段階です。独習書、通信教育でも同

じです。速記学校でも同様の現象が起こっております。
私が中根速記学校へ入学してから、３カ月目には５人ほど中退しております。

ガントレット式について

平成19年２月４日

森上富夫著「ガントレット式日本語速記術」のＰＤＦファイルを掲載いたしました。
ガントレット式のＰＤＦファイルは、２回に分けて掲載いたします。
後の作業になりますが、「速記道楽　保管庫」へ転送するには、３ＭＢ以内の容量です。

傍聴筆記新法について

平成19年４月29日

黒岩　大・日置益著「議事・演説・討論　傍聴筆記新法」（明治16年７月　丸善発行）をＰＤＦファイルで掲載いたしました。
私が国立国会図書館で「議事・演説・討論　傍聴筆記新法」の原本を確認したのは13年以上前ですが、保存状態がよいので100年以上前に発行された書籍という感じがしませんでした。
「傍聴筆記新法」の書名は速記関係者でも「日本速記百年記念誌」の「速記関係文献目録」及び「速記年表」で知っている程度です。
「傍聴筆記新法」の内容まで知っている速記関係者は非常に少ないと思います。
124年前に発行された書物がパソコンを使用してＰＤＦファイルへ変換できるようになりました。
二昔前なら、コピーする方法しかありせんでしたが、コピーでは紙がやけている部分は黒ずんだままです。
スキャナで画像ファイルへ変換するだけなら、コピー機と同じです。
ＯＣＲソフトで「ノイズ除去」作業を行うと、画像が鮮明になります。
画像ファイルをＰＤＦ作成ソフトで変換して「しおり」をつければ作業が完了します。

第二次21世紀開発委員会「みんなの速記」小委員会答申

平成19年７月８日

社団法人日本速記協会機関誌「日本の速記」平成19年７月号に“第二次21世紀開発委員会「みんなの速記」小委員会答申”が出ました。
昨年10月の業界標準小委員会に続き、「みんなの速記」小委員会答申が小田尚男理

事長に提出されました。
　これは、同小委から第二次21世紀開発委員会の兼子次生委員長宛に提出され、同委員会の了承を得たものです。
　「国民の書記能力向上と発言記録作成の能率化を図る方法について」という付託事項に対し、７項目の具体的な提案がなされています。
　なお、検定制度見直し小委員会においても鋭意審議が進められています。
出典：社団法人日本速記協会機関誌「日本の速記」平成19年７月号より

ＨＰ「速記道楽」満４周年を迎えて

平成19年８月31日

　「道楽おやじ＆ブラック」コンビでＨＰ「速記道楽」を開店して満４周年を迎えました。
　本家で使用しているＯＣＮの容量（50ＭＢ）が少なくなり、分家の「速記道楽　保管庫」（忍者ツールシステムズ）をつくりました。
　古い原稿は随時「速記道楽　保管庫」へ移動しております。
　相棒と「速記道楽」を開店した当初は、専門的な内容だからアクセス件数が少ないだろうと思っておりましたが、予想以上に89,200件になりました。
　当サイトで取り扱っている内容は「手書き速記」全般ですが、古い資料はＰＤＦファイルで掲載しております。
　５年目はどういう原稿を掲載するかお楽しみください。

速記発表125周年

平成19年10月28日

　我が国では明治15年10月28日に田鎖綱紀が速記を発表してから、ことしで満125周年を迎えました。
　我が国では125年間にいろいろな式・案などが発表されました。
　速記方式を系統的に分けると「田鎖式系統」→「熊崎式系統」。「中根式系統」。「カナ速記系統」があります。
　基本文字だけで「複画派」「折衷派」「単画派」と分けるには問題がありますが、これは一応の分類方法です。
　現在使用されている速記方式の主流は「折衷派」と「単画派」です。
　どんな優秀な速記方式でも、指導者を養成していないところは自然消滅します。
　10年先には自然消滅する手書き速記方式がかなりあります。

平成19年を振り返って

平成19年12月31日

ことしは、「花子2007」付属の「花子フォトレタッチ３」で「画像ファイル」の反転ができるようになりました。

速記関係の資料作成では、「一太郎2007」で文字入力、スキャナで速記文字の取り込み、ＰＤＦ作成ソフトでＰＤＦファイルまで作業を行います。

「花子2007」付属の「花子フォトレタッチ３」で画像処理することもあります。

私の悪い癖ですが、マニュアルを見ないで感覚で操作を行います。わからなくなったときに初めて市販のマニュアルを開いております。ですから、使用しない操作はいつまでたっても覚えません。

平成20年の年賀状は「一太郎2007」と「花子フォトレタッチ３」で作成いたしました。

背景の速記文字の色は画像処理しております。元の色は「緑」です。

新しい年を迎えて

平成20年１月１日

新しい年を迎えました。

当サイトは８月31日で満５周年を迎えます。

当サイトでは、管理人と相棒は常に対等の立場で編集会議を行っております。我々はいろいろな通信手段を駆使して詳細な作業手順の確認体制を確立しております。

近日中に更新作業を予定しております。

中根式速記法教程〔サウスポー版〕１

平成20年５月５日

中根式では過去に左利きの学習者がおりました。左利きの学習者は大まかに下記のタイプがおります。

１．左手で通常の速記文字を左から右へ書く。(→)
２．左手で速記文字を左右反転して右から左へ書く。(←)
３．右手で通常の速記文字を左から右へ書く。(→)

中根速記学校の同期・北村裕司君は左利きですが、速記を書くときは右手で通常の速記文字を書いておりました。(→)

香川県立志度商業高校速記部では、同時期に左利きの部員が２人おりました。

池田起代子さんは、左手で通常の速記文字で左から右へ書いておりました。(→)

浜岡英生君は左手で速記文字を左右反転して右から左へ書いておりました。(←)

北村裕司君の場合は、右手で速記文字を書いていたので、右利きの学習者よりも速度的には不利でした。

平成18年３月29日に中根洋子著「中根式 速記の基本教程」をＰＤＦファイルへ変換しました。

平成20年４月１日に「一太郎2008」でＰＤＦ版「中根式速記の基本教法」〔サウスポー版〕（Ａ５判 56ページ）を作成しました。

左利き用の中根式を作成するために、平成19年12月にＰＤＦ版中根洋子著「中根式 速記の基本教程」を「Acrobat 8 Standard」で画像ファイル（JPEG）に書き出しました。ＰＤＦファイルから画像ファイル変換作業は簡単な作業です。

「Acrobat 8 Standard」の操作は、「ファイル」→「書き出し」→「画像」→「ＪＰＥＧ」です。

画像ファイルの図版部分を「読んde!!ココver. 12」でノイズ除去作業してからトリミングしました。図版に「001. 基本文字」と３桁の番号をつけると作業がしやすく、マイドキュメントを開いたときには「000～999」の順番で表示できます。

１ファイルごとに作業が終われば図版をフォルダの中に保存して削除します。

平成19年12月12日から25日に画像ファイルを「花子2007」付属の「花子フォトレタッチ３」で80枚の画像ファイルを左右反転しました。

「花子フォトレタッチ３」の操作は「編集」→「ミラー」→「左右」です。

左利き用の速記では、図版は右から左へ書くようにしていますが、国字と組み合わせるときにつまずきました。

左利きの人でも国字は左から右へ書いております。

平成20年３月29日から４月５日に「一太郎2008」で作成しました。

「一太郎2008」の操作では「挿入」→「絵」→「画像枠作成」→「行」です。

「一太郎2008」では、文字入力を行いながら画像挿入も行います。作業内容によっては画像を「枠を文字の背面に移動する」へ設定すれば、画像の上に文字入力できます。画像が文字の裏側にあるので、文字を入力後、行ごとにドラッグしてツールボックスの「文字を上にずらす」（Ａ↑）／「文字を下にずらす」（Ａ↓）の機能を使用して速記文字と国字が重ならないように国字を配置します。

「一太郎2008」では図版を挿入すると容量が大きくなるので、ファイルを６分割にして作成しました。

ＰＤＦファイルへ変換して、「結合」→「しおり作成」作業を行えば完成します。

中根式速記法教程〔サウスポー版〕２

平成20年５月５日

〔関連情報 １〕

ＰＤＦファイルから図版を再利用する場合は、

①「Acrobat 8 Standard」→「読ん de!!ココ ver.12」→「花子フォトレタッチ３」→「一太郎2008」→「Acrobat 8 Standard」。
②「Acrobat 8 Standard」→「一発！ OCR Pro5 for 一太郎」→「花子フォトレタッチ３」→「一太郎2008」→「Acrobat 8 Standard」。
③「Acrobat 8 Standard」→「読ん de!!ココ ver.12」→「花子フォトレタッチ３」→「一太郎2008」→「JUST PDF〔作成・高度編集〕」。
④「Acrobat 8 Standard」→「一発！ OCR Pro5 for 一太郎」→「花子フォトレタッチ３」→「一太郎2008」→「JUST PDF〔作成・高度編集〕」。

〔関連情報 ２〕
最初から図版を作成する場合は、スキャナを使用します。
①「読ん de!!ココ ver.12」→「花子フォトレタッチ３」→「一太郎2008」→「Acrobat 8 Standard」。
②「一発！ OCR Pro5 for 一太郎」→「花子フォトレタッチ３」→「一太郎2008」→「Acrobat 8 Standard」。
の手順でパソコンソフト（ワープロソフト、グラフィックソフト、ＯＣＲソフト、ＰＤＦ作成ソフト）の機能を駆使して作業を行います。

〔関連情報 ３〕
図版を左右反転しない通常の図版作業では、
①「読ん de!!ココ ver.12」→「一太郎2008」→「Acrobat 8 Standard」。
②「一発！ OCR Pro5 for 一太郎」→「一太郎2008」→「Acrobat 8 Standard」。
で行います。
＊ＯＣＲソフトの「読ん de!!ココ ver.12」／「一発！ OCR Pro5 for 一太郎」。
＊ＰＤＦ作成ソフトの「Acrobat 8 Standard」／「JUST PDF〔作成・高度編集〕」。
はいずれかのソフトで作業を行います。
図版作業で「ノイズ除去」作業を行えば肉眼で見えないゴミまで除去できます。
「ノイズ除去」作業は時間もかかりますが、「ノイズ除去」作業を行った場合と、行わなかった場合は雲泥の差が出ます。

〔関連情報 ４〕
＊キヤノン製スキャナ付属の「Adobe Photoshop Elements 5.0」（バンドル版）は、動作が重いので使用しておりません。
＊「一発！ OCR Pro5 for 一太郎」は、カラー画像の編集作業（ノイズ除去）に対応しております。
「一発！ OCR Pro5 for 一太郎」は、「一太郎2005」以降のソフトをインストールしていなければ、単体で動作しないジャストシステムの直販製品です。キヤノン製スキャナをセットにしたスペシャルモデルも取り扱っていました。

＊「読んde!!ココver.12」は、カラー画像の編集作業（ノイズ除去）ができません。モノクロの画像になります。

手書きで速記関係資料を作成していた時代でも、左利き用のテキスト作成が技術的には可能でした。

①ガリ版では、鉄筆でロウ紙の表側に国字を書き、裏側に速記文字を書けばできます。ガリ版の原版は一度謄写版で印刷すると使い捨てでした。

また、速記文字の図版だけ別に作成する方法もあります。表側に通常の速記文字を書き、印刷の段階で裏側に印刷できます。二度刷りの方法です。

②青写真では、製図用のロットリング（0.3ミリ）でケント紙の表側に国字で書き、裏側に速記文字を書きます。

ケント紙で作成した原版はコピー機でも使用できます。

速記界では左利きの学習者が少なかったので、左利き用のテキストを作成しておりませんでした。

現在は、パソコンソフトを駆使すれば「左利き用の速記テキスト」の作成が楽にできます。

一太郎ユーザーから見たＰＤＦ作成ソフト

平成20年７月10日

以下の文書ファイルをＰＤＦファイルへ変換しました。

文書１〔Ａ４判　422ページ　420,662字　3.34ＭＢ〕

文書２〔Ａ４判　626ページ　582,922字　1.512ＭＢ〕

＊文書１、文書２は連続文書です。ＰＤＦファイルを作成するために内容を分割しました。

合計1,048ページ　1,006,654字　4.86ＭＢ

いずれも「一太郎2008」の圧縮ファイルです。リコーの「TrueTypeWorld Value Font DX」を使用しております。「TrueTypeWorld Value Font DX」は、ＰＤＦ作成時にフォントの埋め込みに対応しておりません。

１．本文は「ＭＳ明朝体」、見出しは「ＭＳゴシック体」、表紙・中表紙はリコーの「ＨＧ高橋隷書体」を使用。

２．本文中に「速記文字」を挿入。カラー写真、モノクロ写真も挿入。

３．パソコン内に入っているフォント見本も作成。

下記の条件で各ＰＤＦ作成ソフトを使用しました。

１．すべてのフォントを埋め込む。

２．解像度600dpiで設定。

①「かんたんＰＤＦ編集」（インターチャネル）

文書１　5.96ＭＢ　　文書２　6.73ＭＢ

リコーフォントは別のフォントに置きかわりました。
②「pd M aker for Office」（エー・アイ・ソフト）
文書１　4.58ＭＢ　　文書２　6.46ＭＢ
リコーフォントの埋め込みができません。
③「PrimoPDF v3.1 日本語版」（エクセルソフト）
文書１　4.65ＭＢ　　文書２　5.01ＭＢ
リコーフォントの埋め込みができます。
④「Justsystem PDF Creator」（ジャストシステム）
文書１　45.02ＭＢ　　文書２　41.78ＭＢ
リコーフォントの埋め込みができます。
＊文書２は１回でＰＤＦファイルへ変換できなかったので、１～300ページ。301～626ページでＰＤＦファイルへ変換。作業後ＰＤＦファイルを結合。
⑤「JUST PDF〔作成・高度編集〕」（ジャストシステム）
文書１　4.35ＭＢ　　文書２　6.08ＭＢ
リコーフォントの埋め込みができません。
⑥「Acrobat 8 Standard」（アドビシステムズ）
文書１　2.42ＭＢ　　文書２　3.67ＭＢ
リコーフォントの埋め込みができません。
＊「一太郎」から「Acrobat 8 Standard」を選択すると「PDF Maker 8.0」ではなく、「Acrobat Distiller 8.0」が起動します。「PDF Maker 8.0」が起動するのは「ワード」及び「エクセル」です。

〔フォント埋め込みの確認方法〕
「Adobe Reader 8」でＰＤＦファイルを開きます。右クリックで「文書のプロパティ」→「フォント」の順番で開きます。
〔例１〕
HGTakahashiReishotai（埋め込みサブセット）
種類：TrueType（CID）
エンコーディング：Identiy-H
〔例２〕
HGTakahashiReishotai
種類：TrueType（CID）
エンコーディング：90ms-RKSJ-H
実際のフォント：ＨＧ高橋隷書体
実際のフォントの種類：TrueTypee
のいずれかで表示されます。
①〔例１〕のように「HGTakahashiReishotai（埋め込みサブセット）」と表示されていれば、フォントが埋め込まれております。

②〔例２〕のように「実際のフォント：ＨＧ高橋隷書体」と表示されていれば、フォントが埋め込まれておりません。
③作成したＰＤＦを「JUST PDF〔高度編集〕」で開くと埋め込みされていないフォントは「空白」で表示できます。

〔「TrueTypeWorld Value Font DX」のフォント埋め込み方法〕

前述のように「TrueTypeWorld Value Font DX」は、ＰＤＦ作成時にフォントの埋め込みができませんので、「Justsystem PDF Creator」及び「PrimoPFDF v3.1 日本語版」を使用します。

「Justsystem PDF Creator」だけでは、ＰＤＦファイルの容量が大きくなるので、全ページを「JUST PDF〔作成・高度編集〕」でＰＤＦファイルへ変換します。「TrueTypeWorld Value Font DX」を使用しているページを「Justsystem PDF Creator」及び「PrimoPFDF v3.1 日本語版」で変換します。「JUST PDF〔作成・編集〕」から「Value Font DX」を使用しているページ単位で「置換」します。

〔追加情報〕
①「TrueTypeWorld Value Font DX」（平成11年１月15日発売）
②「TrueTypeWorld Value Font D2」（平成12年４月28日発売）
出典： リコーホームページ
＊「TrueTypeWorld Value Font D2」は、ＰＤＦ作成時にフォントの埋め込みが可能。（和文50書体、欧文60書体）
＊「TrueTypeWorld Value Font D2」導入した際に「TrueTypeWorld Value Font DX」をパソコンからアンインストールした。
＊「Justsystem PDF Suite」は、「Justsystem PDF Creator」（作成）、「Justsystem PDF Editor」（編集）がセットになっており、平成20年３月に販売終了。
出典：ジャストシステムホームページ

速記用語について

平成20年８月29日

速記用語は下記の４つに分類できます。
①各方式共通の用語
「反訳」「原文帳」などは速記関係者がわかる用語です。
②中根式で通用する用語
「中間小カギ」「インツクキ法」などは中根式関係者ならわかる用語です。
③中根式でも通用しない用語
「冠上法」「抄下法」「加点インツクキ法」などは一部の中根式関係者しかわかりま

せん。

④各方式の速記用語

各式には独自の法則名があります。「依意省略」「簡字」（早稲田式）、「摘記法」「接記法」（衆議院式）、1936法（山根式）は、他方式の関係者にはわかりません。

ＨＰ「速記道楽」満５周年を迎えて

平成20年８月31日

相棒といろいろな通信手段を駆使し、ホームページの編集会議を行って満５周年を迎えました。

当サイトでは、開設当初から「速記文字」を掲載するという趣旨で行ってきました。アクセス件数も順調に11万件を突破しました。

植田裕先生の体系

平成20年12月31日

草創期（昭和15年～昭和24年）

１．昭和15年４月に香川県立高松商業学校（旧制中学）入学。当時の１年生は夏休みの３日間、恒例の速記講習会を受けなければならなかった。講師は国語の森一男先生（＊１）である。２学期に速記部に入部。昭和20年３月卒業。

２．昭和21年に「香川日々新聞社」に速記者として採用されたが、社名が間もなく「四国新聞社」となった。朝日新聞社と提携し、輪転機も朝日新聞社から持ってきて、編集局、印刷局の幹部は朝日新聞社の出向社員で占められていた。連絡部長は朝日新聞社の上月太郎さんで、森卓明門下の赤坂薫さんに速記を習った。四国新聞社時代に超中根式を習得したと推定できる。

＊１　旧制・高松商業学校速記部の設立者で速記部顧問。後に香川県立高松商業高校教頭。中根式大成者・中根正世先生に傾倒されていた。

出典：「美しき線を求めて」東京速記士会機関誌「速記時報」（昭和54年７月１日発行）

＊１）出典：「私と中根式（12）――植田と川田①――」川田秀幸　中根速記協会機関誌「速記時代」（昭和35年３月号）

第一期（昭和26年～昭和30年）

１．「中根式速記法原理」上巻 昭和26年11月、下巻 昭和27年５月３日発行 中根速記協会香川県支部

＊変則符号の新設〔清音…テ・ト・ス、長音…スウ・トウ・ユウ、ヨウ、ソウ、ホウ、拗長音…ヒョウ・キョウ・ショウ、拗短音…キョ・シュ・ショ、Ｎ尾音…（１ｕ）

ウン・ケン・コン・テン・ヘン・ホン・ロン・レン、（６ｕ）セン・シン、ク尾音（１ｕ）トク・コク・ソク、キ尾音（１ｕ）セキ・テキ〕。
＊超中根式で使用している「和語縮字法」（上段で使用）を「各行縮記法」として中段で使用した。
＊上巻は「縮記法」、下巻は「略記法」を掲載。
２．「中根式速記法教程」昭和28年７月発行　中根速記協会香川県支部
＊略記法を中心に作成。
３．「線頭の諸符号を除去した漢音縮記法」昭和30年９月20日発行　中根速記協会香川県支部機関誌 美しき線の流れ No. ２掲載
＊９ｕ長音、拗音記法、順記インツクキ法。
＊「変則符号」は、昭和30年に「特定符号」と改名。

第二期（昭和31年～昭和33年）
「曲線カ行斜線タ行」中根速記協会速記研究誌 ステノ No. ２掲載　昭和32年８月４日発行
＊香川県立高松商業速記部で昭和31年４月～昭和33年４月入学生が昭和35年３月に卒業するまで指導。
＊昭和32年入学の三野知子さんが書いたノート〔縮記法のみ〕を現物で確認済み。

第三期（昭和34年～昭和45年）
従来の法則に戻したが、基本文字（ス・ショ・キョ・チョ・リョ）の一部を変更。
＊昭和43年入学の田口京子さんが書いたノートを借りて書写。
＊「特定符号の１ｕＮ尾音」を変更。
＊「和語縮記法」に順記法を併用。
＊「小カギ順記法」昭和32年６月14日考案、昭和43年１月28日発表
＊「大カギ順記法」昭和32年６月14日考案、昭和43年１月28日発表（後にスミニヒカリシ記法へ発展）
＊「改訂特殊漢音縮記法」昭和43年１月28日

第四期（昭和51年～平成20年）
１．「符号の広がり」昭和54年２月10日の速記研究会発表資料
２．「中根式速記法における順記法の導入」昭和54年８月27日の速記科学研究会発表資料
３．「実践・植田速研ゼミ資料　ベーシック略符号練習文例」平成13年２月５日
＊「特殊漢音縮記法」を一部改訂　昭和54年２月10日
＊「逆流・反転・借用」
＊「Ｍ・Ｍ記法」（ミクロ・マクロ）
＊「加点法」の改訂

＊「スミニヒカリシ記法」
＊「ＳＦ・ＳＭ記法」（サインフリー化・サインマルチ化）昭和56年６月28日
＊「ゾーン記法」昭和58年１月９日
＊「アルファベット記法」昭和59年10月５日
＊「ナケレバナラナイ」の変化形を改訂 昭和59年12月24日
＊「楕円逆記法」昭和62年６月13日
＊「逆・逆記法」昭和62年６月18日
＊「加点スミニヒカリシ記法」

北海道へ渡った植田裕先生の体系

平成21年２月28日

私が植田裕先生の体系を書写したのは、昭和45年11月21日～23日です。

私は当時、Ｏ市議会で駆け出しの速記者でした。

先輩速記者の竹内富夫さん（中根式）から略字を習いましたが、余り役には立ちませんでした。

中根速記学校本科生時代に同期の横山誠（笠岡商業速記部出身）から高松商業速記部で使用していた速記文字について聞いておりました。

竹内さんに速記文字を研究するように言われておりましたので、高松商業速記部へ事情を書いて手紙を出しました。当時、速記部の３年生だった田口京子さんのご好意でノートを借りて書写しました。

植田裕先生が速記部で昭和43年４月から昭和45年３月に指導された、最後の法則体系でした。私が求めていた速記法則と一致しました。

私は体調を崩して入院中でしたので３日間で書き写しました。病気療養のためＯ樽市議会を11月30日に退職して〇〇市へ戻りました。

私は仕事の関係で２年間（昭和46年６月～昭和48年６月）札幌市に住んでおりましたが、この２年間の間に中根速記学校本科生時代に習った法則体系と植田裕先生の体系を折衷しました。

中根式速記協会機関誌「速記時代」の昭和48年２・３月号と４月号に「運筆の研究」と題して33名の同一文の速記文例が掲載されました。私が書いた文例は４月号に掲載されました。植田裕先生は、どのルートで北海道に高松商業の体系が流れているのか不思議がられ中根康雄先生に聞かれたそうです。

私は昭和45年５月15日に中根速記学校の研究科を中退したままだったので、再び上京して中根速記学校の研究科へ昭和48年７月１日に再入学しました。

植田裕先生とお会いしたのは昭和48年８月４日に中根速記学校で中根式速記協会の臨時総会が終わってから、中根康雄先生に紹介していただきました。

昭和48年８月11日に中根速記学校の入り口で待ち合わせをして午前０時30分までお

話をいたしました。このときから師匠と弟子の関係が始まりました。

東京速記士会に所属していたときには「速記実務競技会」では、植田裕先生が朗読、私が照合係というセットでした。

当サイトの「速記文字文例集」→「中根式速記文例集（同一文)」へ掲載済みです。

速記雑感　29-W-8

非売品

平成29年９月20日

著者　滝　鞍二

http://sokkidouraku.com/